

Ⅲ 地区館事業

令和元年度 指定管理事業実績

青葉区中央市民センター

〔沿革〕

青葉区中央市民センターは、昭和 40 年 4 月、市立東二番丁小学校に「仙台市市民教養センター」として開設され、昭和 61 年、小学校の全面改築に伴い廃止され、昭和 63 年 1 月に「仙台市中央公民館一番町分館」として開館した。平成 13 年 4 月、隣接の「アスピア一番町（勤労青少年ホーム）」を統合し、現在の「青葉区中央市民センター」としてスタートした。

市の中心部で交通の便が良いため、若い世代から高齢者まで昼夜を問わず利用率が高い。また、仙台市の日本語講座が継続的に行われていることから来館する外国人も多く、国際交流の場としても一翼を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	★●記憶、現在そして未来へ		
参加者	どなたでも	延参加者	82 人
開催日	全 7 回 8 月 3 日（土）～2 月 28 日（金）		
協力者・協力団体	若林区まちづくり推進課、せんだい 3.11 メモリアル交流館		
ねらい	東日本大震災から 8 年が経過し、忘れてはならない震災の記憶や未来に向けてのメッセージを発信することで、防災減災の意識を高め地域で生かす。		
概要・成果	せんだい 3.11 メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校、荒浜地区を巡るフィールドツアー、よみ芝居の観賞や井土メダカの講話を通して、受講生は震災の記憶を呼び起こし風化させてはならないことを再認識した。本講座は、平成 29 年度から開催しており、3 年間の受講生の学びの成果のまとめとしてハンドブックを作成し、当館のホームページで公開することができた。 また、講座をきっかけに若林区まちづくり推進部との連携により、震災の津波で絶滅危惧種となった井土メダカのパネル展を青葉区内の 3 館で開催するに至り、区を越えて広く発信することができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子人形劇観賞会	地域の幼稚園やその P T A と共催し、地域のだれもが鑑賞できる人形劇鑑賞会を開催した。未就園児親子が幼稚園生活を垣間見ることができる場を提供した。	10 月 3 日	1	169
子育てサロンーパンダくらぶ	子育てサロンを連続で開催し、参加者同士の交流や子育てに関する悩みを共有する機会を提供した。バランスボールエクササイズ、保育士さんに聞いてみよう！、写真講座、わらべうたの全 4 回。	10 月 17 日 10 月 29 日 11 月 14 日 11 月 21 日	4	70
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童や世話人が行事プログラムの作成やレクリエーションゲームの進め方を体験した。	1 月 25 日	1	39

外国語活動「ハロウィン集会」	東二番丁小学校の授業である外国語活動「ハロウィン集会」で、仮装して校内をパレードしながら、各国の文化についてのインタビューやダンスを通して留学生と交流をした。	10月30日	1	135
体験しよう！仙台七夕	仙台七夕の歴史、地元婦人会の方々の制作の様子の見学と交流、七夕飾りの制作を行う会社での仙台七夕大飾り制作現場見学、ミニ七夕作り。	6月14日 6月28日 7月4日 7月18日	4	36
あおばカレッジ	高齢者がいきいきと心豊かな生活が送れるような多岐にわたる内容で実施した。講話：四ツ谷用水再発見物語・令和の典拠万葉集をひも解く、実技：転倒予防・苔玉づくり、館外学習、国際交流、コンサート等。	5月17日～ 2月21日	9	365
町と心を結ぶ なかよし絵馬	東二番丁小学校児童と幼稚園児が地元の野中神社の由来を学習し、段ボールで絵馬を製作した。また、小学校児童は実際に地元の三社を巡り仙台の町割や各神社の歴史を学んだ。	6月7日～ 12月13日	5	301
まちなかつながりたい！	サンモール一番町を会場に地域団体や住民、企業、商店と協力し、「七夕 TANZAKU フェスタ」「のび☆ハロ@一番町」を開催した。短冊を書いて飾るブースの設置と乳幼児親子のハロウィン仮装でのパレード。	8月6日 8月7日 8月8日 10月25日	4	2,920
第16回ふれあい祭「和気藹々☆一番町」	市民センターを利用している各種サークルや団体、地域の幼・小・中学校の作品展示およびステージ発表。健康相談コーナーや出店、ダンスパーティ。	9月29日	1	1,280
一番町ミュージック♪タイム	ロビーを活用した気軽に参加できるミニコンサートを開催した。トーンチャイム、チェロの調べ、ピアノと管楽器のアンサンブル、尺八の世界。	7月11日 9月13日 11月9日 2月20日	4	190
青中懇話会	学校や地域団体、子育て機関、企業との情報交換の場を設け、地域課題について話し合った。また市民センター事業についての紹介をした。	6月20日 1月23日	2	25
まったりお茶の間文庫	ロビー図書の有効利用のために、蔵書の整理や配架スペースの検討、大人のためのおはなし会を開催した。	4月16日～ 2月18日	12	94

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

近隣商店街イベントへのコーディネート

近隣のサンモール一番町では、毎年クリスマスの時期に「CO2削減・省エネ in サンモール」を開催している。主催のサンモール一番町商店街振興組合よりオープニングセレモニーに出演する団体の紹介を依頼され、市民センターが仲介役となり、初めて五橋中学校合唱団が出演する運びとなった。

これまでになく大勢の観客が集まり、商店街振興組合にも大きな成果をもたらした。五橋中学校にとっても地域イベントへの出演は大変喜ばれる結果となった。

柏木市民センター

〔沿革〕

柏木市民センターは、昭和 61 年 7 月に旧仙台女子高等学校の校舎を改修し、中央公民館柏木分館として開館した。平成元年の政令指定都市移行とともに、「柏木公民館・市民センター」として独立、そして平成 2 年には名称を「柏木市民センター」とした。その後、施設の老朽化のため平成 7 年 4 月から一時休館して改修工事を行い、平成 10 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設した複合施設として新たに開館した。施設の特徴としては、収納式のステージをもつ多目的ホール、会議室、和室等に加え、広いロビーがあり、地域住民の学習・スポーツ・交流の場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「へくり沢散歩道」と水路を活用した地域づくり事業 ー 八幡町・柏木・通町、水の道で地域をつなぐ ー		
参加者	成人	延参加者	193 人
開催日	全 10 回 6 月 7 日（金）～9 月 29 日（日）		
協力者・協力団体	東北文化学園大学、八幡児童館		
ねらい	かつて、柏木八幡地区を流れていた「へくり沢」は、高低差がある特有な地形を有し、伊達政宗が青葉城を築城した時代に、交通の難所として名高い場所であった。しかし、震災復興や都市化を経て、現在は、こうした地域の特殊性は見えにくいものとなっている。当市民センターでは、地域の地理的・歴史的な特徴を次世代や地域の方々に伝えるため、地形模型やジオラマ、ウォーキングマップ、案内板などを製作し、地域住民とともに学習・調査等を行ってきた。令和元年度は、この地域を流れる水路に視点を広げ、講演会、現地探訪、公開講座を開催し、交流の機会を提供しながらコミュニティづくりを目指した。		
概要・成果	四ツ谷用水を主なテーマとして仙台の水路遺産について学んだ。四ツ谷用水の取水口から梅田川までたどるフィールドワークのほかに用水沿いの除草作業、ワークショップ、国際センター駅青葉の風テラスでの公開講座「まち de 水辺ワークショップ」を開催した。へくり沢も四ツ谷用水も暗渠化されて、かつての水の流れを見ることはないが水路跡や地形をたどることで地域の魅力を知り、現在そして未来の暮らしを考える機会となった。地域を流れるかつての四ツ谷用水を見てみたいという参加者からの声を受けて清掃活動を行ったり、参加者が公開講座の運営に携わったりしたことで、参加者同士の交流も深まり、さらなる学びへとつながった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柏木ワンダーランド	小学生を対象に体験型の講座を実施。ワケルくんバスに乗りゴミ分別の正しい方法を学んだ。また仙台市天文車ベガ号に来てもらい、冬の星座の観察会を行った。	7 月 26 日 12 月 6 日	2	68
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化のために世話人を対象とした講話と情報交換、次期リーダーとなる児童を対象とした演習、実技を行い、子ども会活動の意義や運営方法を学習した。	1 月 25 日	1	43
●仙台伝統ものづくり塾共催事業「仙台職人のワザに触れよう」	仙台みそと、お菓子・お茶をテーマに食文化と歴史を学んだ。前年度仕込んだ仙台みそのお披露目会は、地下鉄東西線国際センター駅で開催した。	9 月 14 日～ 2 月 27 日	5	173

柏梁学院	高齢者がいきいきと心豊かな生活を送れるよう音楽、歴史、仙台の文化など幅広い内容について学んだ。	4月17日～ 2月5日	11	656
通町地域防災講座	通町小学校と連携し、地域住民と小学生が防災について学ぶとともにAEDや煙、消火器体験を行い、知識や技術を身に付けた。町内会の方々もAEDの使用方法や普通救命法、いざという時の対処法を学習した。	6月29日 7月24日 12月20日	3	245
第16回柏木ふれあいまつり	町内会、市民センター利用団体で組織した実行委員会を中心に開催した。ステージや展示・体験コーナー、出店ブースを設け、地域団体、地域の学校も連携し、実施した。	10月6日	1	500
●てらまちフェスタ 2019—あそびでつながるまちづくり—	秋休みの通町小学校を会場に地域団体が遊びのブースを出して住民同士の交流を図った。座禅体験、吹奏楽演奏、神楽、工作コーナー、食のコーナーなど子どもから大人まで楽しめる内容を実施した。	10月16日	1	500
まざらいん柏木	市民センターに足を運ぶのが難しい地域の高齢者を対象に地域の集会所などを会場に、出前講座として健康づくり、三味線コンサートを開催した。	6月21日 7月12日 11月17日	3	48
柏木地域懇談会	担当地域内の児童館や小中学校、地域団体との懇談会では、各々の事業等について情報交換を行うとともに、センター事業をよりよくするための提案等を伺い、また、地域情報を共有した。	7月5日 9月20日 11月22日	3	15
八幡 Fan-Fun まち歩き	まちあるきを通して交流の機会を作り、地域理解を深めた。写真撮影をしながらまちあるきをし、その写真を活用した展示やマップ作りのワークショップを行い、地域の魅力を発見、発信した。	6月18日 7月23日 11月3日 11月4日	4	35
市民企画会・八幡ファン会議	八幡地区の魅力を発信し、地域理解を深める講座の企画を通して、地域理解を深め、地域活性化に関心を持つ人材を増やした。	4月2日～ 11月4日	9	25

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

地域児童館・小学校に対しての連携の仲介及び調整

柏木地域は歴史資源が多く、市民センターではへくり沢や四ツ谷用水などの案内や伝承を行う人材の発掘と育成に取り組むとともに、地域の魅力を発信するため「へくり沢散歩道事業」を行ってきた。この事業に関わった参加者が小学校や児童館の要請を受けてボランティアガイドとして活躍した。他にも各団体から依頼があればボランティアガイドへつなぐコーディネートを行っている。

また、お寺の境内にある柿を使った行事を行うための柿もぎや凧作りの講師紹介の依頼を受け、地域の方を講師として紹介した。通町小学校 2 年生を対象とした凧作り体験では講師から様々な種類の凧を紹介していただき、子どもたちにとって伝統的なものづくりに触れる良い機会となった。

北山市民センター

〔沿革〕

北山市民センターは、昭和49年7月に北山福祉会館として設置され(所管は仙台市社会福祉協議会)、平成元年の政令指定都市移行に伴い「北山市民センター・公民館」となり、平成2年には「北山市民センター」と名称を改めた。地域の生涯学習の拠点としての機能を果たしてきたが、施設の老朽化に伴う改築後、平成23年1月に再開した。

地域内には、青葉神社、大崎八幡神社、北山五山などの神社仏閣があり、歴史的・文化的資源や緑に恵まれている。また、東北福祉大学や東北大学国際交流会館の立地により、若者や外国人の居住者が多い。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	託児付き子育て応援講座 ママのための自由時間		
参加者	おおむね1歳半以上の幼児と保護者	延参加者	22人
開催日	全4回 6月11日(火)、6月25日(火)、11月19日(火)、11月26日(火)		
協力者・協力団体	託児ボランティア「さくらんぼ」		
ねらい	共働き家庭の増加や、地域でのつながりの希薄化の中で、育児による負担感・閉塞感解消のため、身近に安心できる子育ての場が求められている。講座を実施することで、参加者同士の交流を促し、心身ともにリフレッシュし、子育ての楽しさを再認識する場を提供する。		
概要・成果	令和元年度の子育て講座は、別室託児とし、母親たちのリフレッシュや交流の場を作ることに重きをおいた。ほとんどの参加者から「講座に集中できて、よい気分転換になった」という感想が聞かれた。また、近隣の東北福祉大学で幼児教育を学ぶ学生たちが見学に訪れ、学生ボランティア団体の自主企画の開催につながった。		

〔令和元年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
通町小学校連携講座 「わたしのまちの歴史講座」	通町小学校5年生の総合学習の一環として、市民センターより立ち上がり活動している北山ガイドボランティアと一緒に地域の寺院を見学し、その歴史的価値を学習した。	6月7日	1	68
インリーダー研修会	子ども会活動の活性化を目的に、5年生児童・世話人それぞれに研修を行った。児童はリーダーとしての自覚が芽生え、世話人は子ども会運営への理解を深めた。	1月25日	1	43
北山市民医学講座	地域のクリニック・国見地区連合町内会と連携して医学講座を開催した。「耳」「高齢者の歯」「関節リウマチ」「嚥下障害」について取り上げ、参加者は熱心に受講した。	5月22日 7月24日 9月25日 11月27日	4	183

北山シルバースクール 2019	昭和音楽史、国際交流、落語鑑賞、キャッシュレス還元システムに関する時事講座等。また伊達家の家紋の「もんきり」をし、市民センターまつりで展示する等、様々なテーマを意欲的に学習した。	5月24日～ 2月28日	9	338
★●北山地区合同防災訓練―北山補助避難所訓練―	「北山市民センター補助避難所運営マニュアル」に基づき、国見地区連合町内会東部ブロックで実施する防災訓練の中で災害時要援護者を対象にした補助避難所訓練を地域住民と行い、各自の役割を学習した。	7月10日～ 11月26日	6	88
第12回北山交流まつり	地域の「まつり」として地域コミュニティの活性化を図るため、周辺町内会や中学生・大学生に留学生の協力を得て、地域住民及び参加団体が主体となって、オープニング・展示・ステージ・出店等各部門で開催した。	10月20日	1	600
地域懇談会	市民センター事業や施設管理への理解促進を図り、地域課題を把握するため懇談会を実施した。	6月18日 11月9日	2	25
市民企画講座「北山納涼祭―おばけ寺」	「北山納涼祭―おばけ寺」のテーマの下、参加団体が工夫を凝らし、センター全館を使ったイベント会場を作り上げ、当日は親子連れを中心に約200名の来場者でにぎわった。	8月25日	1	195
北山地区ガイドボランティア次世代養成講座	次世代に繋がる担い手づくりのための養成講座を実施した。新人ガイドが定着できるようガイド事業全般の実務体験学習をし、既存のガイドボランティアから指導や助言を受けた。	4月10日～ 11月13日	9	115
市民企画会議「おばけ屋敷プロジェクト」	学生が企画員となり「北山納涼祭」を企画運営した。企画会議では、参加を依頼した団体やジュニアリーダーの意見を参考にしつつ、団体同士の交流も図り、鋭意準備を進めた。	6月30日～ 9月8日	7	51

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

東北福祉大学「子育て支援プロジェクト ママサプリ」の活動支援

幼児教育を学ぶ学生たちのボランティア団体「ママサプリ」の自主企画開催の支援を行った。平成30年度に団体側より「市民センターで、地域の未就学児親子が共に楽しめる企画を開催したい」という申し出があった。市民センターは、会場の提供や広報の支援（チラシ印刷、センターだより掲載）を行い、学生たちによる「親子リトミック」と「工作」といった親子向けのイベント開催につなげた。

福沢市民センター

〔沿革〕

福沢市民センターは、昭和 59 年 6 月 9 日、コミュニティ防災センターを併設し、開館。平成 20 年 6 月より大規模改修工事を行い平成 21 年 1 月 14 日に再開した。

当市民センターの地域内は、東照宮の門前町として栄えた宮町を中心として歴史を感じる雰囲気をもとに、下町情緒に溢れている。反面、仙台市中心部からも近く、マンションも建ち並び新旧住民が混在した地域でもあり、ここ数年地域の総人口は増加に転じている。また、地域内に復興公営住宅が 2 カ所建設され、地域コミュニティの形成がより重要となりつつある中で、地域の交流の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	防災は当たり前！その時どうする？		
参加者	乳幼児親子、小学生、中学生、地域住民	延参加者	1,061 人
開催日	全 5 回 令和元年 6 月 22 日(土)～令和 2 年 1 月 24 日(金)		
協力者・協力団体	五城中学校、北六番丁コミュニティ児童館		
ねらい	一人ひとりが災害発生時にどのように対応すればよいか考え、行動することができるように、個人の「そなえ」の意識を高め、地域の防災力を高める一助とする。また、対象を年代別にすることで、様々な世代が年代に応じた知識やスキルを身につける機会とする。		
概要・成果	地域全体で各世代を対象に、ライフステージに合わせた内容で開催したことで、災害への「そなえ」は特別なものではなく、日常的に行うことが大事であるということが認識される機会となった。特に、中学校への出前講座では、地域住民の参加もあり、講座当日は町内会長や諸団体等地域の方々と中学生が共に学び、交流が図られる場となった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
エンジョイ！こどもひろば	夏休みに近隣の児童館と連携し、体育館での運動遊び等を行った。また、2 月には科学実験や運動レクリエーションを児童館で行い、小学生には体験を通じて豊かな経験の場となった。	7 月 30 日 8 月 8 日 2 月 8 日 2 月 22 日	4	120
仙台市インリーダー研修会	子供会のリーダーとなる児童と世話人が、心構えや行事の立て方などの知識や技能の習得と、レクリエーション・ゲームのやり方を実践を交えて学んだ。	1 月 18 日	1	60
福沢シニア大学	地域史、健康講話や体操、文化などの講座の他、館外学習などを実施した。講座で制作した作品は市民センターまつりで展示した。また班懇親会や新年会を通じて親睦を図った。	4 月 18 日～ 2 月 20 日	10	514
図書室を楽しもう	図書室の窓際にグリーンカーテンを作り、過ごしやすい空間づくりをした。本にまつわるおやつや折り紙の講座を行い、子どもから大人まで楽しんだ。また、修繕方法も学び、本を大切に作る気持ちも養った。	5 月 29 日～ 1 月 22 日	5	55

ご近所応援団～ホッとひと息カフェ♪～	月に1回、認知症に関する一つのテーマについてのワンポイント講話を行い、理解を深めた。カフェタイムでは専門家への相談や、参加者同士の情報交換等を通じた交流も図られた。	5月10日～ 2月21日	10	294
わが町再発見	仙台伝統の七夕飾り作り、乳幼児親子向けのミニ七夕飾り作り、地域の歴史講話や地域探訪を行った。町内会と連携し、ミニ散歩や折り紙講座等も開催。地域を知り、愛着を深めることができた。	6月19日～ 3月1日	7	186
社会学級共催事業企画会議	管内3つの小学校社会学級と連携し、食や栄養に関する講座の企画と運営を行った。	6月28日～ 10月29日	6	36
第30回福沢市民センターまつり2019	市民センター利用サークル・団体、地域住民や近隣の児童生徒等が、作品展示や舞台発表、出店販売、体験コーナー等を通じて交流し、地域活性の場となった。	11月17日	1	1,000
福沢懇談会	地域の住民や諸団体との懇談を通して地域の問題を捉え、それを活性化するための意見や要望を交換することで市民センター事業や運営に反映させた。	6月8日 1月31日	2	22
市民企画会議「音楽交流会」	大人企画員とママ☆ボラ（ママさんボランティア）企画員が、それぞれに音楽を通して地域住民が交流できる催しを主体的に企画、開催した。	5月17日～ 2月26日	12	61
社会学級共催事業「おいしい食事～さかなで元気！」	「おいしい食事～さかなで元気！」と称して、魚の扱い方や調理法を実習を通して学び、食生活の見直しや食べることの楽しさを学んだ。	9月27日	1	30
市民企画講座「音のゆうえんち」	大人編では季節のコンサートを、子ども編では「音のゆうえんち」を開催し、幅広い世代が音楽を楽しんだ。また「懐かしの昭和歌謡コンサート」を出前講座として開催し好評を得た。	9月10日～ 3月7日	6	249

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「福沢ちえ袋の会」の活動支援

福沢ちえ袋の会は、平成19年度から福沢市民センターを中心に節句の飾り等を指導するボランティアとして活動が続けている。もともとは、地域内の小学校・幼稚園・保育園・児童館等で児童・園児・幼児に「むかし遊び体験（お手玉・割りばし鉄砲・紙とんぼ等の遊び用具の仕組みの学習・制作および実演）」の要請を受けて、その都度活動していた。会員の高齢化と会員数の減少により要請に応えられなくなるという課題を抱えているが、市民センターの講座と連携して毎年定期的に実情に合わせて無理のないように工夫している。

派遣についてはこれまでの福沢市民センターによる仲介に加え、直接依頼されることも増え、長年にわたる活動が地域へ浸透してきているようである。

旭ヶ丘市民センター

〔沿革〕

旭ヶ丘市民センターは、地下鉄南北線建設事業の一環として昭和 60 年 6 月に開館した。地下鉄・バスの利便性が非常に良い立地にあり、また近隣は日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）、スリーエム仙台市科学館、仙台文学館等の学術文化ゾーンとなっている。さらに西側には市民から親しまれている台原森林公園が広がり自然環境にも恵まれている。当市民センターは、年間利用者が 10 万人近いことから市内全域を視野に入れ、現代社会における課題を踏まえ、地域資源・人材を活用した事業展開を推進し、多様なニーズに対応する生涯学習の場を提供するとともに、地域コミュニティの基盤としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	交差する街「旭ヶ丘」		
参加者	成人	延参加者	69 人
開催日	全 6 回 7 月 11 日(木) ～ 10 月 3 日(木)		
協力者・協力団体	仙台交通株式会社、仙台市営地下鉄東西線荒井車庫、せんだい 3.11 メモリアル交流館 東北大学理学部自然史標本館、清浄光院、北山ガイドボランティア		
ねらい	時代の流れと共に変化してきた旭ヶ丘の交通について学び、住民にとって当たり前になっている旭ヶ丘の利便性を再認識し、学んだことを地域に発信することで、住民の連帯感と呼び起こすことを目的とする。		
概要・成果	講話で地下鉄開業工事に携わった講師から、南北線建設時の台原トンネル工事の話や地下鉄とバスとの結節、バスターミナルについて等、特に旭ヶ丘に関係が深い部分の話を聞いた。また、実際に地下鉄やバスに乗って荒井・八木山・東照宮方面へ出かけ、学習を深めた。その成果をリーフレット「旭ヶ丘からでかけてみよう！」にまとめ、10 月の市民センターまつりにおいて、地域住民へ地域の魅力を発信することができた。市民センターまつり以後も、窓口でリーフレットを求めて来る住民がいる等の反響があった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子で楽しもう！台原森林公園	台原森林公園で双眼鏡を用いてのバードウォッチング、自然散策を行い、参加者同士交流をした。また講師から鳥や植物について教わり、新鮮な体験をする中で親子の絆を深めた。	11 月 30 日	1	10
旭ヶ丘探検隊	小学生を対象に、台原森林公園でのホタル自然観察会・日立システムズホールで働く人への取材見学・町内会の方たちと一緒に書きぞめの練習等を実施した。	6 月 15 日～ 12 月 21 日	5	99
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動充実のために児童はゲームの進め方と実践、世話人は役割と活動のアイデアを学び情報交換をした。また行事で使えるゲームをジュニアリーダーと一緒に全員で行った。	1 月 25 日	1	63

旭ヶ丘老壮大学	高齢者向けに、歴史・エンディングノートについて・ラジオ体操・シルバー川柳・肺炎について・ナイスエイジングな食事学・中学の音楽の授業・映画について等、講話や実技を行った。	4月19日～ 2月7日	12	884
市民センターがやってくる	管内の町内会集会所を会場にして、プロに教わるコーヒー教室、オカリナミニコンサート、音楽リハビリ療法による軽体操、サロンボランティアによるハンドマッサージを実施した。	7月25日 11月7日 11月14日 12月5日	4	89
★災害につよいまちづくり	避難所運営訓練に向けて、SBLによる会議や全体会議を開催した。6月の訓練では、各町内会、小学生、中学生による簡易トイレ組み立てや非常時用水訓練等を行った。	4月11日～ 2月20日	7	251
旭ヶ丘の魅力	企画員が年間計画を立て、企画会議・まち歩き・下見などの学習会を行った。その上で歴史に関する公開講座を企画・運営した。次年度の公開講座開催に向け、準備をしている。	4月17日～ 12月18日	9	63
旭ヶ丘市民センターまつり	地域住民、市民センター利用サークルによるまつりを実施した。内容はステージ発表、作品展示、健康相談、休憩コーナーの運営、センター事業成果報告等。	10月19日 10月20日	2	2,800
旭ヶ丘地域懇話会	5月と1月に地域の町内会、教育施設、各種団体等の参加を得て、市民センターの講座実施方針を説明した。また、それぞれの団体や旭ヶ丘地域の抱える課題について情報交換をした。	5月23日 1月23日	2	32

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「森のおもちゃ図書館」の活動支援

「森のおもちゃ図書館」は、布のおもちゃの作成、布絵本の制作と読み聞かせ、布おもちゃによるあそびを提供しているボランティア団体で、旭ヶ丘市民センター開館時から当市民センターを拠点に活動している。

令和元年度は、小学生対象の市民センター主催講座でポーチづくりの講師を依頼したり、外部からのおもちゃ貸出しに関する問い合わせの取り次ぎや、市民センターホームページで活動を紹介する等の支援を行った。

近年はメンバー不足の問題を抱えていることから、市民センターだよりに活動紹介と共にメンバー募集の記事を掲載した他、年度初めに作成しているメンバー募集を行っているサークル情報の一覧にも掲載し、メンバーの増加につながった。

三本松市民センター

〔沿革〕

三本松市民センターは、北仙台駅から近く、閑静な住宅街である堤町の中に位置し、西側には野鳥や山野草に恵まれた三本松緑地公園が隣接している。堤町は、現在は窯の火は消えてしまったものの、古くから「堤焼き」と「堤人形」の町として知られた歴史のある地域である。

当市民センターは、昭和 62 年 4 月 1 日、泉ヶ岳を眺望できる高台に建設された。駐車場(35 台)、舞台付で約 50 畳の和室と広い体育館(バスケットボールコート 1 面、バレーボールコート 2 面、卓球台 9 台)があり、地域住民の生涯学習の場として広く利用されている。平成 27 年度に大規模修繕を実施し、平成 28 年 4 月に再開した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	三本松寺子屋		
参加者	小学生（講座によりその保護者）	延参加者	153 人
開催日	全 6 回 7 月 23 日（火）～2 月 9 日（日）		
協力者・協力団体	台原小学校、台原児童館、荒巻マイスクール児童館、台原学校支援地域本部、明泉ぱれっと、仙台市パドルテニス協会 ほか		
ねらい	地域の小学校、児童館と共催して、子どもたちの健やかな育ちを支える学びの場、体験の場、交流の場を提供し、子ども達が同年代の仲間づくりや地域を学ぶ機会とする。		
概要・成果	台原小学校で絵手紙、パドルテニスを、荒巻マイスクール児童館で人形劇を、台原児童館と共催でクッキング、三本松緑地を活用した散策とリース作りなどを開催した。台原地区では台原学校支援地域本部の協力を得てより多くの子どもたちが参加し、普段学校ではできない体験や他学年との交流の機会となった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●子育て支援講座「ママ☆ピヨひろば」	親子での触れ合いが図れる「親子ピクス」「ベビーマッサージと手遊び」託児付講座「夏野菜で作る気軽レシピ」を開催した。	6 月 6 日 7 月 4 日 8 月 1 日	3	53
インリーダー研修会	児童向けには、実技『ゲームを作ってみよう・やってみよう』、世話人向けには、講話と情報交換『子ども会活動と世話人の役割』を実施し、最後にジュニアリーダーによるレクリエーションゲームを実施した。	1 月 25 日	1	63
●防災講座	家庭での食材等の備蓄方法、常備菜による保存食調理について学んだ。	6 月 28 日	1	12
三本松老壮大学	発酵学・川柳・合唱・貼り絵・介護予防講座・コンサート・日本舞踊鑑賞と体操・スローエアロビックなどの講話と実技、また、館外学習を実施した。	5 月 8 日～ 2 月 5 日	9	351
堤町再発見～堤町まちものがたり 2～	地域探訪の方法や堤人形絵付けなどを学び、地域を歩いて地域の方の話を聞いて取りまとめた。	5 月 16 日～ 2 月 20 日	11	138

三本松ロビーコンサート	そらとぶクレヨンによるふれあいあそびのショー、読み聞かせと篠笛コンサート、アイリッシュハーブコンサートを開催した。	7月3日 9月14日 11月9日	3	142
三本松市民センターがやってくる	台原地区社協主催のサロンにて「認知症に関する講話」、杜の都信用金庫北仙台支店にて「春のペーパークラフト作り」を実施した。	10月24日 2月6日 2月13日	3	29
ティータイムサロン in 三本松 市民企画講座 相続について学ぼう	40年ぶりの法改正を行う『相続法』について学び、質疑応答を経て、相続に関する疑問や不安な点を解消した。	1月22日	1	19
図書まつり	川柳募集やリサイクル本の展示、しおりコーナーのほか、「チョコレートの講座」「幼児向け人形劇」「篠笛と朗読コンサート」を開催した。	9月12日～ 10月12日	5	346
三本松市民センターまつり	三本松市民センターで活動しているサークルや個人が、学習成果を発表して交流を深めた。食品販売や、健康コーナー・子ども科学実験コーナーも行った。	10月12日	1	605
三本松地域懇話会	市民センター利用者から要望・意見等を収集し、問題・課題を共有した。	7月6日	1	10
市民企画会議 ティータイムサロン in 三本松 三本松を盛り上げよう	地域の方に市民企画員として参加してもらい、会議を重ね検討の後、講座「相続について学ぼう」を企画し実施した。	5月21日～ 1月22日	5	22

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「三本松緑地公園愛護協力会」、「三本松べじたぶる」の活動支援

三本松市民センターに隣接する三本松緑地では、地域で結成された「三本松緑地公園愛護協力会」が清掃活動などを行っている。協力会は、秋に大量に発生する落ち葉を利用して堆肥を作っており、市民センターのコーディネートにより、市民センターの講座から立ち上がった野菜作りサークル「三本松べじたぶる」が野菜作りに活用している。

片平市民センター

〔沿革〕

片平市民センターは平成元年、児童館とコミュニティ防災センターを併設して、東北大学農学研究所跡地に開館した。市内中心部に位置し、交通が便利なことから町内会など地域の団体ばかりでなく、全市的な市民活動の場として盛んに利用されている。

また市民センターが立地する地区は、市街地にありながら広瀬川がつくりだす独特な地形と、仙台城や経ヶ峯の豊かな自然に囲まれたところである。さらには歴史的な資源に恵まれ、大学の研究機関などが隣接する。

こうした地域の資源を活かした生涯学習プログラムの提供や、市民の自主的な活動の支援、併設する児童館との共催事業の提供を通して、地域に貢献している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなで創ろう片平コンサート		
参加者	企画会：地域の合唱サークルの代表者 コンサート：どなたでも	延参加者	239 人
開催日	全 4 回 企画会・反省会：9 月 7 日（土）、10 月 12 日（土）、11 月 30 日（土） 片平のひびき～歌声コンサート：11 月 30 日（土）		
協力者・協力団体	地域の合唱団体、片平児童館		
ねらい	片平市民センターを利用している合唱団体から企画員を募り、地域住民が市民センターに来館するきっかけづくりとなるコンサートを企画、開催する。また、合唱団体メンバーが自らの学びを活かして地域住民が楽しむためのコンサートを創ることで、サークル間の交流を深め、地域貢献の意識向上を目指す。		
概要・成果	片平市民センターを利用している合唱団体の代表者による企画会で詳細を決定し、「片平のひびき～歌声コンサート」を実施した。コンサートでは、片平児童館ミュージックベルクラブが 7 つの合唱団体とともに演奏を披露するなどして大盛況だった。 年度当初から企画会の案内を行うなど周知に努めた結果、企画員やコンサート参加団体も増えた。企画会では、より完成度の高いコンサートを目指す企画員の意見に寄り添いながら具体化を進め、聴きごたえのあるコンサートを実施することができた。 また、コンサートを目的に市民センターから遠くにお住まいの市民が来場するなど、市民センターに足を運ぶきっかけづくりとしても効果があり、音楽を通して地域を越えた市民の交流の場となった。参加団体も日頃の練習の成果を多くの市民に披露したことで、自らの学習や社会貢献意識を高めた。さらに、参加団体同士や地域住民との交流も深まった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	児童を対象とした「危険予知トレーニング」や、世話人向け講話「子ども会活動と子ども会と世話人の役割」「情報交換」、参加者全員での実技「レクリエーションやゲームの進め方」を学んだ。	1 月 25 日	1	39
かたひらきっずらんど	9 月は宮城県美術館の探検、11 月は片平公園の清掃活動・マシュマロサンドづくり、2 月は宮城県工業高等学校においてもものづくり体験を行った。	9 月 28 日 11 月 9 日 2 月 1 日	3	60

広瀬川界限ぶらり散歩	ボランティアガイドの案内で広瀬川を中心とした片平地域（花壇大手町コース・米ヶ袋コース）の散策をした。ガイドによる説明だけでなく、広瀬川展示コーナーの活用や仙台にまつわる紙芝居を披露した。	5月18日～ 2月15日	6	180
片平シニア麟経大学	昭和の仙台、認知症、文学、聴覚障がい等の講話、ウォーキングの実技、レコードコンサートを実施。館外学習では県警察本部庁舎を見学した。受講者による企画講座では、半導体研究の西澤潤一先生について学んだ。	5月9日～ 2月13日	9	411
地域の宝みんなの片平公園	春と秋にイベント（花壇作り＆ネイチャークラフト、落ち葉掃き＆マシュマロサンドづくり）を実施。また、片平丁小学校6年生のまちづくりを考える学習で、公園の清掃や花壇づくり活動等を行った。	5月11日～ 11月22日	6	254
★楽しく学ぼう地域防災「避難所づくりをシミュレーション」	地区合同防災訓練でのペット防災学習・防災すごろく体験ブースの出展やハザードマップ学習会を実施した。また、地域主催の防災イベントと連携し、運営支援を行った。	6月29日 9月29日 11月10日 12月21日	4	504
かたひら waiwai 広場	舞台発表・展示発表・遊びのコーナー・バザー・健康チェックコーナー・出店等で開催した。	10月26日	1	1,100
片平市民センター懇話会	市民センターの事業紹介及び実施報告、協力依頼、地域団体との意見交換及び情報交換を行った。	6月21日 9月28日	2	43
片平ひだまりサロン	ボランティア養成とスキルアップを目的とした学習講座や市民センターでのサロン、地域イベントでのブース出展を実施。	4月10日～ 2月12日	20	236
盛り上げよう地域のイベント	片平地区まちづくり会主催の夏祭りで盆踊りを踊るボランティアや、餅つき大会でもち米を蒸かすボランティアを募り、伝統技術の継承と地域の祭りの活性化を図った。	8月9日～ 1月18日	5	171

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「片平公園お花の会」の活動支援

平成28年度に実施した地域力創造支援事業「地域の宝みんなの片平公園」終了後、平成29年度に「片平公園お花の会」が結成され、令和元年度には自主的な活動を展開するまでに至っている。

片平公園を会場にした春と秋のイベントを、市民センター・児童館が連携して実施することで、会の活動を市民にPRすることができた。

また、市民センターが片平丁小学校と会をコーディネートして実施した6年生の総合的な学習「まちづくりを考える」では、会員が講師となり「児童が自分たちで考え、行動する」という学習の目的を理解して接することに努めた。その結果、児童は自発的に行動し、次々と活動を広げていくことができた。児童の成長を目の当たりにした会員は、児童との活動が励みになり、地域貢献ができたことを実感している。

水の森市民センター

〔沿革〕

水の森市民センターは、広く市民の憩いの場として親しまれている自然豊かな水の森公園の水の森入口に立地している。管内は昭和 30 年代半ばから宅地開発が進んだ水の森、東勝山、桜ヶ丘、川平等の閑静な住宅地を擁する地域である。

当市民センターは、児童館・温水プール・コミュニティ防災センターを併設する複合施設として平成 2 年 9 月にオープンした。斬新な外観の施設は地域のランドマークとして親しまれ、一年を通して多くの利用者が訪れる。2 階の広いロビーは、地域住民の情報交換や憩いの場として高齢者から幼児まで常に賑わいをみせている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★「みんなのつながりがチカラになる防災講座—学ぶ・体験する—」		
参加者	どなたでも	延参加者	66 人
開催日	全 5 回 7 月 12 日（金）～12 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	北仙台女性防災ネット・北仙台小学校社会学級・宮城学院女子大学 Food and Smile		
ねらい	地域団体の高齢化や顔の見える関係づくりの促進に対応するため、防災を多方面から考え、地域の方に向けて防災学習や体験を行う。毎年継続して防災講座を行うことで「備え」や「知識」を身に付ける。また、地域の団体と連携することで、顔の見える関係づくりの一助となり、受講生が地域の自主防災の新たな人材として活動を行えるようになる。		
概要・成果	この事業は平成 30 年度から開催しており、2 年目となる令和元年度は、普段の生活で防災を意識できるよう「大雨」「調理」「家庭内の安全安心」等、多方面から防災について考える機会を設けた。地域の団体や大学とともに防災講座を実施することで、各団体が個別に行うよりも地域住民にとってより効果のあるものとなった。複数回参加した方からは地域に新たに知り合いができたとの声もあり、目的とした「地域防災における顔の見える関係づくり」が進んだ。 地域の課題である大雨災害については、第 1 回目で行った「大雨ワークショップ」を体験した参加者が、地域の防災協議会でも大雨ワークショップを提案して再度行うこととなり、地域の防災意識の向上につながった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
集まれマザーズ	家事や育児のストレスを抱え込まないように託児付きで母親の自分の時間を作り、調理・ヨガ・ものづくりを実施し母親同士の交流も図った。	5 月 31 日 6 月 28 日 9 月 27 日 10 月 25 日	4	44
●おやこでドン！ ～おやこで楽しみ、触れあう時間～	親子のふれあいや運動不足の解消のため、運動遊びやものづくり、実験などを親子で学ぶ時間を設けた。	6 月 8 日 8 月 3 日 9 月 14 日 11 月 30 日	4	66

水の森自遊クラブ	普段利用の少ない中高生を対象に、土日にスポーツや音楽、調理などを体験してもらい、学校を越えて交流した。	4月20日～ 3月21日	27	138
インリーダー研修会	子供会活動の充実を図るために、子供会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に講話や実技の研修を行った。	1月18日	1	39
荒巻地区・桜ヶ丘地区 出前講座	生涯学習に触れる機会を提供するため、市民センターから距離のある2つの地区で各連合町内会と連携しながら出前講座を行った。	2月4日 2月8日	2	61
ウォークイン水の森 公園	地域資源の水の森公園で公園に携わる団体と連携し、健康増進の促進や公園の四季の魅力を伝えた。	4月11日～ 2月26日	5	76
市民企画会議 子供の育ちを支えよう！	地域で子どもに関わる団体や個人と、夏祭りで交流ができるような催しを共に考え、「ゆかたでGO！」を企画した。	5月9日～ 9月11日	7	30
水の森シニア学園	地域で安心して暮らせるように仲間とともに多様な内容を学習し、高齢者の視野が広がり交流できる機会を提供した。	5月16日～ 2月20日	8	357
水の森市民センター 地域まつり	市民センターや地域で活動する団体や町内会、学校などが一堂に会し、ステージ・展示・模擬店などで地域住民が楽しみながら交流する場を提供した。	11月9日 11月10日	2	1,600
水の森懇話会	地域の各団体や利用者と広く意見を交換し、事業運営に理解を深めてもらうとともに地域課題や利用者ニーズを把握した。	5月30日 6月5日 1月30日	3	31
市民企画講座 「ゆかたでGO！」	地域の夏祭りに子どもたちが楽しく参加できるよう、浴衣の着付け、写真撮影、バルーンなどを企画し地域の大人とも交流した。	7月27日 8月17日	2	27

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「水の森公園に親しむ会」の活動支援

「水の森公園に親しむ会」は、水の森公園で活動している他の団体と共に定期的に公園の整備保全や清掃、会報誌の発行等を行い、水の森市民センター地域まつりでも毎年展示発表を行っている。

市民センターが水の森公園への散策コース入口となっているため、「水の森公園に親しむ会」の手による公園のわかりやすい地図、野鳥や植物の写真、「水の森公園山野草一覧」などを展示し、地域住民や公園を訪れる方に対して水の森公園の魅力を発信し、会の活動を支援している。

また、令和元年度は、市民センター主催講座「ウォークイン水の森公園」で、水の森公園の豊かな自然の魅力を「水の森公園に親しむ会」のメンバーが解説・案内を行った。参加者は身近にある公園の豊かな自然と、そこで活動する地域団体を知る機会となった。

貝ケ森市民センター

〔沿革〕

“貝”をモチーフにしたデザインが館内随所に配された貝ケ森市民センターは、貝ケ森地区に平成 5 年 4 月、児童館を併設して開館した。閑静な住宅街の中にあつて、その瀟洒な建物は、隣接する貝ケ森中央公園とともに地域のシンボルとして親しまれている。

風光明媚な貝ケ森地区は自然の風物に富み、さらに高等教育機関や文化施設などに恵まれており、国際交流の盛んな場所でもある。

当市民センターは、可動式の舞台を持つ多目的ホール、会議室、調理台付き小会議室、水屋付き和室等があり、地域住民の学習・スポーツの場として、また、憩いの場として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	貝ケ森手づくり工房		
参加者	成人	延参加者	30 人
開催日	全 7 回 5 月 17 日（金）～2 月 14 日（金）		
協力者・協力団体	国見社会学級		
ねらい	国見社会学級ではここ数年、小物などを作って販売した収益で毛糸を購入し、エコたわしを作成して地域の小学校に贈呈している。その活動を受講生に紹介するとともに、自分が楽しく作ったものから収益を得、小学校の役に立っていく過程を地域の方に広く体感してもらう。 また、講座終了後は、エコたわしボランティア活動の担い手として活動できるよう支援していく。		
概要・成果	全 7 回のうち、前半の回では、「小物作り」に挑戦し、「手づくり」することの喜びを味わっていただき、後半の回では、国見社会学級が実施している「エコたわしプロジェクト」へ参加し、小学校に手づくりのエコたわしを寄贈するという地域貢献活動を体験してもらった。 参加者からは「楽しく参加した、機会があればまた参加したい。」との声があり、今後は、国見社会学級から地域へ向けて行う、エコたわし制作への参加者募集計画をさらに支援していく。地域活動やボランティア活動の担い手を育てるのはかなり難しいが、時間をかけて人を募り、段階を経ながら地域との触れ合いを広めていくことも可能であるとの見通しが立った。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ちびっこまつり	子育てに関わる地域団体が運営する、わらべうた、水ヨーヨー等の 11 の遊びのコーナーを通じて、地域の乳幼児親子が交流を深めた。オープニングパフォーマンスに「そらとぶクレヨン」を迎えた。	10 月 4 日	1	128
秋休みに遊ぼう「キンボール大会」	秋休みの間、児童が地域で安全安心に楽しく過ごせるように、東北福祉大学のハンディスポーツアドバンスチームの協力を得て、「キンボール大会」を開催した。	10 月 14 日	1	11
中学生のハローワーク	中学生の職業観や勤労観を育むために、第一中学校の 1 年生を対象に、6 業種の社会人講師による職業講話を行った。	11 月 15 日	2	368

●防災情報発信講座	国見小学校5年生を対象とした防災クロスロードゲーム、第一中学校1年生を対象とした防災駅伝、仙台高等学校防災委員会を対象とした防災講話、地域住民を対象とした防災講話を行った。	6月29日 8月23日 9月14日 11月14日	4	375
インリーダー研修会	中山小、川平小、国見小の児童と世話人を対象に「インリーダーの役割と心構え」「レクリエーションゲームの進め方」「子ども会と世話人の役割」について講話と実技を通して学んだ。	2月15日	1	71
朗読を楽しもう	朗読の基本についての講話の後、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」をテキストに朗読に親しみ、貝ヶ森地区文化祭で発表した。	8月22日～ 11月14日	7	78
●貝ヶ森シニア学園	シニア世代を対象に、健康講話、クラフト制作、軽体操、臨床美術体験、館外学習、コンサートなどを行った。	5月22日～ 2月19日	9	366
貝ヶ森交流サロン	当地域に住んでいる普段引きこもりがちな高齢者を対象に、貝ヶ森地区社会福祉協議会の協力を得て、地域散策、お茶っこサロン、コンサート等を実施した。	6月27日～ 2月7日	6	141
豆まき会	幼児から高齢者までが、楽しく交流する恒例行事。「宮音座」による獅子舞と頭囃みに和太鼓で始まり、スタンブラリーで回るコーナーあそびの他、「鬼のパンツ」をみんなで踊り、最後に「豆まき・福まき」を楽しんだ。	1月25日	1	185
貝ヶ森地区文化祭	住民の交流と学習成果発表を目的に、1日目は展示発表、お化け屋敷、科学体験コーナーを行い、2日目はステージ発表、展示発表、お茶席、出店等の催しを行った。	10月19日 10月20日	2	1,810
地域懇話会	連合町内会、各学校及び地域諸団体との懇談会を年2回開催し、事業報告と情報交換を行った。	9月27日 2月14日	2	34
市民企画会議「地域お散歩会」	地域の史跡等をめぐるお散歩コースを策定するための企画会議、コースの下見と散策、企画員のための学習会を行った。また、策定したコースを用いて、企画員がガイド役となり「貝ヶ森交流サロン」の散策講座を行うとともに、センターだよりやホームページで地域へ発信した。	4月18日～ 2月13日	11	104

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「貝ヶ森ガーデンサポーター」の支援

貝ヶ森市民センターでは、隣接する「貝ヶ森シンボル花壇」を、自主的に維持・管理している「貝ヶ森ガーデンサポーター」のボランティア活動を通年で支援しているが、近年は会員数の減少が課題となっている。そこで、令和元年度は市民センターのホームページや市民センターだより等で、季節ごとの美しい花壇の写真とともに、活動を積極的に地域へ紹介し、会員募集を行った。このことにより、新たな会員が増え、団体の活動の活性化につなげることができた。

中山市民センター

〔沿革〕

中山市民センターは、旧中山コミュニティセンターを増改築し、平成7年4月に児童館を併設して開館した。近隣には月急山公園、うどう沼公園があり、街路のケヤキや桜並木に囲まれ緑豊かな自然にあふれている。地域では、街道市や七夕祭り、スノーマン祭り、とびの子祭り、学区民運動会、老人クラブ演芸大会、町内会夏祭り等地域団体が主催する行事が活発である。

当市民センターが受け持つ中山・川平地区は、戸建て・集合住宅のほか、近年は大型マンションが増え、新しい町並みを形成している。また、近くに「せんだんの杜」、「せんだんの里」等の介護や福祉関係の施設があり、福祉に関する住民意識と学習意欲の高い地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	めざそう 花と緑のエコタウン		
参加者	地域住民	延参加者	63 人
開催日	全7回 4月25日（木）～1月29日（水）		
協力者・協力団体	中山児童館、中山中学校、中山小学校、中山西第二町内会、中山西寿会、シルバー人材センター中山地域班		
ねらい	中山地域は、街路樹の成長に伴い大量の落ち葉で道路が埋め尽くされるようになった。学校や町内会で行っている地域清掃で集められた落葉をゴミにせず堆肥化し、町内会の花壇や児童館・市民センターで再利用し、資源循環型の環境づくりを目指す。		
概要・成果	令和元年度は、前年度に作った落ち葉堆肥を利用し、里芋の植付け・収穫体験を行った。幼児から高齢者まで一緒に作業し、世代間交流を図ることができた。ボランティアで活動しているバラ愛好会が、落ち葉堆肥を館内の花壇整備にも利用していることから、バラを鑑賞する講座を実施するなど、資源循環の事例を学んだ。また、地域清掃で集めた落ち葉を使う堆肥づくりでは、作業後、交流会を行った。落ち葉堆肥づくりが地域の環境問題解決に寄与していることを改めて認識し、地域づくりに対する意識が高まった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
かわだいらお楽しみ劇場	乳幼児親子が共に楽しめるうたあそびやパネルシアターの企画を実施。終了後は茶話会を実施し、共催・連携する川平地域の子育て支援諸団体とのネットワークを強化した。	6月29日	1	53
ほっと一息 がんばっている私	手工芸、運動、手工芸と交流会。子育て中の保護者が、子どもと離れて自分の時間を持ち、リフレッシュする機会を設けた。交流会を開くことで、育児の悩みを共有する場を持った。	11月6日 11月20日 12月4日	3	20
インリーダー研修会	児童は、インリーダーの役割と心構え、レクリエーションの進め方を学習し、世話人は、子ども会活動と世話人の役割についてグループワークで学んだ。また、合同でレクリエーションを実践した。	2月15日	1	71
昔遊びを楽しもう	中山小学校を会場に、地域のボランティアが講師となり、1年生の児童と一緒にコマ回し、けん玉、紙鉄砲、お手玉、羽根つき、福笑いなどの昔あそびを体験した。	11月22日	1	100

中山キッズ 君はチャレンジャー	虫の声を楽しむ会、移動天文車による星空観察、創作だるまづくりを実施し、親子で様々な体験学習をした。	8月23日 10月18日 12月21日	3	71
ラララ♪歌で元気に	①～⑥発声練習・歌唱練習、⑦のおかのまちコンサートでの発表、⑧交流会、⑨⑩発声練習・歌唱練習、⑪成果報告会での発表、⑫⑬発声練習・歌唱練習	8月22日～ 2月27日	13	173
心豊かに一はがき絵講座	①オリエンテーション・実技と講話、②実技「リンゴ、葉に着色する」、③実技「筆使いと色の濃淡」、④実技「季節の果物・野菜を描く」、⑤実技「好きなものを描く」・合評、⑥⑦市民センターまつりで展示発表	6月11日～ 9月14日	7	109
中山銀鈴倶楽部	高齢者が心身ともに健康で豊かな生活を送ることが出来るよう、健康、音楽、体操など様々なジャンルについて学んだ。受講生同士が交流できるような班での活動を増やし、初めての交流会も行った。	5月10日～ 2月14日	9	362
ちょっと得する雪かき講座	雪かきで体をいためることなく、安全に <u>行</u> う方法や、必要な体力をつけるためのトレーニング方法を学んだ。また雪かきについて地域の実情を話し合い、助け合いについて考えた。	11月29日 12月6日 12月20日	3	27
おかのまちコンサート	地域で活動している音楽サークル会員が企画員となり、誰もが気軽に楽しめるコンサートを企画し開催した。今年度は主催事業「ラララ♪歌で元気に」の受講生も練習の成果を発表した。	7月13日～ 11月22日	5	196
中山市民センター・児童館まつり	地域団体・学校・サークル・個人の作品展示・ステージでの学習成果発表や体験コーナー、また、児童館の子ども向けイベントや、地域団体・商店会・福祉団体等による模擬店などを実施した。	9月13日 9月14日	2	982
懇話会	地域住民・地域団体、利用団体、学校関係者などとの懇談。地域住民や利用者に市民センター活動内容や、利用方法を理解してもらった。また、利用者からの意見を聞き、市民センターの運営改善を図った。	7月20日 2月26日	2	24

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

青葉消防署荒巻出張所と中山地区社会福祉協議会のコーディネート

青葉消防署荒巻出張所から中山地域で高齢者を対象に講座を開催したいとの相談を受け、中山地区社会福祉協議会とつないだ。結果、中山地区社会福祉協議会主催の「いこいのサロン」において、荒巻出張所職員が講師となり「転ばぬ先の杖」と題した講座を開催することができた。講座では、仙台市の65歳以上の救急状況や救急現場の実際例と対処法についての講話と転倒予防体操の実技により、高齢化が進む当地域で、日常に潜む突然のアクシデントに備える機会となった。

折立市民センター

〔沿革〕

折立市民センターは、平成7年5月30日に市内50番目の市民センターとして、折立児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターは仙台市中心部から西方約5kmの地点に位置している。東側には青葉山丘陵、南側には里山蕃山があり、北側には広瀬川が流れ、西側にはその広瀬川によって形成された河岸段丘が開けており、遠くには奥羽山系を眺望できるという自然環境に恵まれた場所に立地している。

施設には可動式のステージが備わった多目的ホール、照明付の舞台を備えた49畳の和室、調理用機器を完備した会議室兼調理実習室等があり、地域住民の生涯学習・スポーツ・コミュニティづくりの場として、広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	折立おやこ農園		
参加者	地域住民	延参加者	174人
開催日	全9回 4月20日（土）～12月1日（日）		
協力者・協力団体	農園ボランティア		
ねらい	食や自然の恵みを実感する機会が少ない昨今、土づくり、野菜づくり、調理を通して、食や自然について学ぶ機会とする。また、親子が一緒に作業することで親子共通の話題作りの場とし、さらには、地域の農園ボランティアや参加親子同士の交流を図る。		
概要・成果	参加家族同士が野菜の育ち具合や調理方法などを話題に、親しく交流する姿が見られたほか、前年度からの継続受講生も多いことから地域の農園ボランティアの方とも親しく交流を深めていた。また、子どもたちが、毎回、野菜の生育状況を観察し、冊子にまとめた絵日記は、講座の良い思い出になると好評であった。最終回は、収穫した野菜で参加家族が協力しながら芋煮を作り、野菜が苦手な子どもたちも笑顔で味わっていた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子たいけん隊	①電子回路工作入門～振動すると光るLED ②クリスマスリースづくり ③「おうちパン」講座を実施し、学校や家庭ではできない体験を通じて親子のコミュニケーションを深めた。	8月10日 12月7日 2月9日	3	51
インリーダー研修会	児童を対象に危険予知トレーニングやジュニアリーダーによる手あそびやゲームの指導、世話人向けには子ども会活動についての研修と情報交換を行った。	2月8日	1	22
わらすこたいむ	昔遊び体験（コマ回し・あやとり・けん玉・弓矢・お手玉・羽根つき・割箸でっぽうなど）、外遊び（凧揚げ・水遊び）、囲碁・将棋、わらすこまつり、折立小学校出前授業などを実施した。	5月9日～ 2月19日	16	550

中学生の防災教室～僕たち私たちの力～	折立中学校2年生が災害に備え、青葉消防署員から救急救命、けが人搬送訓練を受けたあと、折立地区防災対策連絡会の方から備蓄米の炊き出しや仮設トイレ組み立てなどの避難所開設準備作業を学んだ。	5月22日	1	79
●安心安全の保存食づくり	①うめ・しそジュース・梅ジュースづくり ②きゅうりのつくだ煮 ③野菜の常備菜づくり ④手作りこんにやくと保存食づくり などを通じて、食の安全を考える機会とした。	6月28日 7月26日 10月9日 1月30日	4	51
折立老壮大学	コミュニケーション・天気予報の話・郷土歴史などの講話、土人形の絵付け・クリニカルアートなどの実技、健康体操、音楽・落語鑑賞、館外学習などを実施し、高齢者に学びの場を提供した。	5月16日～ 2月20日	10	300
折立地域交流会	常盤木学園高等学校音楽科の生徒と児童館の子どもたちによる「クリスマスコンサート」、「マジックショーと豆まき」を実施した。	11月30日 2月1日	2	220
折立素敵物語	小学校へ出向き、立体地形模型を用いて地域について説明した出前授業と、地域住民や6年生有志と共に国語の授業「町の幸福論」で考えたアイデアを基にした「ライトアート in 折立」を実施した。	8月7日～ 1月16日	16	80
第11回 折立 風のメロディーコンサート	折立市民センターや地域で活動している音楽サークルが自ら企画したコンサートを開催した。	4月27日～ 7月20日	7	222
第17回 折立ふれあいまつり	地域の方や市民センター利用サークルが参加するステージ発表や作品展示、豚汁販売や射的などの出店、児童館運営コーナーなどがある地域のまつりを開催した。	10月26日	1	1,667
折立市民センター懇談会	町内会長や地域の各団体の代表、小中学校長等が参加し、市民センター事業を紹介しながら意見交換を行った。また、地域での課題についても情報共有した。	4月24日 12月10日	2	61
ライトアート in 折立	折立小学校6年生の有志、保護者、地域住民が協働でイベントの企画会議を行い、ペットボトルランタン作りと折立公園ライトアップを実施した。	11月9日～ 1月16日	7	359
折り紙ボランティア養成講座 「すてきな折り紙の世界」	講師からコマ、名札、風船、リボン、吹きゴマなどの折り方を学び、ふれあいまつり折り紙コーナーでボランティアとして参加した。また、放課後に児童館の子どもたちと一緒に折り紙あそびを行った。	9月12日～ 11月29日	7	103

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「折立昔遊びボランティアわらすこ」の活動支援

「折立昔遊びボランティアわらすこ」は、平成25年度から実施した事業「昔遊び伝承事業」の参加者により、平成26年度に結成された。市民センターでは、年間6回の児童館との共催事業「わらすこたいむ」や「わらすこまつり」、児童館主催の「児童館まつり」や幼児クラブ登録親子を対象にした昔遊びなど、昔遊びの伝承や地域の子どもたちと交流を深める活動を支援している。

また、折立小学校「昔遊び出前授業」の講師として紹介したりするなどの支援も行っている。

令和元年度は、市内60館の市民センターの活動を紹介することを目的に開催した「市民センターフォーラム」への参加についても仲介し、活動の幅を広げる一助とした。

木町通市民センター

〔沿革〕

木町通市民センターは、木町通小学校の改築に伴い、平成 16 年 4 月に小学校と児童館、コミュニティ防災センターとの複合施設として開館した。市民センター施設は、5・6 階に位置し全館バリアフリー対応になっている。また、屋上緑化を施し、一部は児童館の庭園として利用している。

木町通地区は市の中心部に位置し、官公庁・学校・病院・商業施設・マンションが建ち並び、従来からの一戸建ての住宅はほとんど見られなくなった。この地域では若い単身世帯や乳幼児の子育て世代の 40 代が多く、20 代、30 代、50 代、60 代と続く人口構成となっている。

当市民センターはこうした環境の下、複合施設の利点を生かし、地域との連携を図りながら学びの場を提供することを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	WAKU ² (わくわく)キッズ		
参加者	小学生と保護者	延参加者	503 人
開催日	全 8 回 6 月 1 日(土)～12 月 19 日(木)		
協力者・協力団体	木町通児童館、こよなく北三番丁公園を愛する会		
ねらい	当地域では、子ども会活動に参加する家庭が少なく、親子ともに地域で交流する機会が乏しいと感じられる。また、子どもたちが学校以外で様々な体験をする場も少なくなっていることから、学校や家庭では体験できない学びの場を提供し、地域ボランティア団体、児童館、異世代との関わりを深め、子どもたちの創造力やコミュニケーション力を醸成する。		
概要・成果	小学生や小学生親子を対象に、「もの作り」「ジュニアリーダーと遊ぼう」「ジャガイモの収穫体験」「調理体験」「虫の声を楽しむ会」「星空観望会」「地域の公園について学ぶ」学習などを行った。 講座の運営では、地域団体やジュニアリーダーが講師となり、また、大学生もボランティアで参加するなど、体験と交流の場を設けることができた。 様々な体験学習が子どもたちの学びを広げる一助となった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て ENJOY 広場	未就学児親子を対象に託児付講座「ハーバリウム作り」と「親子運動」の連続講座を実施した。託児付講座では子育て支援クラブの活動紹介も行い、必要な情報を提供した。	11 月 14 日 11 月 28 日	2	12
インリーダー研修会	子ども会において良きリーダーとなるために、「子ども会の世話人の役割と情報交換」「危険予知トレーニング」を提供し、ジュニアリーダーを主体としたレクリエーション研修も行った。	1 月 25 日	1	39
備えて安心！シニアライブ	健康管理に関する講話、体力テスト、介護予防運動、参加者交流会を実施した。	5 月 30 日～ 10 月 10 日	6	149

秋保ワイン おはなしと交流会	東日本大震災後にワインづくりを始めるに至った経緯や、ワイン醸造にかける思い、地域おこしへの取組みについての講話、秋保産ワインを試飲しながらの交流会を実施した。	11月26日	1	29
木町通老壮大学	地域の高齢者が心身ともに健やかに過ごせるよう、講話・映画鑑賞・自転車安全教室・移動学習・コンサート等広い分野について学ぶ機会とし、受講生間の交流も図った。	5月15日～ 2月19日	14	651
木町通学区の防災講座	東日本大震災後の防災減災に向けての合同防災訓練をはじめ、救命救急講習や防災食講座を開催した。	6月22日 7月6日 12月7日	3	52
木町通市民センターまつり	市民センターを利用して活動している団体の活動成果を発表した。ステージ発表、作品展示、活動紹介、地域の店の出店やこどもの遊びコーナーを設けた。	10月19日	1	900
木町通市民センター運営懇話会	地域の関係諸団体の代表者や利用者から市民センター事業や施設運営にあたっての意見や助言を得て、事業企画や運営に反映した。	5月21日 2月18日	2	30
木町通クリエイターズ	地域から講師を迎え、1年間を通して季節の薬膳の体験をしながら参加者同士が交流を深めた。また、季節ごとのかつての地域の様子についてもお話があり、参加者が地域への関心を高めた。	6月14日～ 12月12日	6	73
市民企画会	木町通小学校社会学級の生徒が市民企画員になり、「秋保ワインおはなしと交流会」を企画・運営した。	6月19日～ 12月5日	6	16

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民センターで活動しているサークルへの活動支援

木町通市民センターでは市民センター利用サークルへの活動支援として、市民センターだよりへの会員募集記事の掲載、会員募集チラシの窓口配架、市民センターで作成しているサークル情報への掲載等を通年で行っている。

令和元年度は、市民センターの掲示板に、折り紙サークルの協力で、壁面を季節ごとの作品で飾っていただくこととした。お知らせをするだけでなく、季節を感じながら見ていただく機会になり、折り紙サークルの活動紹介の場にもなっている。

広瀬市民センター

〔沿革〕

広瀬市民センターは、広瀬川の中流域に位置し、周辺にはサイカチ沼や月山池、蕃山などの豊かな自然と、子愛観音をはじめとする数多くの旧跡が残る。また、近年は住宅の造成や商業地域の開発が進み、人口が著しく増加している地域で、平成 31 年 4 月には、錦ヶ丘中学校が開校した。

当市民センターの歴史は古く、昭和 24 年大沢・広瀬両村に村立公民館が建設されたことに始まる。昭和 62 年仙台市との合併により仙台市宮城公民館となり、条例改正により仙台市宮城市民センターと改称、平成 3 年 6 月に名称を広瀬市民センターと改めて現在の場所に移転した。

施設は広瀬文化センター・広瀬図書館との複合施設で、地域住民の交流と生涯学習活動の拠点として広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	三館共催事業「音楽で奏でる本の世界」		
参加者	ワークショップ：小中学生 コンサート：どなたでも	延参加者	110 人
開催日	全 2 回 6 月 23 日（日）、6 月 30 日（日）		
協力者・協力団体	広瀬文化センター、広瀬図書館		
ねらい	広瀬市民センターは、図書館、文化センターとの複合施設である。本に対する専門的な知識・情報を有する図書館と、高い演出力を持つ文化センター、積極的な学びの場を提供する市民センターがそれぞれの特性を活かし、互いに協力しながら地域に複合施設ならではの学びの場を提供することをねらいとする。		
概要・成果	本をテーマにしたピアノとヴァイオリンのコンサートと、小学生の朗読ステージ発表講座を開催した。事前のワークショップで小学生が図書館職員の指導で朗読を学び、プロの演奏に合わせて学習成果を披露した。図書館による音楽をテーマにした本の解説や、文化センターが演出や音響を担当するプロの演奏と小学生による朗読のコラボレーションは来場者に好評だった。市民センターは、広報や募集、会場装飾を担当し、三館がそれぞれの特性を活かし協力して講座を実施することで、複合施設ならではの学びの場を提供できた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●親子で楽しもう！ ～お出かけ市民センターin 錦ヶ丘～	錦ヶ丘地区を中心に、3 B 体操講座やスクラップブック作り、宮城総合支所保健福祉課と共催で食育講座など親子で参加できる講座を開催し、子育て中の親同士の交流を図った。	11 月 12 日 12 月 12 日 1 月 9 日	3	62
地域で伝える「平和学習」	管内 3 小学校 6 年生を対象に、震災復興記念館職員の講話や、地域の語り手が戦中戦後の生活や気持ちなどを話すことを通して、小学生に平和の大切さを考える機会を提供した。また、事前にパネル展とオリエンテーションを実施した。	10 月 29 日～ 12 月 13 日	5	394
インリーダー研修会	子ども会活動の充実を図るため、子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、1 泊 2 日でリーダーとしての学習とレクリエーションを行い、子ども達同士の交流を図った。	8 月 11 日 8 月 12 日	1	66
ジュニアリーダー「くまっこ」と遊ぼう！	ジュニアリーダーが企画運営した、おばけ屋敷、パルーンアート、もぐらたたき、工作などを行い、ジュニアリーダー活動を地域の多くの人に周知し、参加した地域の子ども達との交流を図った。	7 月 15 日	1	343

子ども参画型社会創造支援事業 カップダ川で地域交流	地域の自然の魅力を伝えるため、カップダ川ダンス部の小学生が町内会のまつりや主催事業に参加した。また、苔ボトル作りや虫の声を楽しむ会の自然観察講座を開催し、地域の親子の交流につなげた。	4月20日～ 2月16日	17	114
集まれ！ひろせキッズ～不思議の世界を知ろう～	仙台高等専門学校と共催した液体窒素の実験講座や、空気の不思議な実験や工作を行う講座などを開催し、地域の児童に、学校の授業では体験できない学習の機会を提供した。	9月29日 10月13日 12月21日	3	37
みんなで学ぼう！「ひろせ塾」	地域を学ぶ「さくらてくてくめぐり」と「サイカチ沼トレッキング」、地域伝統に関心を高める「ステージうらがわ体験ツアー」、世代間交流を図る「ダーツ講座」を開催し、地域への関心を高め、住民の交流を図った。	4月14日 8月18日 10月2日 11月16日	4	77
●老壮大学「若返り教室」	地域の高齢者が社会との接点を持ちながら学習を進め、受講生同士の交流と親睦が図れるよう、様々なテーマの講話や館外学習、実技や軽運動などの講座を開催した。	5月23日～ 1月23日	9	476
ひろせ地域防災講座	管内町内会と愛子小学校、社会福祉協議会、仙台市の避難所担当課と連携し、地域住民と小学生が初めて一緒に防災訓練を行い、地域ぐるみで災害対応力を向上させた。	6月29日	1	757
ひろせサマーナイトコンサート 2019&民俗芸能フェスティバル	主催事業やサークル団体のステージ発表、町内会による出店、子どもお楽しみコーナーを設け、様々な世代の地域住民の交流を深め、地域活性化につなげた。	8月3日	1	1,800
令和元年度生涯学習発表会「みやぎ学習フェア」	市民センター4館と広瀬文化センターが共催し、宮城地区で活動する30団体が日頃の学習成果を広瀬文化センターステージで発表した。日頃接することがない団体同士と地域住民との交流が図られた。	2月16日	1	963
ひろせ懇話会	文化センターと共催し、町内会、学校、児童館、地域団体、施設利用者の方々とは事業運営に関する意見交換を行い、地域課題や学習ニーズなどを共有した。	7月2日	1	28
第31回広瀬市民センターまつり	作品展示、体験コーナー、ステージ発表、イベントコーナー等を設け、地域コミュニティの拠点として、サークル活動や市民センターを周知し、地域住民の交流を図った。	11月2日	1	1,378
市民企画講座「ひろせ楽々サロン～気軽に参加しませんか」	転入者が多い地域であることから、顔の見える関係づくりと交流を推進するため、川柳講座、悪質商法講座、体操、歌声喫茶、スマホ写真講座など誰もが気軽に参加できる講座を企画員と企画し開催した。	11月20日 12月10日 1月29日 2月20日	4	99
戦争の記憶を次世代へ残すボランティア養成講座	広瀬中学校2年生を対象に、語り手の記録映像を元に作成した体験記朗読講座を開催した。	8月30日 9月13日 2月24日 2月27日	4	254
市民企画会議	地域課題や多様な学習ニーズに応える講座を開催するため、4名の地域住民の意見を取り入れ、誰もが気軽に参加できる講座を企画・実施した。	6月12日～ 2月20日	7	27

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「くまっこ」の活動支援

ジュニアリーダー「くまっこ」は、令和2年度で50周年を迎える歴史あるサークルである。45人が登録しており、地域からの要請も多く、活発に活動している。また、インリーダー研修会では、地域外の市民センターにも出向き活躍している。定例会の運営、ジュニアリーダー自身が企画運営する「くまっこまつり」講座や野外活動研修などでもジュニアリーダーの自主性や考えを尊重し、活動が先輩から後輩へスムーズに引き継がれるようにサポートしている。

宮城西市民センター

〔沿革〕

宮城西市民センターは、昭和 51 年 4 月に宮城町西部地区公民館として開館した。その後、昭和 62 年 11 月 1 日宮城町が仙台市と合併して仙台市宮城西公民館となり、平成 2 年 4 月 1 日から仙台市宮城西市民センターと改称した。その後、施設の老朽化に伴い平成 22 年 8 月から一時休館して改築工事を行い、平成 24 年 7 月に新たに開館した。

当市民センターは、宮城地区西部の自然環境に恵まれた緑豊かな山間地に位置している。近年過疎化が進み、少子・高齢化の現状にあるが、地域の活性化を図るため町内会・老人クラブ等の各種団体と連携を密にして社会情勢の変化に伴う学習要望に応え、地域住民と共に歩む生涯学習を推進している。また、地域住民の自主活動の場、交流の場として広く利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●大倉ダムの魅力発信事業「鯉のぼり×大倉ダム」		
参加者	市民企画会議「大倉ダムの魅力発信」の企画員、大倉・作並・上愛子の各小学校児童、広陵中学校生徒、各町内からのボランティアほか地域住民、ご来賓、地域内外からの観光客ほか	延参加者	3,078 人
開催日	全 15 回 平成 31 年 4 月 20 日（土）～令和 2 年 3 月 28 日（土）		
協力者・協力団体	宮城総合支所まちづくり推進課・ふるさと支援担当課、管内各町内会、管内各小中学校 P T A、大倉ふるさとセンター、宮城県大倉ダム管理事務所、ほか協賛各社		
ねらい	宮城西部地区にある“宝”ともいべき大倉ダムとその周辺の魅力を広く発信し、人口減少の続くこの地域の交流人口の拡大を図る。また、小中学生が作った鯉のぼりを大倉ダムに架けることによって児童の郷土愛を育み、地域住民も含めて、大倉ダムへの関心を高める。		
概要・成果	地域の小中学生が描いた鯉のぼりと、イベントの趣旨に賛同して地域から提供された鯉のぼり、合わせて 36 本を大倉ダム左岸堤体に吊した。5 月 2 日から 5 月 6 日までの 5 日間で、県内外から 2,751 人が訪れた。その殆どが会場となった大倉ダム下公園を初めて訪れる人で、鯉のぼりとともに周辺の景観の素晴らしさにも感銘を受けていた。 地域の大人や小中学生も大倉ダム下公園を初めて訪れたという人が多く、改めてその景観の素晴らしさに気づいた様子であった。 その後、荒れていた公園は、視界を遮っていた杉や桜の老木などが伐採されるなど綺麗に整備され、今では公園を訪れる人が増えている。地元の方々にも大倉ダムの魅力が認知されたことが、何よりも大きな成果と考える。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子ふれあい教室	自然観察会、豆沢川探検、ミニ門松作り、小正月行事を親子で体験学習することにより、コミュニケーションを深めながら、自然や歴史文化を守る大切さを学んだ。	6 月 8 日 7 月 27 日 12 月 7 日 1 月 11 日	4	101
インリーダー研修会	子ども会リーダーの児童および世話人を対象に、子ども会活動の充実と活性化を図るため、必要な知識や技術の研修機会を提供し、講話や実技等で学んだ。	12 月 14 日	1	7
中学生のハローワーク	広陵中学校との共催で中学生を対象に、女性警察官・男性看護師を講師に迎え、職業紹介やその職業に至るまでの道のり、仕事のやりがいや苦勞など話していただき、将来の職業について考えた。	8 月 21 日	1	39

自然体験教室	豊かな自然の地域資源を活かし、里山散策等、自然をまると体験し、自然保護の大切さ、里山と生活の関わり方の大切さを学んだ。	4月19日 11月8日	2	28
女性教養講座	多岐にわたるジャンルを学び、様々な事に興味・関心を持つ機会を提供した。地域でいきいきと暮らすためのコミュニティ作りも目指し、フラワーアレンジメント、陶芸、苔玉づくり、料理、手芸等を体験学習した。	6月26日～ 12月18日	6	93
宮城西部地区今昔物語	地域の方から大正、昭和の頃のおき良き思い出を交えた地域の話を聞き、風習・歴史・文化等の魅力を再発見し冊子にまとめた。	5月18日～ 3月13日	18	120
出前講座	地域町内会と連携を図り、市民センターが地域へ出向き出前講座を開催した。各町内会の要望に沿った内容で開催し、料理・手芸・健康体操等の学習の機会とした。	8月29日～ 2月26日	7	111
老壮学級	心豊かに暮らすために様々な内容を学習し生きがいづくりの一助とした。月に一度顔を合わせ楽しみながら共に学び、ひきこもりを防ぎ交流を深めた。交通安全、健康づくり、文学・歴史等の講話や実技等。	6月20日～ 1月23日	7	340
★自主防災活動を推進するための「防災・減災学び塾」	地域団体と協働で防災・減災の知識の習得や避難所運営訓練を実施した。	8月3日 8月31日 9月14日 9月29日	4	176
宮城西市民まつり	西部地区住民が一堂に会し、自らの運営で市民まつりを開催し交流を深めた。演芸発表、作品展示、食品バザー、ジュニアリーダーコーナー、伝承遊び、フリーマーケット等。	11月23日	1	2,350
宮城西地域懇談会	上愛子小学区町内会等、管内学校関係との懇談会を開催した。地域課題、地域ニーズを把握し、今後の市民センター事業や施設運営の参考とした。	7月16日 1月29日 2月22日	3	67
ゆかいな森の広場	地域在住の音楽家によるコンサートや、地域の子供達へ向けて映画会を開催した。	8月2日 10月12日 1月24日	3	181
令和元年度生涯学習発表会「みやぎ学習フェア」	宮城地区で活動しているサークル等が日頃の活動の成果を広瀬文化センターで発表した。宮城地区内の市民センターの連携により地区の絆を強めた。	2月16日	1	963
◎地域力創造支援事業 “ゆうゆうの森再生プロジェクト”	上愛子小学校隣接の“ゆうゆうの森”を町内会とPTAが協力して整備しながら、森を活用した四季折々のイベントを開催した。植生観察・炭焼き&ピザ焼き・夏キャンプ等。	4月20日～ 12月17日	12	499

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

上愛子学区社会福祉協議会への活動支援

上愛子学区社会福祉協議会では、高齢者、特に自宅にこもりがちになる一人暮らしの高齢者を対象に、約半日の移動研修を平成17年から実施している。内容は、高齢者のための講話とお楽しみの演芸会、最後に昼食会で交流する企画となっている。

市民センターでは、その際の講師選定などを豊富なバックデータを基に提案し、チラシや案内文書の作成支援、当日の運営補助などを行なっている。

令和2年度からは、市民センターの助言により作並地区社会福祉協議会、大倉地区社会福祉協議会や地域包括支援センターとも協働して規模を拡大し、「福祉フォーラム」として実施することとなった。

大沢市民センター

〔沿革〕

大沢市民センターは、平成2年5月、青葉区の西北部、田園地帯や緑多い丘陵地帯など豊かな自然環境の中に、児童館・コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成30年度には大規模修繕を実施し、平成31年4月に再開した。

古い史跡が点在する歴史ある地域としても知られ、古くからの村落と成熟化が進行する団地、開発が進む新興団地が混在する中、若い世帯の増加が著しく更に発展が見込まれる。こうした地域状況を背景に市民センターとしての機能を活かし、地域住民の活動・交流の拠点として、社会変化に伴う市民のニーズに対応する生涯学習事業を展開している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	大沢地域サロンボランティア養成講座		
参加者	地域住民	延参加者	117人
開催日	全14回 4月23日(火)～3月13日(金)		
協力者・協力団体	大沢サロンボランティア、大沢・川前地区社会福祉協議会		
ねらい	平成29年度の市民企画講座「サロンボランティア養成講座」で養成されたサロンボランティアのスキルアップを図り、社会福祉協議会と連携して地域のサロン活動に出前形式で参加し、地域活性化と交流の一助とする。また、企画段階から関わることで自主的な活動につなげる。		
概要・成果	サロンボランティアのレベルアップを図るため、脳トレ体操やゲーム、リンパマッサージなどを学ぶと同時に、ハンドマッサージの技術を磨き、市民センターの講座や児童館の行事でコーナーを担当したり、地域のサロン活動に出向いたりなど幅広く活動した。ハンドマッサージをしながら地域住民と交流を図ることで、サロンの活性化に一役買っている。令和元年度は、自主的に他の地域のサロンへ出向くなど、活発な活動を行うことができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこフェス	大沢地区児童館3館と共催で、大沢市民センターを会場に乳幼児親子が気軽に参加できるおまつり形式の講座を開催した。	11月8日	1	69
子どもお楽しみ体験講座	「マジック体験」「児童館まつり」「移動天文車ベガ号で星空観察」「パプリカを踊ろう」といった、学校や家庭ではなかなか出来ない体験型学習の機会を設けた。	8月8日 9月14日 10月4日 12月7日	4	279
インリーダー研修会	子どものリーダー対象の「インリーダー研修会とは」から始まり、危険予知トレーニングやキャンドルファイヤー等。大人対象の研修も含め1泊2日で行った。	8月10日 8月11日	1	66
大沢農学校	季節ごとの野菜作りを講話と実習で学んだ。講座以外の自主活動として、畑作業のボランティアも参加者が積極的に行っていた。	6月7日～ 3月27日	13	125
地域の達人	地域人材、地域伝統を活かした講座「飾り巻寿司」「宇那禰神社の歴史を学ぶ」を行った。	11月29日 1月30日 2月6日	3	51

市民企画講座「読んでみよう・聞いてみよう『たっぷり読み聞かせの世界』」	市民企画会議「読み聞かせボランティア交流会」を経て企画した講座。「聞いてみよう」「ふれてみよう」「読んでみよう」と様々な角度から読み聞かせを楽しんでもらった。	1月21日 2月4日 2月18日	3	41
大沢朗々学園	認知症予防講座やニュースポーツ、コンサート等の他、仙台うみの杜水族館への館外学習など、運営委員の協力も得て、様々な内容で開催した。	5月11日～ 2月20日	8	403
大沢地域防災講座	大沢地域の婦人防火クラブを対象に、災害時に役立つ常備菜について学び、情報交換会を行った。	12月8日 2月8日	2	40
大沢地域出前講座	各地域に出向き、担当者と打合せの上、「物づくり」「子ども会対象の実験」「軽運動」「マジック＆落語」など、地域のニーズに合わせた講座を行った。	6月18日～ 12月21日	7	104
大沢市民まつり	大沢地域の住民が一堂に会するまつりを開催した。1日目：作品展示、2日目：作品展示・舞台発表・子どもコーナー・体験コーナー・出店コーナー等。	10月19日 10月20日	2	1,348
大沢市民センターリニューアルオープン記念コンサート	大規模改修工事を終えた市民センターを披露するとともに、地域住民の交流の場となるコンサートを開催した。	4月20日	1	149
スポーツで地域交流「川前・大沢グラウンドゴルフ交流会」	日頃交流の少ない川前・大沢地区住民が交流し親睦を深めるためにグラウンドゴルフ大会を開催した。	9月1日	1	47
大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗	「大沢・川前地域交流ネット あがれ！天旗実行委員会」が中心となり、大沢・川前・大竹児童館への凧づくり出前講座と、一般から参加者を募り、凧づくり・凧あげ・交流会を開催した。	12月27日～ 1月19日	5	266
令和元年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	宮城地区を活動拠点とするサークルや団体の成果発表の場として、宮城地区内市民センター（広瀬・宮城西・落合）と共催した。	2月16日	1	963
大沢地域懇談会	市民センター、各児童館の地域づくりや学習の取り組みについての説明や、事業についての要望の聞き取り、地域課題についての情報交換等を行った。	6月27日	1	19
市民企画会議「読み聞かせボランティア交流会」	地域で活躍する読み聞かせボランティアの交流会を開催し、読み聞かせの講座を開催するための企画会議を行った。	8月2日～ 2月18日	10	75

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

大沢小学校1年生総合学習へのコーディネート

大沢小学校では、1年生の総合学習の時間に「昔あそび交流会」を開催している。昔の遊びを楽しみながら、地域の方との交流を通して、自分たちを支えてくれる人がいることに気づき感謝することをねらいとしている。そこで、市民センターでは、遊びのボランティアで活躍しているメンバーを中心に地域からも協力者を募り、「昔あそびボランティア」としてコーディネートし、子どもたちと地域住民の顔の見える関係づくりに一役買うことができた。

また、「凧作り」の授業には、「あがれ！天旗実行委員」のメンバーに声がけし、凧作りと凧あげの指導ができる人材を紹介した。

落合市民センター

〔沿革〕

平成 6 年に開館した落合市民センターは、広瀬川、齊勝川、蕃山などの自然環境と、仙山線（陸前落合駅）、国道 48 号線仙台西バイパス、作並街道という交通環境に恵まれた地域にある。また、宮城県立こども病院をはじめとする医療機関、栗生小学校、宮城県宮城広瀬高等学校などの教育機関、宮城消防署などの公共施設、大型商業施設も整備され、さらに平成 27 年には復興公営住宅が完成し、人口が増加している地域でもある。

こうした地域環境の中で、当市民センターは開館以来、施設利用および生涯学習講座等を通じて、地域コミュニケーション活性化、まちづくり推進の拠点として広く地域住民の方々から愛され、利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●ふるさと落合栗生地元塾		
参加者	地域住民	延参加者	154 人
開催日	全 10 回 4 月 27 日（土）～ 1 月 25 日（土）		
協力者・協力団体	宮城総合支所まちづくり推進課		
ねらい	平成 29 年度から 2 年間「ふるさと落合栗生地元塾」で、地域の歴史と史跡などについて講話と探訪で学習し、落合栗生地区には他の地域にはない特色のある歴史と史跡などがあることを再認識した。これらの歴史と史跡等を広く発信し、永く継承する活動を通して、人のつながり、地域のつながりを大切にする地域づくりを目指す。		
概要・成果	平成 29 年度からの学習を通して「落合栗生地区歴史めぐり」運営委員会を立ち上げた。令和元年度は、史跡の案内板を設置するにあたり、他の地域の案内板を見学した。そして、デザインや材質・文章などを参考に、案内板作りと設置作業について協議検討会議を重ね、令和 2 年度に作成・設置することとなった。案内板づくりを通して、生まれ育った地域を深く知り、地域の魅力を発信する人材の育成につながった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●わくわく子育てひろば	親子ふれあい遊びや軽運動、工作、保健師による講話、先輩ママと参加ママ達との企画会、親子でパンづくり、託児付の調理実習、親子でリトミックを実施した。	5 月 23 日～ 12 月 12 日	7	108
親子であ・そ・ぼ！	親子向けにモザイクタイル工作、テニス教室、パン作りを実施した。	7 月 13 日 10 月 26 日 2 月 8 日	3	72
インリーダー研修会	自然体験ゲームや危険予知トレーニングなどの実技と理想のリーダー像・現代の子どもと子ども会についての講話等を行った。	8 月 10 日 8 月 11 日	1	69
宮城広瀬高等学校連携事業「いってみよう！やってみよう！広高タイム」	宮城広瀬高等学校卓球部・書道部による地域の小学生との交流、生徒会執行部の案内による“広高祭”の見学、書道部・美術部・写真部の生徒作品ロビー展等を行った。	8 月 1 日～ 2 月 26 日	7	62

《青葉区》

来たれ！男のまなび舎	おにぎりや豚汁作り、ナポリタン作り、陶芸体験、企画会議、こけしの絵付け体験を行った。	11月23日～ 2月22日	5	44
落合栗生実年学級	高齢者のいきいきとした生活のために講話、館外学習、健康体操、調理実習、折り紙作成等生涯学習の機会を提供した。	5月16日～ 2月20日	10	306
落合・栗生地区の七夕かざり	市民センター玄関に飾る伝統の仙台七夕飾り作り、地域の保育園園児とミニ吹き流し作り、七夕の飾りつけ、振り返りを行った。	5月31日～ 7月19日	8	85
地域防災講座	小学生親子防災学習での消火訓練や綱渡り体験等の消防業務体験と、町内会防災訓練での補助避難所開設訓練や炊出し訓練等を行った。	7月27日 11月10日	2	242
落合・栗生地区まつり	市民センター利用団体や地域団体が作品展示、演芸発表、出店、フリーマーケット等を行った。	10月20日	1	1,360
令和元年度生涯学習活動発表会「みやぎ学習フェア」	宮城地区内を活動拠点とするサークルや団体の成果発表、市民センター主催事業の成果発表を行った。	2月16日	1	963
地域懇話会	町内会や各種団体へ市民センターの事業成果報告を行い、情報交換を実施した。	12月11日 1月24日	2	35
市民センター囲碁愛好家交流会	囲碁愛好家による交流会を行い、地域の小・中・高校の児童生徒や、高齢者などと交流の機会を設けた。	2月2日	1	37
落合栗生ふれあい工房	モザイクタイルの写真立て・ハーバリウム・一閑張り風バッグの物作り学習と、施設の入居・通所者と一緒に牛乳パックの小物入れ作りを通して交流した。	6月26日～ 9月25日	7	86
市民企画会議 わが青春の思い出～戦争の記憶を交えて	地域の小学校で戦争体験者（企画員）の貴重な経験と想いを語り、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に伝える講演に向けての会議やリハーサル、講演会を実施した。	通年	9	47

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

スコープ三味線「しゃべらーず」の活動支援

栗生西町内会から敬老会に出演してくれる団体はないかとの問い合わせがあり、市民センターまつりに参加予定だったスコープ三味線「しゃべらーず」を紹介したところ、大変好評で令和2年度以降も出演を依頼された。

町内会と地域団体を結び、地域の諸団体の活動拠点としてコーディネート機能を果たした。

吉成市民センター

〔沿革〕

吉成市民センターは、仙台市北西部の吉成と南吉成の小学校区中間位置に、市内 51 番目の市民センターとして平成 8 年 4 月に、児童館及びコミュニティ防災センターを併設しオープンした。当該地区は住宅地と商店街が共存し、市内北部と西部を結ぶ交通の要衝となっている。

当市民センターは、吉成小学校区と南吉成小学校区の 2 連合町内会を対象地域としている。現在、高齢化率の上昇に伴って、利用件数や利用者数も増加傾向にある。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業/住民参画・問題解決型学習推進事業 「国見ヶ丘・吉成・南吉成の魅力再発見」		
参加者	地域住民	延参加者	80 人
開催日	全 5 回 9 月 28 日（土）～12 月 21 日（土）		
協力者・協力団体	東北文化学園大学教授 八十川 淳 氏（オブザーバー）、くよみ郷土研究会（連携）、珀杜（連携）		
ねらい	平成 29 年度に立ちあがった「くよみ郷土研究会」と連携し、引き続き地域の魅力を学習し、その魅力を地域住民に知ってもらう機会を提供する。学習成果を地域住民に知ってもらうことで、団体と地域住民との交流を促進しながら、自分の住んでいる地域に対する郷土愛を醸成し、地域活性化の一助とする。		
概要・成果	複数年事業の 2 年目は、学習してきた成果をいかに発信するかを念頭に事業に取り組んできた。「くよみ郷土研究会」は、平成 30 年度から継続して「くよみ通信」を発行し、地域の魅力や気づきなどを積極的に発信してきた。また、年末には地域住民を対象とした地域学習フォーラム（成果報告会）を実施した。その席では、目的を同じにする任意団体「珀杜」との出会いもあり、着実に歩を進めている。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
がんばるママのリフレッシュタイム	①親子リトミックと親子遊び②ヨガと親子遊び③アロマ講座と親子遊び。②③回目を託児付講座として母親にリフレッシュできる時間を提供した。	6 月 20 日 7 月 4 日 7 月 18 日	3	56
共に考えよう、地域の子育て！	子育て支援にかかわる団体の代表による意見情報交換会を重ね、最後に地域で支える子育て支援についての研修会を実施した。	4 月 24 日 5 月 24 日 10 月 25 日 2 月 23 日	4	70
吉成チャイルドスクール	①仙台青陵中等教育学校科学部員を講師とした科学実験②移動天文車ベガ号による天体観察③仙台青陵中等教育学校ロボット研究部員を講師としたプログラミングを実施した。	7 月 26 日 9 月 20 日 11 月 30 日	3	90
インリーダー研修会	前半、児童はゲームの実践やプログラム作り、世話人は子ども会の役割について座学と参加者同士の情報交換を行い、後半は児童が指導者となり、全員でゲームレクリエーションを実践した。	2 月 8 日	1	41

災害に備えて	10月の市民センターまつりで、宮城消防署による災害対策に必要な備品の展示を行う等、災害予防を喚起するパネル展示を行った。	10月19日	1	100
きらめきスクール	概ね60歳以上の高齢者を対象に、全9回様々なテーマを設定し学習を継続した。令和元年度は、参加者の意見を取り入れグループワークの時間を設ける等、参加者同士の交流を促進した。	5月10日～ 2月14日	9	639
青陵の森を楽しもう～森の癒しの音楽祭～	仙台青陵中等教育学校敷地内にある「青陵の森」を会場に、同校吹奏楽部と合唱部によるコンサートを実施した。	5月11日	1	101
●あなたの町の出前サロン～市民センターがおじゃまします～	リフレッシュ体操・よくわかる介護保険の話・終活セミナー・箏曲コンサート・とっさの救急対応について・合唱サークルによる歌声コンサート等、地域のニーズを踏まえ多様なテーマで事業を実施した。	5月18日～ 2月15日	8	323
市民企画講座「ようこそ！よしなりサロンへ」	市民企画会で打合せを重ね、「交流」をテーマに事業を企画した。1回目はコーラスコンサートと茶話会、2回目は筋力トレーニングとグループワークを実施した。	9月14日 12月7日	2	39
みんなのコンサート	地域にある吉成小学校・吉成中学校・南吉成中学校・青陵中等教育学校・東北福祉大学の吹奏楽部5校による合同演奏会、交流会を行った。	2月1日 2月2日	2	386
地域スポーツ交流会	吉成・南吉成学区民体育振興会と共催し、吉成・南吉成中学生のボランティアと共に、地域住民を対象にニュースポーツの交流会を開催した。	6月22日 11月16日	2	41
吉成市民センターまつり	市民センターのサークル、各種団体、学校、児童館によるステージ発表・作品展示・出店・地域包括支援センターによる相談コーナー、婦人防火クラブの防災・消防コーナー等で地域住民との交流を図った。	10月18日 10月19日	2	927
地域懇談会	地域の町内会関係者等と、災害時の対応や連携の在り方について意見交換を行った。	11月7日 2月7日	2	46
よしなり企画会	地域住民で構成されたよしなり企画会で今年度のテーマ「交流」に向けた講座開催への企画会議を実施し、講座を開催した。	4月25日～ 12月7日	8	21

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

読み聞かせボランティア「どんぐりころころ」の活動支援

「どんぐりころころ」は、当市民センターの事業から立ち上がったボランティア団体である。地域に根ざした活動を継続し、設立から15年を迎えた。しかし、会員の減少や活動範囲の縮小など課題も少なくない。そこで活動の活性化や支えてくれた地域の方々へ感謝の場として、市民センターと共催で15周年記念事業「読み聞かせブラッシュアップ講座」を企画・実施した。

市民センターでは、団体の会員と企画の段階から打合せを重ね、広報や会場準備の支援などを行った。互いに話し合いの場を設けることで、お互いに納得のいく事業を実施することができた。その後、新規入会者の希望もあり、活動の活性化につながる機会となった。

宮城野区中央市民センター

〔沿革〕

宮城野区中央市民センターは、平成 24 年 8 月、宮城野区役所や J R 陸前原ノ町駅に隣接する複合施設内に、市内 60 番目の市民センターとして開館した。同施設には、文化センター、図書館、児童館、情報センターが併設されており、交通の利便性も良く多くの市民に利用されている。

当センターの周辺は、古くから歌枕の地と知られる歴史をきざみ、近隣には原町商店街や陸上自衛隊仙台駐屯地などを擁しており、旧来の地元住民に加え転出入者も多い地域である。市民センターとしての歴史は浅いが充実した施設を活用して、様々な学びの機会を提供するとともに、地域情報の収集・提供に努め、地域の活動を担う人材の育成や交流拠点としての事業展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	先生は高校生！		
参加者	小学生	延参加者	43 人
開催日	全 3 回 11 月 30 日（土）、12 月 21 日（土）、2 月 8 日（土）		
協力者・協力団体	仙台市立仙台工業高校模型部、仙台育英学園高校チアリーディング部		
ねらい	当市民センター近隣にある高校の部活動で活躍する生徒を講師に迎え、小学生を対象とした講座を開催する。講師役の高校生には自己の学びを小学生に伝えるという経験の場を、小学生には地域の先輩である高校生との新鮮な学びの場を提供し、地域の青少年健全育成につなげることを目指す。		
概要・成果	1 回目と 2 回目は、仙台工業高校模型部による「コマ撮りアニメーション」の実技と上映会を行った。互いにコミュニケーションをとりながら、小学生は教えてもらったことを生かして、限られた時間のなかでも撮影を完成させることができた。 3 回目の育英学園高校チアリーディング部による体験では、高校生はわかりやすく動きのアドバイスをしながら振付けを教え、小学生は、音楽に合わせて、全員がリフトまで披露することができた。 高校生たちは、小学生の笑顔や、徐々に上達していく様子に触れることを通して、教えることの楽しさや難しさ、そして達成感を実感することができた。 また、協力いただいた両校と市民センターの連携がより深まる機会にもなった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●ウェルカムひろば	地域に転入して来た未就園児の親子対象に、地域の子育て情報の提供や相談、親子ふれあい遊び、交流会等を行った。地域の支援団体と連携して子育てを支援した。	6 月 20 日 10 月 17 日	2	63
楽しく学ぼう！コドモと GO！	子育て中の親子を対象に「足育ビクス」、「かんたん工作」、「クリスマスクッキング」を実施し、子どもの健やかな育ちの環境づくりと参加者間の情報交換の場を提供した。	7 月 9 日 11 月 21 日 12 月 14 日	3	73
インリーダー研修会	地域の子ども会の核となる 5 年生及び世話人を対象に、子ども会活動への理解と活性化を図るため、活動の意義とそれぞれの役割を学んだ。	2 月 1 日	1	35
●すずむしの里 宮城野	管内 3 小学校 2 年生を対象に、仙台市の虫「スズムシ」の生態学習や飼育箱作りの出前授業を行った。また、「スズムシ配布会・交換会」では、ジュニアリーダーの遊びコーナーも設け、多くの方に参加いただいた。	7 月 3 日 7 月 11 日 7 月 26 日 8 月 27 日	4	486

《宮城野区》

ジュニアリーダーとあそぼう！	ジュニアリーダー「WithUs 宮城野」が地域の夏祭りや児童館等様々な場に出向き、メンバーの技術向上とジュニアリーダー活動の活性化、および周知を図った。	8月18日 9月14日 11月9日 12月26日	4	560
子ども参画型社会創造支援事業 「キッズもりあげ隊」	地域の子どもたちが、活気あふれるまちづくりについて考え、企画検討会を重ねて、「原町夏まつり」「市民センターまつり」のイベントに参加するなど、地域をもりあげる活動に取り組んだ。	6月15日～ 2月22日	12	335
原町本通りに七夕を飾ろう！	原町東部商工会が毎年参加している仙台七夕まつりの飾りを作り、地域のメンバーとしてまつりに参加した。仙台伝統の七夕を継承し、より愛着を深めた。	5月30日～ 8月29日	8	93
★みやぎの防災・減災ひろば	親子を対象に「持ち寄り食堂」を実施し、家にある食材を持ち寄りポリ袋を使って、災害時に役立つ料理を作った。「やさしい日本語で話そう！」では、誰にでもわかりやすい情報の伝え方を学ぶ防災ワークショップを実施し、多文化共生について考え、意見交換を行った。	10月5日 2月15日	2	36
SNS活用術@原ノ町駅前	便利な反面、様々な問題も生じている「SNS」をテーマに、正しい活用の仕方や、写真撮影のコツについて学んだ。これまで市民センターを利用したことのない参加者が多く、市民センター事業の周知にもつながった。	1月22日 1月29日	2	25
みやぎの大学	火曜日・金曜日の2コース制により月1回多分野にわたる講座を実施し、高齢者へ生涯学習の機会を提供した。受講生同士が交流を持つことで高齢者の孤立化を防ぎ、楽しさや生きがいを見出す機会となった。	4月19日～ 2月21日	18	1,235
原町小学校地元学	原町小学校 3～6 年の総合学習で、地域講師を迎えて、昔遊びや施設見学、地域資源、平和学習等地域について学び、講師と子供たちの交流が進んだ。	11月20日～ 12月6日	5	367
出前講座 こんにちは！宮中です	宮城野地域で活動する団体と共催し、コミュニティセンターに出向いて、高齢化社会に対応して認知症の講座を開催した。併せて市民センター事業の周知も図った。	1月30日	1	29
●宮城野区中央市民センターまつり Mフェス	まつり実行委員会を中心に、「舞台発表」「展示発表」「出店」「キッズクイズラリー」「抽選会」などを行い、地域町内会や他の団体との交流と親睦、さらに地域の活性化につなげた。	11月9日	1	1,800
市民センター四季コンサート	1階のロビーを会場に、地域の方による演奏会を開催した。複合施設を利用した方々が、気軽に立ち止まって音楽を楽しむ機会となり、集い交流する場の提供として大きく役立った。	8月28日 10月31日 12月4日 2月5日	4	390
宮城野区中央市民センター地域懇話会	町内会や管内学校、地域で活動する団体と情報収集や意見交換を行い、市民センターとして取り組める地域課題やニーズを把握した。	6月13日 2月14日	2	35

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「宮城野原案内人の会」の活動支援

ガイドボランティア「宮城野原案内人の会」の自主活動は令和元年度で3年目となり、地域の魅力を再発見するまち歩きを毎月開催するなど着実に成長している。令和元年度は、地域の小学校から3学年社会科授業の地元学講師として依頼を受けた。講義を行った際には、地域のエピソードを盛り込むなど子ども向けに工夫をして、児童の興味を大きくつかんでいた。小学校からは早々に、令和2年度も継続してほしいとの申し出を受けている。

また、地域住民から貴重な昔の街並みのデータを提供いただき、それを見ながら会員と地域住民が交流を深めるとともに写真パネル作成まで発展した。令和2年度はこれを活用したパネル展示会も予定している。

市民センターでは、パネル展示会や学校へのコーディネート、広報支援など、継続してグループ活動を支援している。

生涯学習支援センター

〔沿革〕

仙台市の公民館は、昭和 21 年に在仙文化人有志による民間団体が主体となって設置されたのが始まりで、昭和 24 年に仙台市公民館条例が制定され、行政機関としての「仙台市公民館」が発足した。その後、各地域の公民館設置とともに、昭和 48 年には「仙台市公民館」を「中央公民館」と改称。昭和 58 年には榴岡図書館とともに現在地に開館し、平成元年には「中央市民センター・公民館」となり、翌年には「中央市民センター」と改称した。さらに平成 26 年 4 月より「生涯学習支援センター」と改称し、仙台市の生涯学習支援体制の充実・強化を図った。

当センターが位置する仙台駅東口周辺は、高い利便性を生かした企業や学校、マンションが混在するとともに、古い歴史ある地域としての顔も併せ持っている。こうした立地条件から、市内各方面からの利用者や夜間の利用頻度も高く、多様な学習活動、市民活動が活発な状況となっている。

なお、施設機能の見直しに伴い、当センターにおける地区館事業は、平成 26 年度より近接する榴ケ岡市民センターの出前講座として実施している。

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

市民交流の場の提供

7 月から 8 月にかけて併設の榴岡図書館との共催で開催した「たなばたさろん」では、短冊を用意して来館者に願い事を書いてもらったり、織姫と彦星の顔出しパネルを設置したりする等、来館者に楽しんでもらう機会を設けた。

また、「たなばたさろん」期間中に「ワンデイイベント」と題して、ミニコンサートや「消しゴムはんこで七夕グッズ作り」を企画・実施した。榴岡図書館と共催でイベントを実施することにより、多くの来館者の交流を図ることができ、図書館内で開催していた七夕フェアへの集客にもつなげることができた。

〔沿革〕

高砂市民センターは昭和 43 年、高砂小学校校舎を改築し高砂公民館として発足した。昭和 53 年宮城県沖地震で建物が大破し隣接する前高砂小学校給食センターを改築、昭和 54 年に移転した。平成元年「高砂市民センター・公民館」、翌年「高砂市民センター」と改称、その後平成 6 年高砂地区の中心部に複合施設として新たに開館した。

この地区は、七北田川、貞山運河、蒲生干潟、そして南部には広い田園地帯が広がっている自然に恵まれた地域である。また、東北の海の玄関口、物流の拠点である仙台港を配し、背後地には大型商業施設等の進出も相次ぎ、急激な都市化が進んできたが、平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸部が津波で甚大な被害を受け、中野地区は仙台市災害危険区域条例に基づき災害危険区域に指定され移転対象地区となった。地区内の 4 町内会は解散し、多くは田子、上岡田、南福室に移転した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★高砂デ・アオーネ		
参加者	どなたでも	延参加者	945 人
開催日	全 6 回 8 月 8 日(木)～1 月 23 日(木)		
協力者・協力団体	平日フェス実行委員会 高砂児童館 広瀬川倶楽部 高砂老人福祉センター 中野ふるさと YAMA 学校 郷土料理つたえ隊 宮城野親子で料理プロジェクト		
ねらい	高砂市民センターは東日本大震災における被災者の交流と再会の場づくり事業を行ってきたが、被災地支援に訪れてくれた方と地域住民との間にも新たな絆が生まれ、再会の場となっている。毎年再会を楽しみにボランティアとして演奏に訪れる方も多いほか、新たなコンサートの開催もあり、音楽という文化色あふれる事業が多いことも特色の一つとなりつつある。また、児童館や老人福祉センター、保健センター等の複合施設であることから幅広い年齢層の利用があるため、誰でも気軽に参加できる事業を通した異年齢交流と新たな絆による地域づくりを目的に開催する。		
概要・成果	平成 23 年度より継続している「ウェルカム高砂サローネ」を更に分かりやすく、親しみやすいネーミングに変更し開催した。内容についてはコンサートなどを中心に、誰でも気軽に集まることができるものになるよう工夫している。 具体的な開催内容としては、静岡や広島などからの被災地支援団体によるコンサートや地域内外の団体が協力して開催するイベント、高齢者と子どもたちが交流を楽しむ季節の行事など、どの講座も「交流を通じた地域づくり」を意識し開催した。 参加者同士の交流はもちろんのこと、被災地支援のボランティア団体と地域住民、参加団体同士、異世代間など様々な形で交流の輪が広がり、それぞれの活動の活性化に繋がった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高砂子育てサロン～子育てママの元気塾～	①実技「英語であそぼう」②実技「親子で 3 B 体操」③医療講話「子どものおしっこの話」④調理実習「子どものおやつ作り」⑤実技「親子で 3 B 体操」を実施した。	6 月 13 日～ 2 月 4 日	5	142
たかさご Kids スクエア	①「フラダンス」②「読み聞かせ」③「書道」④「人形劇」(①～④高砂小 夏の講座) ⑤草木染め⑥書道アート⑦親子で味噌作り⑧新体操にチャレンジを実施した。	7 月 26 日～ 1 月 16 日	8	162

《宮城野区》

宮城野区インリーダー研修会	岡田小学校地区と鶴巻小学校地区の児童と世話人を対象に、子供会の役割やインリーダーとしての役割についての講話と実技を実施した。	2月8日	1	25
高砂老壮大学	高齢者を対象に音楽鑑賞、歴史講座、医療講座、健康体操、演芸大会等を実施した。	4月15日～ 3月4日	15	686
地域で取り組む「みんなのBOSAI」	・指定避難所運営委員会を立ち上げ、訓練についての検討会を開催。 ・地域町内会、小中学校と共に避難所運営訓練を実施。	11月7日 11月10日	2	516
高砂市民センター懇話会	①管内町内会との懇話会 ②活動サークルとの懇話会 地域課題の収集と共有、市民センターへの要望など幅広い内容の話し合いを行った。	5月11日 11月16日	2	20
★花咲く海辺づくりプロジェクト	①海浜植物の観察と清掃活動 ②苗の植替え ③植栽活動と清掃活動 ④来年度へ向けた種蒔き	5月30日 6月27日 10月10日 11月14日	4	257
高砂オープンカレッジ	だれでも参加できる講座として、①調理実習「おしゃれなキッチン」 ②運動「初めてのミニテニス」 ③大人の美術体験「粘土の時間」を開催した。	6月1日～ 2月20日	5	79
★中野ふるさと学校	「中野ふるさとYAMA学校」のメンバーと共催の市民企画講座。日和山登山、小学生との自然観察講座、写真で辿るふるさと講座、ダーツ交流会などを開催した。	4月12日～ 2月14日	21	392
★仙台蒲生日和山山開き登山プロジェクト	7月7日開催の「仙台蒲生日和山の山開き」に向けて実行委員会を立ち上げ、4回の企画会議と山開き当日のイベント運営を行った。	4月19日～ 7月26日	5	280
★出張！高砂市民センター	地域の集会所などを会場に、「夕涼みコンサート」（ギター）、「オモイデトーク」、「笑いは心の万能薬」、「セルフつば押しでキレイになりましょう」を4出前形式で実施した。	8月23日 9月27日 10月8日 2月16日	4	80
●高砂市民センターまつり	高砂市民センターまつり実行委員会が主体となりまつりを計画、開催した。オープニングセレモニー、ステージ発表、作品展示、屋外催事、市民センター事業成果報告、ボランティア団体・活動団体の活動紹介を行った。	10月27日	1	3,600

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中野ふるさと学校」における鶴巻小学校児童との活動について

主催事業「中野ふるさと学校」は、市民活動サークル「中野ふるさと YAMA 学校」と共に、令和元年度の活動目的の一つに「自然豊かな中野・蒲生地区の再生」を掲げて開催した。地域の素晴らしい自然について子どもたちに学ぶ機会を提供すべく、連携先を模索していたところ、各小学校と情報交換をする中で、鶴巻小4年生が自然環境について学ぶ場を探していたことを知った。そこで、「干潟の生き物観察会と日和山登山」の企画を提案し、開催に至った。

地域と密に関わり情報収集を行った結果、地域団体と市民センター、地域の学校三者の連携をコーディネートし、地域団体の活躍の場と児童の学習の機会を提供できた。さらに、鶴巻小より事業継続の要望があり、令和2年度についても開催が決定している。

岩切市民センター

〔沿革〕

岩切市民センターは昭和 56 年に開館した「岩切公民館」を前身とし、平成 2 年「仙台市市民センター条例」により「仙台市岩切市民センター」と改称された。平成 18 年 6 月から 12 月まで大規模改修が行われ現在に至っている。建物内部には市民センターのほかに、保健センター、老人憩いの家、コミュニティ防災センター資機材倉庫が併設されており、さらに平成 22 年 3 月より岩切証明発行センターが併設された。

当地区は宮城野区の北東部に位置し、美しい田園風景が広がる。古からの歴史と文化を伝える神社、仏閣、遺跡が点在している。近年は岩切駅前地区の再開発により若い世代の人口増加が著しい。人々の学習意欲は高く、自主サークル活動が盛んに行われてきた地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	すずむしリンリン講座		
参加者	出前授業：岩切小学校 4 年生 放虫：職場体験中の中学生 配布会・コミュニティまつり：どなたでも	延参加者	521 人
開催日	全 4 回 6 月 21 日(金)、7 月 27 日(土)、8 月 22 日(木)、10 月 27 日(日)		
協力者・協力団体	すずむしの里づくり実行委員会、岩切小学校、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、岩切地区町内会連合会、岩切たんぽぽ保育園		
ねらい	都市化が進むことで失われつつある自然環境の中、仙台市の虫・スズムシを飼育し、自生させる活動を通して、多くの市民が自然に興味を持ち、人とスズムシが共存できる潤いのあるまちづくりを目指す。		
概要・成果	岩切小学校 4 年生を対象に毎年出前講座を行っているが、担当講師は、様々な反応を見せる児童にその場で工夫を凝らし、集中して聞いてもらえるように講義を行っている。初めはスズムシを怖がっていた児童も、授業の終わりには進んでスズムシに触れるようになった。 また、当初予定していた保育園児との放虫は園側の都合で実施できなかったが、代わりに職場体験中の中学生が参加し、実行委員とともに放虫を行った。配布会やまつりなどの来場者は年々増加しており、住民のスズムシに対する興味・関心が高まっていることがうかがえる。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
市民企画講座「ママとキッズの Happy Time」	市民企画会議「ママ&キッズのハッピーイベント企画隊」に参画した企画員が企画した、子育て中の親子のスキップを図る講座や子育ての具体的な知恵を得る講座を実施した。	10 月 24 日 11 月 19 日 11 月 27 日	3	98
家庭教育地域交流会講座	防災について親子で学ぶ講座を開催し、防災の意識を高めた。また、保護者を対象に「やる気のもと見つけてみよう」と題した、自己肯定感について学ぶ講座を実施した。	9 月 28 日 11 月 16 日	2	77
家庭教育地域交流会	岩切地域で小中学生の教育に関わっている 6 団体が定期的に会議を行ない、その時々には起きている問題を話し合っており、それに対応する講座を企画・実施した。	6 月 5 日～ 12 月 19 日	6	64
●岩切子育てネットワーク	地域の教育施設や子育てサークル等の諸団体が連携し、子育てに関する課題や情報を共有するとともに、協力して講座を開催することで子育て中の親子を支援した。	4 月 25 日～ 12 月 11 日	8	507

インリーダー研修会	岩切小学校区の子ども会の代表と世話人を対象に、地域における子ども会活動の活性化を図るため、子ども会についての知識や役割、行事で活用するプログラムやゲームの進め方を学ぶ機会を提供した。	2月22日	1	43
ジュニアリーダーと遊ぼう	児童館と共催し、ジュニアリーダーが地域の小学生を対象に、ゲームや工作を通じて世代間交流や集団遊びの機会を提供した。	11月16日	1	56
岩切小学校地元学連携講座	岩切地域に古代から自生する苧麻(カラムシ)を題材に、地元の小学生が地域講師からその歴史や素材の活用方法等を学び、地域への興味・関心を高めた。	7月17日 9月2日 9月3日 9月4日	4	376
岩切老壮大学	60歳以上の高齢者を対象に、健康講話や軽体操、歴史講話、コンサート等定期的に学習の場を提供し高齢者の交流や生きがいづくりに努めた。	4月17日～ 2月19日	9	635
岩切地域懇談会	地域活動団体との懇談会、岩切地区公所団体等との意見交換会を行った。	11月21日 2月22日	2	31
岩切市民センターまつり	市民センターを拠点とするサークル等の学習成果の発表や地域住民の交流の場として開催する予定であったが、台風19号の接近により中止した。	【中止】 10月12日 10月13日	-	-
考えよう！岩切の防災	保育園児に防災学習の出前講座を実施した。また、直下型地震についての知識や具体的な対処要領を学ぶことで、自助の実力を高めた。さらにAED講習会を開催した。	6月19日 12月7日 2月1日	3	83
子どもの広場（居場所）づくりボランティアの養成	毎月最終土曜日の午後、体育館を子どもの広場として開放し、子ども達に様々な遊びを体験させ、それを見守るボランティアの養成に繋げる講座を実施した。	6月29日～ 2月22日	8	139
市民企画会議 ママ&キッズのハッピーイベント企画隊	子育て中の母親が同じ立場の親子向けの講座を企画運営したことで、自ら創造することや学ぶことの楽しさを知り参画事業への理解を促した。3回の企画会議と、3回の講座開催、反省会を行った。	7月6日～ 12月6日	7	27

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「I O C（岩切おもしろ倶楽部）」への活動支援

「I O C（岩切おもしろ倶楽部）」は、平成27年度の市民企画会から立ち上がったサークルであり、あらゆる世代が交流できるイベントを通じて、活気ある地域づくりに貢献することを目的として活動している。令和元年度は、岩切台ヶ原界隈のまち歩き、教育映画「てんびんの詩」の上映会、落語や漫才などの「岩切おもしろ寄席」に取組み、のべ300人の参加を得た。特に市民センターと共催した寄席では、初めて児童館の子どもたちが出演する大喜利をプログラムに組み込み、地域住民と次代を担う子どもたちの新たな交流の場を設けることができた。各イベントの参加者アンケート結果は、高評価であり、I O Cの活動は地域に大変期待されている。

岩切市民センターは、I O Cがイベントを自主運営できるように、活動への助言や関係機関との調整、広報活動の支援等に努めている。

鶴ケ谷市民センター

〔沿革〕

鶴ケ谷地区は、仙台市が大型モデル団地として開発し、昭和 43 年から入居を開始した住宅団地である。

鶴ケ谷市民センターは昭和 47 年 5 月 22 日、団地の完成とともに RC3 階建、温水プールを併設する施設として開館した。その後、地域住民から生涯学習への要望が高まり、昭和 59 年から岩切公民館の協力を得て、各種の講座を開始したが、本格的に生涯学習が展開されたのは、平成元年に市民センター・公民館として発足してからのことである。平成 4 年 4 月には児童館が併設され、地域の生涯学習・児童福祉・コミュニティづくりの拠点となった。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により鶴ケ谷市民センターが被災し使用不能となったことから、平成 24 年 3 月から近傍に仮事務所を設け生涯学習事業を行ってきた。平成 28 年 4 月 2 日からは、第一市営住宅団地再整備地内に市民センター（単独館）を移転・新築して開館し、地域の生涯学習・交流・コミュニティづくりの拠点として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●みんなで支え育もう！鶴ケ谷の心を！		
参加者	①地域情報：鶴ケ谷地区町内会会長 ②学習会：地域住民 ③検討会：地域団体及び学校の代表 ④子ども参画型社会創造支援事業：中学生	延参加者	①21 人 ②99 人 ③21 人 ④中学生 226 人 大人 58 人 地域住民 約 200 人
開催日	全 28 回 4 月 24 日(水)～3 月 11 日(水)		
協力者・協力団体	連携：宮城野区ふるさと支援担当課、鶴谷中学校、教育局生涯学習支援センター、鶴谷中学校支援地域本部スーパーバイザー、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター 協力：手話サークル「ひょうたん」、鶴ケ谷赤十字奉仕団		
ねらい	鶴ケ谷地域（鶴谷、鶴谷東、燕沢、西山小学校区）は高齢化率が約 33%と仙台市の中でも高く、特に鶴谷小学校区は高齢化率が約 38%である。また、町内会をはじめ地域諸団体を支える後継者の不足が課題として浮上している。 そこで、地域の声（現状や課題）を聞き、実情に応じた改善のための仕組みを見つけ、住民主体でのまちづくりを推進し、支え合い意識の高揚を目指す。 ①地域情報の収集・発信を通じて、課題の共有と交流の促進を図る。 ②地域ニーズに沿った学習会を通じて、支え合いの意識の高揚を図る。 ③検討会を通じて、地域課題の共有と子ども参画型社会創造支援事業の始動。 ④子ども参画型社会創造支援事業を通じて、子ども達の自己肯定感を育む。		
概要・成果	①年間を通じて町内会会長及び地域諸団体代表と個別に懇談を実施し、地域行事や地域学習に協力いただける人材情報を逐次蓄積し、必要に応じ地域団体等に情報提供を行った。 ②地域ニーズ「手話の担い手の後継者不足により避難所などでの聴覚障害者へのケアができない」という状況を改善するため、講座「チャレンジ手話ソング講座」（連続 6 回）を開催し、手話通訳者の育成に寄与するとともに、「防災手話リーフレット」を作成して町内会等に配布した。また、救命救急法講習会、はっぴいママ講座 in 鶴ケ谷を通して支え合いの意識を向上させた。 ③住民主体での地域づくり検討会を行い、地域課題を共有し改善策を検討するとともに、子ども参画型社会創造支援事業推進検討会を開催し、チーム「つるっこ画樹園！～実れ鶴心～」を発足した。 ④令和元年度は鶴ケ谷の魅力を探り、写真や絵で記録して、12 月に中学生企画・主催による「杜の美術ファースト展」を開催し、地域住民の交流広場を設けた。交流広場では、大人から「鶴ケ谷の新しい魅力を見つけた」「今回の企画は素晴らしい」などと声をかけていただき、中学生が地域の一員として達成感を得るとともに、水彩画作成、美術展企画・開催などを通して自己肯定感を育んだ。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
つるがや子育て応援ひろば	絵本の読み聞かせや手遊びなど子ども向けの知育講座、親子で3B体操、母親向けリフレッシュ講座として託児付でフォトブックスタンドづくりを行い、子育て中の母親の不安解消・孤立防止に努めた。	5月31日 9月4日 10月8日	3	57
●鶴・燕・西 子育て支援ネットワーク事業「子育て応援ひろば」	子育てネットワークを構築し、乳幼児親子に関する情報交換を行い、子育て相談コーナーや乳幼児親子が楽しく交流できるフェスタを開催して、相談窓口の周知及び孤立防止に努めた。	11月28日	1	100
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童研修では、リーダーの心構えや子ども会行事の計画の立て方などを学び、世話人研修では世話人の役割を学び、地域毎の活動状況を情報交換して、活発な子ども会活動の推進に努めた。	2月15日	1	70
鶴ヶ谷キッズステーション	学校では体験できないホバークラフト作りやカルメ焼き等科学の不思議体験や、地域資源「ひょうたん沼」での自然体験、盲導犬や仙台市議会の訪問体験などを行い、子どもの探求心や創造性、実行力を育んだ。	5月11日～ 2月8日	7	147
★君もプチレスキュー	中学生に救命法やAED使用法、避難所運営に必要な知識・技能を学ぶ機会を提供し、災害発生時に地域の一員として活動できるよう努めた。また、地域住民に指導者として関わっていただき、顔の見える関係を築いた。	7月10日 8月20日 9月6日 12月10日	4	393
市民企画会議「女性のいきいきライフ in 鶴ヶ谷」	地域に住む女性企画員を募集し、女性目線で地域課題を探り、課題解決のために講座を企画する機会を提供した。そして、女性企画員に講師等を努めていただくことで、地域リーダーとして自立を目指した。	5月23日～ 1月17日	9	36
市民企画講座「女性のいきいきライフ in 鶴ヶ谷」	市民企画会議で健康をテーマに企画した医学博士による健康講話やボイストレーニング、椅子ヨガ、クッキングの4講座を行い、女性同士の交流を深め、悩みや楽しみを共感し合える関係性を構築した。	9月12日 10月10日 11月14日 12月12日	4	68
鶴ヶ谷ことぶき大学	専門講師を招き地域防犯、異常気象、歴史、医療、介護予防を学び、音楽や落語を楽しみ、大崎地方の歴史を学ぶ館外学習などを行い、高齢者の学習意欲を高め、生きがい・仲間づくりに貢献した。	5月15日～ 2月19日	10	614
すずむしの自然学校	小学生にスズムシの生態や飼育の仕方を学習・体験してもらい、自然環境や命の大切さを学ぶ機会を提供した。また配布会を行ない、絶滅の危機にある仙台市の虫に指定されているスズムシの自生の促進に貢献した。	6月27日 8月2日 8月29日	3	223
鶴ヶ谷市民センターまつり	地域団体と市民センター利用サークルによる実行委員会形式で企画運営し、児童ダンスやハーモニカ演奏等のステージ発表、習字や絵ハガキ、鉄道模型等の作品展示、絵ハガキ等の作成体験により交流と親睦を深めた。	10月26日	1	1,600
鶴ヶ谷市民センター懇話会	町内会など地域諸団体と市民センター利用サークルを対象とした懇話会を開催し、市民センター事業の取組方針等を説明し、意見・要望や地域課題の把握に努め、市民に寄り添った管理・運営に反映した。	5月30日 11月16日	2	37

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「図書ボランティア もくれんの会」 の活動支援 「図書ボランティアもくれんの会」は、平成28年度事業「図書ボランティア養成講座」の受講者がメンバーとなり、現在14名で活動している。本の貸出・返却の対応に加え、蔵書点検、本のカバー掛けなどにも積極的に携わっている。また、市民センターまつりや子育てイベントで、本の紹介や葉などの配布を行い、読書の楽しさを伝えている。さらに、地域住民に本の寄贈を呼び掛け、受け入れる活動にも携わり、現在までに約580冊の寄贈を受け入れている。令和元年度は、ポスターを作成して近隣の商業施設に貼り出す等、図書室の広報にも力を入れた。 市民センターでは、メンバーが蔵書点検・整理、本のカバー掛け等の技術を習得できるよう、講師を招いての研修会を行う等、継続的にスキルアップ支援を行っている。
--

榴ケ岡市民センター

〔沿革〕

榴ケ岡市民センターは、日本住宅公団の高層共同住宅の建設に伴い、一階・地階部分の一部を市民会館の分館として位置付け、昭和 48 年 6 月に開館した。平成元年 4 月には公民館が併設され、翌年 4 月に「榴ケ岡市民センター」に改称された。平成 24 年 7 月 31 日にはそれまでの本館を閉館し、同年 8 月 28 日に榴岡公園軽体育館の名称を「榴ケ岡市民センター」へ変更して現在に至っている。

当市民センターは、市民の憩いの場である榴岡公園に隣接し自然環境に恵まれ、近くには仙台市歴史民俗資料館、国の合同庁舎、楽天生命パーク宮城などがある。中心市街地として都市基盤整備が進み古くからの街並みが日々変化している中、新旧地元住民の交流の場として、また各種会合や生涯学習活動の場として多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座 ほぼ榴ケ岡ココいいね！		
参加者	概ね 20 代～30 代の方	延参加者	25 人
開催日	全 6 回 9 月 7 日（土）～2 月 2 日（日）		
ねらい	生き方や働き方が多様化する現代社会において、若い世代が地域に目を向ける機会が少なくなっている。そこで、20 代から 30 代が交流しながら同世代向けに地域の歴史や情報を面白く発信できるような情報誌を作成することで、地域への興味関心を喚起し、さらに地域の活性化に寄与することを目指す。		
概要・成果	参加者が 20 代～30 代と忙しい世代であるが、講座の時間外でもお店等に取材に行き、記事を作成するなど精力的に活動を行った。本講座を企画した「キラキラ社会人企画会」企画員は、平成 30 年度から継続して参加した方も多くいることから、講座の中で地域のガイドボランティアの方々から教わったことを活かし、令和元年度はより密なお店の取材を行った。そのことを通して、若い世代の感性を活かした情報誌を完成することができた。参加者それぞれが地域の方々と触れ合うことの楽しさと面白さを実感し、今後はその魅力が溢れる情報誌を活用した活動にもつなげていく。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●まごまごしない孫育て	仙台市で発行している祖父母手帳を活用した子どもの心身の発達に必要な子育て支援の情報提供、孫との遊び方やのびすく宮城野見学、円滑な関係づくりの秘訣について学んだ。	6 月 19 日～ 7 月 25 日	5	53
インリーダー研修会	榴岡小学校に通う児童が属する子ども会の充実と活性化を図るため、核となるリーダーと世話人を対象に子ども会に関する知識やレクリエーションゲームを学んだ。	2 月 8 日	1	55
東口ゆうえんち	学校や学年の違う子どもが大勢で一緒に遊べる場として企画講座を 4 回開催した。社会人や学生からなるボランティアスタッフの企画と運営で、子どもたちは楽しみながら社会性や公共性を身に着けた。	5 月 18 日～ 2 月 16 日	12	293
榴ケ岡老壮大学	高齢者が安心して集い、交流・学習できる場が求められていることから、受講生により組織された運営委員会を中心に、年間を通して様々な分野を学び、受講生同士の交流を図った。	5 月 17 日～ 2 月 20 日	10	569

《宮城野区》

東口ますます元気教室	地域包括支援センターと共催で、高齢者を対象に定期的に学習と交流の機会を設け、介護予防の一助とした。	5月16日～ 2月19日	9	352
とっておきの時間～ 未来計画	自分の今の気持ちや生活環境・他人とのかかわりなどを振り返るツールとして新聞を使って表現する講座を実施した。	6月22日～ 1月21日	8	110
はじめの一步 ～地域活動ことはじめ～	バルーン編とパソコン編を開催し、バルーン編はセンターまつりでその成果を発揮した。パソコン編では祖父母向けのプログラミング講座を開催し、お孫さんとのコミュニケーションの一助とした。	9月8日～ 2月13日	8	54
榴岡寺子屋	実行委員会と歴史・防災・福祉の学習会を開催した。また、新規転入者との交流をはかるウェルカムまち歩きを開催した。	4月13日～ 2月21日	13	201
榴ケ岡市民センター まつり	榴ケ岡市民センターを主な拠点として活動しているサークルや地域団体による舞台・展示発表、体験コーナー、スタンプラリーやアルファ米炊き出し訓練、動物とのふれあいコーナーなどで交流をはかった。	10月5日	1	400
榴ケ岡市民センター 地域懇談会	町内会や地域の団体、サークル、センター利用者と意見交換をし、センター事業について理解を深めていただいた。また、地域の情報をお聞きし、地域ニーズや課題について共有した。	10月25日 11月22日	2	20
つなげよう 平和の バトン	戦争について朗読や記事等を通して伝えている方々に、活動内容や思いを聞くことで平和の大切さを知る機会となった。講座の中では戦争体験者との関わりもあった。	1月17日～ 2月14日	5	77
キラキラ社会人企画 会	昨年度から継続して企画会を開催し、企画講座での情報誌作成に向けて意欲的な活動を展開した。市民センターまつりへも参加し、地域の方々にも活動を知っていただく機会となった。	4月21日～ 10月6日	7	22
東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」ガイド養成講座	多くのガイド依頼に対応するため、東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」と共催で全5回の養成講座を開催した。	1月18日～ 2月15日	5	73

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」の活動支援

平成 25 年度の市民センターの養成講座から立ち上がった、東口ガイドボランティア「宮城野さんぽみち」は、毎月 28 日に開催しているまち歩きや小学校の総合学習、専門学校や主催講座の講師など、楽しみながら地域の歴史的資産や文化を伝える活動を行っている。市民センターは、まち歩きを希望する団体との調整や、主催事業との連携など、地域活性化の一助となる活動を支援している。

令和元年度は上記に加えて、市外の公民館や市の施設と企業の共催企画など、ガイドの要請が急増していることから、市民センターと共催で新たなガイドボランティアを増やすための「ガイドボランティア養成講座」を行った。参加者の中にはまち歩きへの参加がきっかけで養成講座を受講する方がいるなど、学びを地域にいかす一歩にもつながっている。

東部市民センター

〔沿革〕

東部市民センターは、昭和 47 年 5 月に旧保健所庁舎の一部を改装し開館した「東部市民福祉会館」を前身としている。昭和 58 年 4 月に改築され、平成に入り「東部市民センター」に改称、平成 5 年 4 月には「東部児童館」が併設されている。当市民センターの中学校区は東仙台中学校、小学校区は東仙台小学校・新田小学校が管轄である。

周辺には、ＪＲ 苦竹駅・陸前原ノ町駅・小鶴新田駅・東仙台駅があり、仙石線、東北本線、貨物線、新幹線等が通る鉄道景観が見事に交錯する街並である。

さらに、当センターは宮城野区役所から北東へ約 0.7km の地点に位置し、南に国道 45 号線と北に利府街道、その中間を跨ぎ繋ぐ形で、通称「中原地区」といわれる住宅地にある。また、付近には、東仙台・苦竹・原町・自衛隊苦竹駐屯地など、それぞれに歴史を持つ住宅地や商業地が広がっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「東部スマートエイジングサロン」		
参加者	成人男性	延参加者	27 人
開催日	全 4 回 7 月 27 日(土)、11 月 30 日(土)、2 月 8 日(土)、2 月 22 日(土)		
ねらい	地域のシニアが定年後、「いい顔」で過ごすためには、自分の内面の充実と地域社会の中でつながりをもつことが大変重要である。 本事業は、活動したいがなかなか地域で活動できない男性シニアに向けて、自分と向き合いながら、そのきっかけ作りと居場所を提供することを目的とする。		
概要・成果	平成 30 年度から始まり、2 年目となるこの企画会議は、参加者が、4 名から 5 名と 1 名増加し、地域で活動したいができない男性シニアに対し、どのような講座を実施すれば男性が参加しやすくなるかを話し合い、多くの意見が出された。シニア男性を参加させるための仕掛けづくりについて平成 30 年度より踏み込んだ内容で話し合いを行ったことで、企画員自身の地域活動の内容や取組み方のスキル向上につながった。 この企画会議をとおして、「スパイスの話とカレー作り」「ニュースポーツを楽しもう!」「スマートエイジ世代の読み聞かせ」を企画・実施した。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てママの元気のサブリ（託児付事業）	親子遊び 2 回、ママのリラックスタイム 2 回（託児付き）及び各回終了後、自由参加の「おべんとカフェ」を実施した。託児室を設け安心できる環境の中、子育て中の親が、自分自身を振り返り、リフレッシュする機会を提供した。	11 月 8 日 11 月 15 日 11 月 22 日 11 月 29 日	4	90
キッズのいきいきタイム	小学生が、地域にある施設や歴史・自然環境を題材に学習・体験した。①『みやぎのカルタ』を活用した地域の歴史学習②楽天ボールパーク見学③元気フィールド仙台でのスポーツ体験（ボルダリング）	6 月 8 日 8 月 18 日 2 月 22 日	3	39
Let's enjoy!! ～子どものためのプログラム～	子どもたちが地域の異世代との交流や体験を通じ、社会性を育む機会とし、併せて地域全体で子どもの健やかな育ちを支える環境づくりを図った。新田小昔遊び、ジュニアリーダーと遊ぼう、お手紙ワークショップ、小正月ごっこ等を実施した。	4 月 25 日～ 1 月 10 日	7	435
インリーダー研修会	児童向けには子ども会の活動計画書づくり、世話人向けには子ども会の目的と世話人の役割についての講話とワークショップを行い、ゲームの発表と体験を実施した。	2 月 1 日	1	49

老壮大学 「東部いきいきスク ール」	運営委員会での意見や要望、提案などを取り入れ、様々 な内容の学習の場を提供した。開講式・文学・歴史・館 外学習（花座見学）・クリスマス交流会等を実施した。	5月15日～ 2月19日	9	273
いきいき健康ライフ	地域の高齢者が楽しく健康な毎日を過ごせるように、気 軽に参加できる体操教室を開催した。ロコモ予防運動や ニュースポーツ体験、歌いながら行う脳トレゲームなど で交流しながら楽しく体を動かした。	1月24日 2月7日 2月14日	3	69
TOSEN COMMUNITY ～中学生と交流しよ う～	東仙台中学校卓球部員と市民センター利用団体による 卓球の練習試合と交流会を実施し、中学生と地域住民と の交流の場を設けた。	12月7日	1	42
WA！食でつながろ う	旬の野菜、郷土の行事食についての講話と調理実習を行 った。夏の行事食、新米を使った秋の季節メニュー、冬 の野菜たっぷりのあったかメニューを学んだ。	6月29日 10月26日 1月18日	3	59
地域で支える防災ル ール	東仙台災害対策委員会との連携を図り、避難時の役割と 行動について学んだ。①東仙台災害対策委員会 定期総 会、②東仙台災害対策委員会 防災研修会	6月16日 2月25日	2	80
第 25 回東部ふれあい まつり	町内会や地域団体、市民センター利用サークル、地域の 小中学校の学習成果の発表の場を設け、参加者が協力し 合って地域のまつりとして実施した。	10月6日	1	1,500
東部ふれあいコンサ ート	第1部を詩の朗読とクラシックギター演奏のコラボレ ーション、第2部をゴスペルコンサートとし、大人から 子供まで気軽に楽しめる内容で開催した。	12月21日	1	30
東部市民センター地 域懇話会	地域の町内会長や諸団体、管内学校関係代表、市民セン ター利用団体を対象として、市民センターの事業につい て意見交換し要望を聞き取った。	6月25日 2月15日	2	25
市民企画講座「東部ス マートエイジングサ ロン」	市民企画会議「東部スマートエイジングサロン」を経て、 「スパイスの話とカレー作り」「ニュースポーツを楽し もう！」「スマートエイジ世代の読み聞かせ」を実施し た。	11月30日 2月8日 2月22日	3	22

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域をつなぐボランティア「東仙台よろこびの会」と「新田よろこびの会」への活動支援

東部市民センターを拠点に、上記2つのボランティア団体が活動している。

「東仙台よろこびの会」は、人と人とのふれあいの中に奉仕する喜びを見出したことからその名が付けられた。単身高齢者だけでなく、地域の方々がいつまでも住み慣れたまちで自分らしい生活が続けられるようにと始めた活動は、令和元年で35年目を迎えた。

一方、平成5年新田地区にも住宅が増えたことで、「新田よろこびの会」が「東仙台よろこびの会」から分離独立し、地域の皆さんの笑顔とコミュニケーションを励みに活動を続けている。

当市民センターでは、新田小学校や東部児童館と連携し、配食弁当に添えるカードを地元小学生に書いてもらったり、出前授業で昔遊びを教えてくれる講師を依頼したりする等、両ボランティア団体が地域において活躍する後押しをしている。

幸町市民センター

〔沿革〕

幸町市民センターは、平成 5 年 4 月 20 日、幸町児童館及び幸町コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

当市民センターがある幸町中学校区は、大型商業店舗の進出、民間マンションの建設などで町並みの変容著しい幸町・大槻地区と、与兵衛沼、柗江の森などの緑豊かな自然に恵まれた柗江地区からなる。仙台市ガス局や県・市障害福祉センターなどの公共施設や、きぼう園、いずみ授産所などの福祉施設とともに、国、県、市の公営住宅があり、民間も含めて集合住宅が多い地域でもある。また、平成 26 年度には復興公営住宅も完成した。高齢化が進む中、子育て中の世代や若年層の住民の増加もみられ、ここ数十年で地域の環境は大きく変化した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画事業「柗江の森魅力発信プロジェクト」		
参加者	地域住民	延参加者	125 人
開催日	全 11 回 4 月 13 日(土) ～ 2 月 7 日(金)		
協力者・協力団体	柗江学区町内会連合会、まちづくり推進部宮城野区中央市民センター、柗江小学校、仙台市百年の杜推進課		
ねらい	柗江小学校の敷地内にある「柗江の森」の活性化を目的とし、柗江小学校のスーパーバイザー等の学校関係者と情報交換しながら、森をより身近に感じられるよう企画を実施し、地域に向けて魅力を発信する。また、企画員と講座参加者が共に交流を深め、森を楽しむ時間を持つことで、地域に愛着を持ち「地域づくりにつながる人づくり」を図る。		
概要・成果	令和元年度の目標を「四季をとおして柗江の森を観察し、体感する。」と設定した。夏は森を歩き、見どころをガイドから学び、秋は森で得られた素材を使つての工作体験を行った。それぞれの行事で、自らが「森の達人」を目指し、柗江の森の良いところを探し、森の魅力を実感することができた。また、これまで取り組んできた 2 年間の成果を「柗江の森～森においてよ～」というリーフレットにまとめ、各小学校、中学校に配布し授業で活用した。そのことにより一層「柗江の森の魅力発信」を進めていくことができた。令和 2 年度は、柗江の森の魅力を地域住民にさらに発信していきたい。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てママのリフレッシュ応援講座	幸町児童館共催で開催した親子講座「親子であそぼ」や、託児付き講座「オープン粘土でアクセサリーを作ろう」を通して、同じような年齢の子を持つ母親同士の情報交換の場、交流の場とした。	5 月 15 日 6 月 5 日	2	10
仙台市子ども会インリーダー研修会	地域の子ども会活動を充実させるため、対象児童や世話人の実践的学習を行った。児童はレクリエーションゲームの企画・実施、世話人は講話・情報交換などを行った。	2 月 22 日	1	40
幸町生涯大学	高齢者が孤立することなく社会とつながりを持ち続け、いきいきと安心して過ごせるための生涯学習の場を提供した。福祉関係の講話や実技、健康講座、お茶や書、コンサートなどを行った。	4 月 18 日～ 2 月 20 日	9	208

《宮城野区》

災害への備え—安心 して暮らせる町へ—	地震、火災のみならず、昨今の大雨による水害にも目を 向けるなど、あらゆる災害を想定した訓練を地域住民主 体で行った。	8月9日 8月24日 9月7日	3	121
幸町市民センター地 域懇談会	市民センターの事業について前年度の反省と次年度の 方針を説明するとともに、当年度の大規模修繕工事につ いて説明と質疑応答を行った。	6月27日	1	17
学校へ行こう隊—子 どもを育てる大人の 力	幸町・幸町南小学校2年生対象に「昔話を聞く会」幸町 南・栢江小学校5年生対象に「しめ縄づくり」を開催し た。地域住民やサークルの協力を得て、民間習俗の伝承 を通して世代間交流を図った。	11月28日 12月6日 12月13日 1月31日	4	1

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

サークル活動「幸南復興太鼓」の活動支援

幸南復興太鼓は、東日本大震災以降、幸町地区の地域活性化を目指し、活動を開始して9年目を迎えた。幸町市民センターの講座から立ち上がり、当初は地域のイベント（各地区の夏祭り等）出演での成果発表が主だったが、現在では地域活動はもちろん、仙台市内の様々なイベント参加へと幅広く活動の場を広げ、地域活性化に貢献している。

市民センターでは、情報提供や、講座での活動の場を提供するなどの支援を通して、地域住民やサークル同士の交流の場を提供し、活動を後押ししている。

田子市民センター

〔沿革〕

田子市民センターは、平成 11 年 8 月、仙台市で 53 番目の市民センターとして開館し、児童館とコミュニティ防災センターを併設し、多目的ホール、会議室 2 室、和室 2 室、調理実習室、児童館図書室などを備えている。

当市民センターの位置する田子地域は仙台市東部に位置し、市中心部と直結する JR 仙石線(最寄駅:福田町駅)や国道 45 号線等に近い交通の利便性のよさから開発が進み、人口が増加している。半面、平成 27 年頃から 65 歳以上の高齢化率が緩やかに上昇してきている。幼稚園や小中学校、高校等の教育施設にも恵まれ、地域リーダーとして活躍する人材が豊かで、地域づくりに関する住民意識も高く、地域防災訓練等の特色ある活動が活発に行なわれている。当市民センターは、これらの立地条件を活かしながら、地域団体や学校との連携に努め、事業を展開している。

こうした中、平成 26 年度には田子西復興公営住宅に 160 世帯余りが入居し、田子西町内会が設立された。平成 27 年度は、田子西第二復興公営住宅への入居と集団移転用地への移住が開始され、平成 28 年 4 月、田子西こだま町内会、田子西中央町内会、田子西三丁目町内会が設立された。田子市民センターの管轄エリアは田子小学区 10 町内会、高砂小学区 4 町内会となった。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●出前講座「出張！田子市民センター」		
参加者	どなたでも	延参加者	181 人
開催日	全 6 回 5 月 11 日(土)～9 月 14 日(土)		
協力者・協力団体	宮城野区まちづくり推進課		
ねらい	田子中学校区の 14 町内会のなかには、市民センターから距離のある町内会もあるため、来館しにくい住民も交流と学習が一層深められるよう、各々の集会所を会場に出前講座を実施する。また、普段市民センターを利用しない方に、田子市民センターを知ってもらうきっかけとする。出前講座の中では、町内会の夏祭りなどで踊ってもらうために、宮城野区まちづくり推進課と共催し、宮城野盆踊りの練習をする。		
概要・成果	宮城野盆踊り講習会 4 回、3 B 体操 1 回、ヨガ 1 回を開催した。宮城野盆踊りは 2 回目から田子地域在住の日本舞踊の先生が講師となり、各町内会で指導した。夏祭りなどでその成果を発表することができ、同じ町内会住民同士の交流だけではなく、異なる町内会の住民との交流を育むきっかけづくりとなった。市民センターで開催した宮城野盆踊りの練習成果発表会では、前年度の講座参加者にボランティアスタッフになっていただいたところ、地域ボランティアとしての意識の向上が見られた。3 B 体操では、幼児連れの参加者が、子育てについて幅広い世代からの意見を聞くことができた貴重な時間となった。ヨガについては、本講座をきっかけにその地域でサークル活動が活性化するなど、生涯学習への興味・関心を喚起できた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●みんなニコニコ♪ 子育て広場	地域の子育て支援団体とともに、子育て中の親の抱える不安やストレスを解消することができる子育てサロンやコンサートなどを実施した。	8 月 1 日 9 月 26 日 10 月 3 日 10 月 25 日	4	237
●田子こども体験教室	地域の小学校・児童館と連携し、宮城野盆唄、卓球教室、宮城野カルタ等、様々な体験教室を開催した。	6 月 15 日～ 1 月 25 日	7	328

複数年事業 「田子今昔物語」	まち歩きを行い学んだ内容を田子小学校の授業で還元した。また、仙台市市民センター市民参画型事業成果報告会や市民センターまつりにおいても成果の発表を行った。	4月10日～ 2月15日	11	59
田子老壮大学	健康・介護予防・軽体操等の高齢社会に必要な知識を学ぶ場を提供し、健康で充実した日々を送るための一助とした。	5月～2月	10	353
みんなで学ぶ地域防災	長町・利府線断層帯の現状について学ぶ講話や、田子地区地域防災訓練実施を通して、防災減災への意識の向上を図った。	10月8日 11月10日	2	2,985
たごの音楽会	ヘルマンハーブ、トロンボーン、箏曲等毎回テーマを決めての参加型のコンサートを実施した。	11月24日 12月7日 1月13日	3	72
田子市民センター懇話会	地域団体や利用者、近隣小・中学校・高校との懇談を通して、地域課題の把握や地域情報の収集と共有をし、課題解決に向けた事業企画等に反映した。	5月24日 7月13日	2	25
たごっ子まつり	市民センターの利用団体や地域活動団体の活動成果を発表する機会を提供し、地域住民の交流と親睦を深め地域の活性化を図った。	2月15日	1	1,900
レッツ フライ！ ～田子の空に「するめ天旗」をあげよう～	仙台に伝わる伝統の凧「するめ天旗」について学び、小学校児童を対象とした製作、凧揚げ大会を企画・開催した。また、日ごろできない異世代間の交流を図り地域のコミュニティづくりや活性化の一助とした。	6月22日～ 2月15日	13	114

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

自主サークル「田子するめ天旗の会」の支援

令和元年度主催事業「レッツ フライ！～田子の空に「するめ天旗」をあげよう～市民企画員養成講座」に参加した企画員が、自主サークル「田子するめ天旗の会」を立ち上げた。企画員はそれぞれ田子で活動しているサークルに属しており、その特徴を生かしながら市民センターの支援により凧作りを行い、宮城野カルタの図柄や田子市民センター主催講座で作成したリーフレット「田子今昔物語」で取り上げられている田子の風景を凧に描いた。

令和2年2月15日のたごっ子まつりでは事業の成果を発表し、「するめ天旗」の魅力とそれに描いた地域の風景や歴史を来館者に伝えることができた。また、受講生が今まで積み上げた活動を「するめ天旗」を通して、新たな地域の魅力として伝えることができた。

福室市民センター

〔沿革〕

福室地区は西に七北田川、北は多賀城市に接し、南は仙台港背後地に囲まれた地域で、かつては豊かな田園地帯であった。昭和 30 年～40 年代にかけて住宅地や市営住宅が造成され、住環境が急速に整備された。国道 45 号線、JR 仙石線の沿線という利便性から、最近では仙台港背後地の開発や商業施設の増加に伴い、高層住宅、集合住宅が増え、人口は増加傾向にある。旧来の農地は激減したが、今も七北田川周辺の豊かな自然は健在である。

同地区に位置する福室市民センターは、中野中学校区を対象地域として平成 15 年 3 月に開館し、児童館、コミュニティ防災センターを併設している。年々利用者も増加し、地域住民の生涯学習の拠点として、広く親しまれ利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ふくむろ剪定サロン		
参加者	地域住民	延参加者	39 名
開催日	全 4 回 6 月 1 日(土)、6 月 8 日(土)、6 月 15 日(土)、10 月 26 日(土)		
ねらい	平成 24 年度から定年前後の地域住民を対象に、地域で植栽剪定を担う人材育成講座を実施してきた。剪定は知識、技術習得の継続と実践が肝要であることから、令和元年度も、経験者から初心者に対して技術を伝えながら自らの技術も磨き、剪定でつながる仲間意識を育てていく。		
概要・成果	令和元年度は、毎年参加してくれる経験者と初心者が半々の参加であった。ベテランの参加者が講師をサポートする形で講座運営を行うことができ、初心者にも分かりやすく技術を伝えることができた。もう一つのねらいでもあった受講者同士の交流も図ることができ、和気あいあいとした雰囲気が醸し出された。参加者のうち 2、3 名は剪定を指導できるレベルに達することができ、今後はこのメンバーを中心に、地域のボランティア活動として継続していく流れを作りたい。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	児童向けの研修として、リーダー養成ゲーム、世話人向け研修として、講話「子ども会活動における世話人の役割」、児童・世話人合同でジュニアリーダーによるゲーム体験を行った。	2 月 15 日	1	53
地域で育む学びの芽	福室小 3 年生を対象に地域の歴史を知る機会として「ふくむろ歴史ウォーク」、福室小・中野栄小 1 年生を対象に地域の方々を講師として「昔あそび」体験を行い、世代間交流を図った。	11 月 19 日 11 月 22 日 11 月 28 日 12 月 4 日	4	293
福室老壮大学	文学、ファッション、アコーディオン演奏、特殊詐欺、軽運動、歴史、医療、落語鑑賞などの講座を開催し、地域高齢者の生涯学習の場とともに交流の場を提供した。	5 月 29 日～ 2 月 27 日	10	611

《宮城野区》

だれでもサロン” まざらいん” 福室縁芸場	誰でも自由に参加することができるサロンを開催した。 ①②小物づくり「ねこクリップ」③④ダーツを楽しもう ⑤クラウンサーカス⑥「命を守る水」手づくりスポーツ ドリンクづくり⑦福室縁芸場コンサート。コンサートでは福室児童館有志の特技が披露された。	6月21日～ 1月18日	7	247
第15回福室市民センターまつり	地域住民・団体の交流と親睦を図ることを目的として、地域住民、サークル利用団体、地域の小中学校の日頃の学習成果の発表を行った。	11月2日	1	2,650
地域懇談会	市民センターの事業を紹介しながら、運営方法等について、地域内の町内会や学校・諸団体などと広く意見交換を行った。	4月20日 3月25日	2	23
★ふくむろ防災塾2019	「福室学区防災訓練」に向けて年間スケジュールの作成、組織図づくり、水害についての学習会、段ボールトイレづくり等をした。10月12日に予定していた防災資機材倉庫の確認等の訓練は、台風のため中止とした。	6月29日 9月28日 11月9日	3	100
市民企画講座 「七北田川ぶらぶら歩き」	次の講座を実施した。①七北田川の野草を知る散策②七北田川の自然を知る散策③七北田川の野鳥を知る散策。	6月22日 10月5日 11月30日	3	68
市民企画会～地域の魅力発見～	地元の歴史や地域資源など地域の魅力を話し合い、再発見する講座を企画員が企画、実施、運営をした。企画員の勉強会を公開講座の学習サロンとして実施した。	4月4日～ 3月5日	18	259

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

福室児童館と連携しての地域団体への活動支援

地域が元気になる特効薬は子どもたち。児童館併設の強みを生かし、老人クラブの発表会を市民センターで行ってもらい、そこに将棋や「よさこい」発表といった場面を設け、子どもたちとの交流の場を提供した。また、福室小学校「おやじの会」主催の「ピザ作り」「もちつき」には、児童館の先生たちと市民センターが募集した中学生ボランティアが多数参加し、料理の合間の遊びの時間を盛り上げてくれた。その結果、老人クラブの皆さんが「グラウンドゴルフ」「将棋名人」などの児童館行事に参加してくれたり、デイキャンプという男手が必要な行事に「おやじの会」が参加してくれたりするようになり、互いに助け合う関係ができ上がっている。

若林区中央市民センター

〔沿革〕

若林区中央市民センターは、昭和 53 年、当時の養種園の改築に伴い、養種園の複合施設として「南小泉市民福祉会館」の名称で開館し、その後、条例改正により「南小泉市民センター」と名称を変え、平成 5 年 9 月 28 日、若林区文化センターの新設に伴い移転して、現在の「若林区中央市民センター」となった。また平成 29 年には、若林区中央市民センター別棟が、南小泉児童館、社会福祉協議会、子育てふれあいプラザとの複合施設として移転・新築された。当市民センターを含む若林区文化センターは図書館・市政情報センターも併設されている複合施設である。こうした立地の下、当市民センターは地域の生涯学習活動の拠点として多くの区民に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	ユニバーサルスポーツ・ボッチャ運営スタッフ育成講座		
参加者	成人	延参加者	25 人
開催日	全 5 回 10 月 10 日（木）～2 月 6 日（木）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	誰もが参加しやすいスポーツとして、以前から若林区ではボッチャの普及に努めてきた。パラリンピックを目前に控え、町内会や老人会へも広がりを見せてきており、町内会などからボッチャを体験したいという要請も増えている。そこで、ゲームを運営できるスタッフを育成し、地域への普及の推進を図る。 「ボッチャクラブ」や「ボッチャ若林区民大会」を主催しているまちづくり推進部と共催することで、運営スタッフの活動の場を提供することができる。		
概要・成果	ボッチャについての講話とコート作りや審判体験等を実施した他、1 年間の振り返りとともに交流会を行い、令和 2 年度に向けての話し合いを行った。 実際にゲーム運営に携わることができた「ボッチャ若林区民大会」や「南小泉老壮大学」では、運営側の審判として実際に参加したことで、学習意欲の向上や疑問点の明確化など大きな進歩がみられた。 また、運営スタッフとして受講生同士の交流や教えあいの場面も随所にみられるようになり、今後の地域でのボランティア活動が期待される。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
家庭教育講座	子育て中の保護者の孤独感・不安感の軽減を図るため、託児付きで小物作り等、リフレッシュする機会や子どもと一緒に軽運動で楽しめる機会を提供した。また、毎回交流会を設けて情報交換を行った。	6 月 28 日 7 月 5 日 9 月 13 日	3	21
子ども会インリーダ一研修会	次年度に子ども会の中心となって活動する児童や世話人を対象に、子ども会活動に必要な知識やレクリエーションなどの実技について学ぶ研修を行った。	2 月 1 日	1	87
若林調査隊	子どもたちが地域の資源を認識し、ふるさとに親しむような学習の場を提供するため、自作の箱カメラで地域を見直す機会を設けた。また、写真を利用しカレンダーを作成した。	11 月 2 日 11 月 16 日 11 月 30 日	3	20

《若林区》

ジュニアリーダーと遊ぶ	地域の小学生を対象に、他の学校の児童と一緒にのびのびとかけまわり、交流を図る機会を提供した。ジュニアリーダーと一緒にゲームをすることで、異世代交流を深めた。	1月11日	1	20
出前講座「防災博士に挑戦！2019」	大和児童館の児童クラブ1年生を対象にカードゲーム「ぼうさいダック」を使用し、災害時等の動きについての学習を行った。	10月24日	1	44
南小泉老壮大学教養コース	歴史・音楽・健康・交通安全・哲学など、さまざまなテーマで教養を深める講座を実施し、地域の高齢者に学びと交流の場を提供した。	4月17日～ 2月19日	11	723
南小泉老壮大学健康コース	心身共に健康であることを目指し、軽運動、心臓などの病気について、歌、映画、コンサートなど多岐に渡って実施した。運営委員会による自主活動も実施した。	4月24日～ 2月26日	11	588
仙台七夕に願いを	仙台的伝統行事である七夕について学ぶと共に、大きな七夕飾りを作成しエントランスホールに飾った。また、ミニ七夕飾りを作る折紙ワークショップを開催した。	6月6日～ 7月26日	8	75
季節のコンサート	どなたでも気軽に立ち寄り音楽を楽しめる機会を提供した。タぐれどきのミニコンサートでは、アイルランド地方の音楽と楽器の音色を楽しんだ。	7月26日	1	41
市民企画講座「瞳に栄える写真たちー学生が見た若林の魅力」	市民企画会議で企画した講座。地域の学生が地域の自然や人々の生活、行事を写真に収め、この写真をもとに地域住民と語り合うイベントを開催した。写真は区内の公所に展示した。	10月10日～ 2月16日	6	32
出前講座「元気クラブ」	高齢化や交通の便の悪さで市民センターまで来館することが難しい管内の市営住宅の住民を対象に、定期的で開催されているサロンに合わせてダーツやコンサート等の出前講座を行った。	4月5日～ 12月3日	7	78
若林区中央市民センター 学習発表フェスタ	市民センター利用サークルや地域で活動している団体によるステージ発表の他、管内中学校吹奏楽部によるオープニング演奏や小学校児童の絵画作品の展示等。	9月21日	1	500
若林区中央市民センター 事業懇談会	地域内の問題や課題について情報交換するとともに、市民センター事業を紹介し理解を求めた。①管内の学校や教育関係者、町内会長などが参加。②子育て支援団体の会議に出席し、意見交換を行った。	6月21日 12月17日	2	21
市民企画会議「伝える！楽しむ！若林の魅力」	地域について学ぶ講座を企画運営する機会を通して地域活動に主体的に関わる人材の育成を目指した。地域の自然や人々の生活、行事を写真に収め、写真を元に地域住民の語り合いイベントを企画運営した。	7月13日～ 1月25日	9	47

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

サークル活動支援 ―「サークル案内月間」と「ミニミニギャラリーの活用」

利用サークルから会員の高齢化が進みメンバーが減少し、活動が低迷していると聞くことが多くなっている。そこで、若林区文化センターと協力し、若林区中央市民センターを拠点に活動しているサークル情報の掲示とサークル体験会を行った。希望するサークルから会員募集のポスターや情報もらい、年間を通して「サークル活動メンバーを募集する団体」「サークル活動を始めたい方」への情報を発信することでサークル活動の活性化に努めた。

また、ロビーに「わかちゅうミニミニギャラリー」を設け、折り紙作品や俳句など定期的に作品を展示し、サークル活動の成果発表の場の提供を行った。

七郷市民センター

〔沿革〕

七郷市民センターは、地元住民の要望により「七郷公民館」として昭和 58 年 4 月に保健センター・コミュニティ防災センターとの複合施設として開館し、平成元年には「七郷公民館・市民センター」となり、若林区の拠点館となった。平成 2 年には「七郷市民センター」と改称。平成 5 年 9 月には若林区中央市民センター開館に伴い、拠点館機能を移行した。平成 14 年 4 月児童館を併設、さらに平成 22 年 2 月に大規模改修工事を終え、七郷証明発行センターも併設された。

近年、七郷地区は、復興公営住宅や防災集団移転を含め土地区画整理事業が進展し、地下鉄東西線開業も相まって新しいまち並みが形成されており、今後のまちづくりに向けた市民センターが果たす役割は大きくなっている。区役所はじめ諸機関、地域団体との連携を深め、新旧住民がつながりを築き共に支え合うまちづくり、文化づくりを推進できるよう、組織的に事業を推進している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	地域情報紙作成講座「七郷タウン情報紙をつくろう！」		
参加者	どなたでも	延参加者	97 人
開催日	全 26 回 5 月 15 日（水）～2 月 20 日（木）		
協力者・協力団体	七郷小学校社会学級、まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	七郷地区はもともと農村地帯で昔から地域の絆の強い地域であったが、土地区画整理事業の進展や東日本大震災からの復興、地下鉄東西線の開業等により地域が大きく変容し、人口も急増、既存の組織に加わらない住民も増えてきている。市民センターでは事業のお知らせとともに七郷の特色や継承してほしい事物、日々移り替わる新しい地域情報も発信しているが、すべてを網羅しているわけではない。また、多くは町内会を通して発信しており、加入していない住民には十分届いていない状況である。さらに、地域では様々な団体が「地域づくり」に取り組んでいるが、その情報も共有されていないところも見られる。そこで、広く地域住民に情報を発信するための情報紙を作成する。また、情報紙づくりを通し、各団体の持つ情報の共有、新しい情報の収集を図り、地域で主体的に活躍する「人づくり」につなげる。		
概要・成果	令和元年度は講座参加者が 1 人増え、さらには小学生 5 人も加わり、計 9 人で地道な取材・広報等に取り組み、第 2 号を令和元年 10 月、第 3 号を令和 2 年 3 月に発行した。創刊号に続き第 2 号についても新聞やテレビからの取材や、区を越えて問い合わせがあるなど、七郷地域についての興味・関心を広く喚起することができた。令和 2 年度については、防災関連の内容で検討を進めている。講座参加者が七郷小学校の社会学級に関わっていることもあり、小学校と何らかの形での連携を模索中である。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て交流講座 「ママ友つくって毎日ハッピー」	春編 4 回、秋編 3 回実施。ママ同士・先輩ママとの交流会、小物づくり（フォトガーランド、つまみ細工）、チャイルドヨガ、筋膜リリースと骨盤矯正、ちびっこ運動会、アロマ教室を実施した。	5 月 28 日～ 10 月 1 日	7	195
七郷子どもクラブ	ペットボトルロケットを作って飛ばそう、サマースクール（市民センター利用サークルの体験会・10 団体協力）、みんなでスイカ割りを実施した。	6 月 1 日～ 8 月 17 日	12	175

インリーダー研修会	児童は、子ども会活動についてプログラムの作り方と進め方を学び、世話人は、情報交換を行いながら、子ども会における世話人の役割と組み立て方、進め方を学んだ。	2月15日	1	58
七郷防災キャンプ	小学校を会場とした1泊2日の親子キャンプを開催した。消防体験（放水体験、水消火器体験、レスキュー体験、はしご車体験）、段ボールハウス作り、工作コーナー、カレーライス調理、防災クイズ学校きもだめし等を実施した。	7月13日 7月14日	1	88
七郷老壮大学	講話や実技、運営委員会自主企画講座等。ミニコンサート（オカリナ・尺八）、戊辰戦争、口腔衛生、七郷の地域史、童謡再発見、健康体操、おしゃれと色、認知症ケアパス、映画鑑賞会、落語鑑賞会、移動学習等を行った。	4月10日～ 2月5日	11	769
七郷学びの応援隊	七郷小学校および蒲町小学校の社会学級生で構成。地域情報を交換しながら課題を抽出、解決につながる講座として「子育て・孫育て 賢い脳の育て方」を企画・開催し、振り返りを行った。	6月13日～ 2月20日	7	48
七郷市民まつり	農産物の即売・模擬店、演芸発表、作品展示、バザー、保健センターまつり、児童館まつり等を実施した。	11月17日	1	12,972
交流ひろば	誰もが気軽に参加できる交流の場を提供した。将棋大会、七郷中学校吹奏楽部と市民センター利用団体によるコンサート、六丁の目中町復興公営住宅への出前講座を実施した。	6月23日 1月26日 2月23日	3	263
七郷地域懇話会	町内会関係者、諸団体との懇話会を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	【中止】 3月3日	2	—
「七郷学びの応援隊」企画講座「子育て・孫育て 賢い脳の育て方」	子育て・孫育て世代に関心の高い子どもの成長・発達について、脳科学者による講演会を開催、終了後、受講生によるフリートークを行った。	10月31日	1	63

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜（さとはま）」の活動支援

七郷語り継ぎボランティア「未来へー郷浜」は、平成25年度から3年に渡り実施した事業「未来への伝言ー七郷を語り継ぐ」の参加者により平成27年12月に結成された。活動は5年目を迎え、七郷の歴史や伝統・風土、東日本大震災の記憶を後世に語り継ぐボランティアとして、全国各地から荒浜を訪れる方々に震災のことを伝えたり、七郷の見どころを案内したりする活動を行っている。市民センターでは、仙台市内外から震災に関する学習・視察に訪れる学校・団体等からのボランティア派遣要請対応を通して、語り継ぎボランティアとせんだい3.11メモリアル交流館や震災遺構荒浜小学校とのつながりをコーディネートし、ボランティアの活動を後押ししている。

荒町市民センター

〔沿革〕

荒町市民センターは、昭和 47 年に旧斎藤記念館を全面改築し、「荒町市民福祉会館」として昭和 48 年 5 月に開館した。昭和 58 年 4 月「荒町市民センター」と名称変更した。施設は、老朽化と機能拡充の必要性から現在地に建物を改築し、平成 22 年 2 月 2 日に開館した。

当市民センターが所在する荒町地区は、仙台市のほぼ中心部、昔からの老舗街である荒町商店街の一角に位置しており、仙台藩の名残を今尚残している地域である。

地下鉄五橋駅から徒歩 5 分、JR 仙台駅から徒歩 20 分と交通の便に恵まれ地域の方をはじめ市内全域から多くの市民に利用されている当市民センターは、日中はもとより、夜間も仕事帰りの活動の場として、幅広い年齢層に活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	“こども相撲荒町場所”応援隊		
参加者	地域諸団体および住民	延参加者	58 人
開催日	全 5 回 6 月 27 日（木）～10 月 24 日（木）		
協力者・協力団体	荒町学区民体育振興会、婦人防火クラブ、荒町大好きクラブ、西多賀手話同好会、荒町市民センター・児童館フェスティバル実行委員会		
ねらい	平成 29 年度に実施した「こども相撲荒町場所」を地域行事として定着させるため、応援隊の活動を地域に広げるとともに、参加する個人や諸団体の連携強化を図る。		
概要・成果	応援隊の活動は経験の積み重ねと効率的な話し合いができたことで、互いの役割や目的を意識しながらスムーズにプレ講座や事前学習会「相撲は楽しい!」、「こども相撲荒町場所」を運営することができた。その過程で各協力団体の連携が深まり、交流が深まった。令和元年度は、より主体的な運営をするための課題も見つかり、次年度に向けて思いを新たにしたところである。新たな人材の確保には至らなかったが、この事業の内容やねらいは地域に浸透しつつあり、協賛・協力してくれる団体や個人は増えている。また、参加の子ども達の様子を間近で見ることで今後も“こども相撲荒町場所”を継続したいという気持ちを、参加者・地域の方々・スタッフで醸成することができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	児童の研修は、それぞれグループに分かれて年間計画を考え、発表した。世話人を対象とした研修では、子ども会の世話人としての役割についての講義と情報交換の場を設け、活発な意見交換がなされた。	2 月 8 日	1	67
こども相撲荒町場所	荒町市民センター・児童館フェスティバルの一環としてこども相撲大会を開催し、こども達が伝統の相撲について学び体験することで、礼儀や思いやりの気持ちを学んだ。	9 月 21 日 10 月 5 日	3	89
あらまち町民大学シルバーセミナー	高齢者の学習と交流の場として、健康や歴史、後見人制度などの講話、コンサートや軽体操等を行った。運営委員会で意見を聞きながら参加者の協力を得て運営した。	4 月 17 日～ 2 月 19 日	10	649

伝統の仙台七夕飾りをつくろう	市民センターのビロティに1竿七夕を飾り、参加者の持ち帰り用の七夕も作ることができた。地域以外にも広く声がけし、手話付講座で21名の参加で行った。	6月27日～ 8月1日	6	112
荒町市民センター・児童館フェスティバル	展示部・ステージ部ともに、一年間の活動成果を発表し、来館者とも広く交流を図った。子ども相撲大会やチャリティーバザーも盛況のうちに終わった。	10月5日 10月6日	2	4,600
荒町市民センター地域懇談会	近隣の学校や地域の方達、東北学院大学の方に来ていただき、地域情報の交換や学院大新キャンパスの工事進捗状況について情報を共有した。	6月7日	1	14
地域みんなで防災・減災～気象情報・防災情報を学ぼう！	天気予報や気象観測、防災情報の見方について学び、自分達が住む地域の洪水被害予想図等を確認することができた。また、非常用携帯トイレのキットを作成し、使い方を学んだ。	12月14日	1	24
◎地域力創造支援事業「みんなの荒町公園活用事業」	実行委員会で話し合いながら、まち歩き、花壇整備、デジカメ講座、あじさいを観る会・剪定会、しゃぼん玉&バルーンフェスタ、落ち葉清掃と焼き芋大会を行い、地域の内外から多くの参加があった。	4月～3月	19	307
おもちゃドクター養成講座	男性6名女性5名が申込み、ハンダ付けや回路の作り方等を学び、終了後も学習の継続の希望が出された。	11月17日 11月23日 11月24日	5	54
図書ボランティアスキルアップ研修	1回目は、仙台市民図書館から講師を招いて「図書室の環境整備」について学び、それを基に図書台帳の作成に取り組んだ。2回目は、活動する中で生じた疑問点について榴岡図書館から講師を招き学んだ。	7月2日 1月30日	2	6
市民企画会議「あらまち地域力アップ」	「片づける」をテーマに女性限定市民企画会議を行った。企画員は「片づける」ことで生き生きと生活ができ、それが地域の活性化につながるという視点から企画を話し合い、2回の講座を運営した。	5月24日～ 11月1日	9	45
市民企画講座「あらまち地域力アップ」片づける	1回目は、「モノの整理は頭と心の整理」と題し、人生を楽しむための整理収納術を学んだ。2回目は、陸奥国分寺住職の村山裕俊尼に「おかげを知っていきたく」と題しお話を伺った。	9月6日 10月25日	2	96

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティアの活動支援

荒町市民センターの図書ボランティアは、平成30年度の「図書ボランティア養成講座」終了後、図書ボランティアグループ「わかば」として活動を始めた。全員、こうした活動は初めてだったため、グループの立ち上げから活動方法や図書室の運営、本の見せ方、台帳の作成等一緒に活動しながら相談に応じ支援した。その中で、自分たちが学びたい項目を確認しながら「スキルアップ研修」につなぐことができた。メンバーは高校生から高齢者までだが、さらに意欲的に活動に取り組んでいる。

六郷市民センター

〔沿革〕

昭和 56 年、地域住民の福祉増進を目的に保健センターとの複合施設「六郷市民福祉会館」が開館し、昭和 58 年に「六郷市民センター」と名称を改め、地域の社会教育活動の場として定着した。平成元年には公民館としての機能が加わり、平成 2 年には「六郷児童館」を併設、さらに平成 22 年 12 月に大規模改修工事を終えて再開し、生涯学習の拠点として現在に至っている。

六郷地域は名取川と広瀬川の合流点を有し、美しい干潟や貞山堀運河、屋敷林の居久根など自然環境や歴史的遺産等に恵まれていた。しかし、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、沿岸の六郷東部地区は住宅・学校・農地・事業所といった生活基盤のほとんどが壊滅的かつ甚大な被害を受け、地域が一変した。また平成 29 年 3 月末には東六郷小学校が六郷小学校と統合し閉校となった。

現在、六郷地区の再スタートということで、地域住民・町内会・各団体と連携を保ち、情報を共有しながら、地域を支えられる人材育成の推進と新たな地域の活性化に努めている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●おいしさいっぱい食材宝庫六郷		
参加者	小学生以上どなたでも	延参加者	53 人
開催日	全 3 回 11 月 2 日（土）、11 月 23 日（土）、12 月 7 日（土）		
協力者・協力団体	宮城県農林水産部食産業推進課、J A 仙台六郷支店、井土生産組合、若林区家庭健康課		
ねらい	六郷は農業とともに発展してきた地域であることから、食文化やその魅力を伝承し、地域への愛着を深める。また、家庭健康課の健康指導のもと、地元産の野菜を積極的に調理に取り入れることによる、栄養バランスに優れた食に関する学びの場を提供することで、自己管理能力を高め、健康づくりにつなげる。		
概要・成果	六郷産の米や全国にブランド展開している井土ネギを味わい、米を使った味噌作りを体験したことで、参加者からは積極的に学ぼうとする姿勢が見られた。実技や実食をとおして郷土の話題を共有することで参加者同士の交流も深められた。事業を進めるための情報提供、講師の派遣、食材や資料の提供、助言などに地域人材や団体の多大な協力を得られ、より深く連携することができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
出前のびすく 六郷子育てサロン	子育て支援施設「のびすく若林」と共催で、乳幼児親子を対象にパントマイムショー、親子ヨガ、小物づくりの講座を行い、それぞれの回で自由におしゃべりするサロンの時間を設けた。	5 月 17 日 7 月 12 日 11 月 29 日	3	43
楽しく体験！ 六郷クラブ	主に小学生を対象として、六郷中美術部・バスケ部、仙台東高マジック部・英語海外文化部・J R C ボランティア部による講座や卓球・モンゴル文化体験講座を展開した。	7 月 24 日～ 12 月 25 日	7	215
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会活動の意義や役割を学び、レクリエーションゲーム等の技術を習得する研修会を行った。	2 月 15 日	1	28
六郷子ども相撲 あじさい場所	相撲の礼儀作法やルールを学び、学年により 4 階級に分かれたこども相撲のリーグ戦、及び、ちゃんこ鍋を食べながらの交流会を行った。	6 月 8 日	1	158

●六郷あすなろ大学	歴史や健康講話、介護予防体操、人形劇やコンサートの鑑賞などを行った。また、輪投げ大会や移動学習会などの自主企画を運営委員会が主体となって積極的に行い、会員同士親睦を深めた。	5月16日～ 2月20日	9	523
六郷お月見会	六郷お月見会実行委員会との連携事業。秋の虫に関する講話と観察会、月に関するお話会、天体観測と講話、工作、お茶席を体験しながら、参加者同士交流を深めた。	5月22日 7月5日 9月14日 11月21日	4	88
●六郷地域防災事業	六郷地区の防災委員会で協議し、各町内会での「一時避難場所」への参集訓練及び六郷小を会場にした総合防災訓練、名取川・広瀬川氾濫についての研修会を行った。	6月5日～ 2月21日	6	2,053
社会学級連携会議	六郷小学校社会学級生との会議を行った。情報交換、地域課題の洗い出し、課題解決のための共催事業実施について協議した。	5月23日～ 1月9日	7	22
●ここ・そこ・どこでも六郷ふるさと音頭	六郷小3・4年生への出前講座や各町内会や地域住民向けに、踊りの普及と歌詞の理解を深めるための「ふるさと音頭練習会」を行った。	6月5日～ 11月10日	11	468
令和元年度 六郷市民まつり	六郷市民まつり実行委員会主催で、ステージ発表、サークル・地域団体展示、出店、防災・安全・環境コーナー、児童館まつり、保健センターまつり、大抽選会などを行った。	11月10日	1	8,266
六郷交流サロン おじゃまします、市民センターです	地域の復興公営住宅や集団移転地集会所、コミュニティセンターへの出前講座。ハーモニカ演奏会、絵手紙、童謡のコーラス、フラワーアレンジメントを行った。	7月4日 8月7日 10月10日 1月23日	4	55
●市民センター懇談会	市民センター運営について町内会や利用団体から忌憚のない意見を伺い、施設設備やサービスの改善につなげた。2回目の会では、家庭健康課と連携し、地域の健康問題について協議した。	6月5日 2月27日	2	47
市民企画講座「来てけさいん♪六郷東部夏祭り」	「わたしのふるさとプロジェクト」が実施し、サーカス、盆踊り、出店等でにぎわった。六郷東部地域に関わりのある人々が集い、旧交を温めた。	8月17日	1	250
市民企画講座「ふるさと」につどう 第5回 鎮魂の花火	「わたしのふるさとプロジェクト」が実施した。花火打上げ資金はすべて募金で賄われた。六郷東部地域の人々が再会を喜び合うとともに震災で亡くなった方々への鎮魂の思いを深めた。	1月25日	1	200
市民企画会「わたしのふるさとプロジェクト」	プロジェクトメンバーが毎回熱心に話し合い、六郷東部地域の賑わい再生と住民交流の活性化を目指して2つの行事（夏祭り・花火）を企画した。	4月17日～ 3月20日	12	148

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「地域の元気づくりを応援！」

地域の健康増進に寄与するため、六郷小学校及び中学校と区家庭健康課をつなぎ、保健師が児童生徒に対して塩分の適量摂取について指導する機会を積極的に支援した。町内会への支援としては、地域の文化財である「六郷ふるさと音頭」をより多くの町内会に盆踊りのレパートリーとして取り入れていただくために、踊り指導を行う「六郷ふるさと音頭普及委員会」の組織化を支援し、町内会からの講師派遣依頼の際にはコーディネートを行った。震災学習及び六郷小との交流を希望する県外の小学校からの依頼を前年度に引き続き引き受け、NPO法人冒険あそび場との連携を図り、海岸公園での記念樹管理などの体験学習の支援を行った。また、復興公営住宅自治会と行政や地域の諸団体をつなぐ取組を年間を通して積極的に行ってきた。

若林市民センター

〔沿革〕

若林市民センターは、平成 3 年 4 月に若林児童館、コミュニティ防災センターを併設して開館した。以来、地域の社会教育活動や福利厚生活動に活用され、親しまれて現在に至っている。令和元年度には大規模修繕を実施し、令和 2 年 4 月に再開した。

管内は藩政時代伊達政宗公ゆかりの史跡や広瀬川舟運、商人の町の歴史ある町名を残すとともに、広大な河川公園などがあり、自然に恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★防災講座「みんなで守ろう！若林」		
参加者	若林小学校 5 学年児童と保護者及び地域の諸団体・地域住民 古城小学校 5 学年児童と保護者	延参加者	271 人
開催日	全 4 回 5 月 30 日（木）、6 月 14 日（金）、7 月 17 日（水）（2 コマ）		
協力者・協力団体	若林小学校、若林小学校 P T A、若林地区町内連合会、若林東栄会、若林西せせらぎ会、若林地区社会福祉協議会、民生委員児童委員連絡協議会、日赤奉仕団、若林消防団南材分団、若林地区婦人防火クラブ連合支部、まちづくり推進部若林区中央市民センター、古城小学校、古城小学校 P T A		
ねらい	当館の担当エリアには、長町・利府断層による直下型地震や、広瀬川による洪水、低地の内水浸等の災害が懸念される地域がある。本講座は、町内会や小学校、P T A などと連携し、小学生やその保護者を対象に、受講者一人一人の防災・減災意識の醸成を図るとともに、自助・共助の必要性を認識し、地域の災害対応力を高めることを目的とする。		
概要・成果	若林小学校での講座では、令和元年度も、若林地区町内連合会、若林小学校近隣の町内会や民児協、社協、婦人防火クラブ、若林消防団南材分団など、地域諸団体にご協力をいただき、若林小学校 P T A の 5 学年行事として防災ゲーム（クロスロード）を実施した。地域の方々には、事前研修を受けてもらい、本番では、各班の進行役と書記としてゲームを支えてもらった。 各学校とも、子どもたちの防災意識を高めようと、学校と地域が一体となって実施でき、地域としての災害対応力向上を図ることができた。また、大雨洪水等の避難判断やペットとの避難などゲーム内容を変えたため、世代を超えて課題に対する様々な意見が熱心に交わされ、災害への備えをより身近なものと考えることができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	地域の子ども会活動の充実と活性化を図るため、次年度子ども会のリーダーとなる児童と世話人が、活動に必要な知識や技能を習得する場を提供した。	2 月 22 日	1	64
若林小学校連携事業「若林地域探検！」	地理・歴史に関するブックトークで子ども達の想像力を膨らませたほか、歴史について詳しく学び、地域を歩くことで若林城を体感し郷土への理解を深めた。	10 月 9 日 11 月 14 日 11 月 28 日	3	144

古城小学校連携事業 「仙台まち再発見」	実際に見たり触れたり体験する学習を提供し、歴史や文化に興味を持つきっかけをつくった。校外学習など、普段体験できない学びの場を設け郷土愛を育んだ。	10月24日 10月29日 11月28日	3	192
わかばやし出前講座	町内会のサロンと連携し認知症について学ぶ講座を開催するとともに、要望を伺い腹話術パフォーマンスの講座を行った。地域の伝統文化を体験する染体験など、様々な学びの場を提供した。	9月11日 9月19日 2月7日	3	70
若林ウィメンズオープンカフェ～私らしく、いきいきと～	地域で活動している女性に講師を依頼し、活動終了後、お茶を飲みながら講師がどのようなきっかけで活動に携わることになったか等の話を伺い、地域における社会貢献活動を知る機会となった。	6月8日 9月27日 11月30日	3	26
若林老壮大学	「天気」「民話」「アンガーマネジメント」とバラエティに富んだ講座カリキュラムで開催した。老壮大学生同士のつながりを深めようと運営委員会が中心となって移動親睦会を開催した。	4月12日 5月8日 6月7日 7月5日	4	256
わかばやし気軽にコンサート	「琉球国祭り太鼓」を開催し、参加者同士が輪になって踊る等、世代をこえて交流し楽しむことにより、参加者が、地域に親しみを感じることにつながる一助となった。	6月22日	1	101
地域懇話会	市民センターの活動状況や利用状況を報告した。出席者から様々な意見や要望を聞き、市民センターの学習ニーズや、地域課題を把握した。	2月26日 2月28日	2	26

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダー「若林にゃくりん」の活動支援

市民センターでは、月1回の定例会を開くなど、ジュニアリーダーの育成に努めている。定例会では、要請確認の他に、空いた時間があればメンバー自身がジュニアリーダーに対してどのような思いを持っているかなどを聞き、活動が円滑に進められるよう心掛けた。そして、令和元年度は大規模修繕工事により市民センターが休館となる中、ジュニアリーダーが要請や研修申込等で不便な思いをしないよう、まちづくり推進部若林区中央市民センターと例年以上に連携を図りながら活動支援を行った。

沖野市民センター

〔沿革〕

沖野市民センターは、平成3年4月、児童館・老人福祉センター及びデイサービスセンターとの複合施設としてオープンした。東側に田園が広がり、西側はバイパスを境に住宅が密集している。多種の木々と、老人クラブや地域の方々が善意で植えてくださった花壇が、センター前広場に彩りを添えており、こうした花と緑豊かな広場を持つ当市民センターは、地域住民の憩いとふれあいの場所として利用されている。

地域住民の生涯学習活動に対する関心は高く、また自主サークル活動も盛んである。また、町内会や老人クラブの結束力が強く、活動も活発で、学校や他の公共施設等とも円滑な関係を保っている。様々な分野の達人も多く、地域人材も豊富な地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	お父さん出番です！		
参加者	沖野地区の小学生、保護者	延参加者	294人
開催日	全5回 9月15日（日）～2月16日（日）		
協力者・協力団体	沖父ちゃん会（沖野東小学校おやじの会）、親児の会（沖野小学校おやじの会）、まちづくり推進部若林区中央市民センター		
ねらい	おやじの会と連携し協働で、円滑に中学校生活をスタートできるよう、学区を越えて地域の子ども同士が楽しく交流しながら健全育成を図る講座を企画運営する。2つの小学校のおやじの会が協力し合うことで地区全体の活性化に向けた事業を展開していく。		
概要・成果	2つの小学校の児童が競い合い、楽しみながら交流することができた。毎年開催することで地域に定着しつつある「こども相撲沖野場所」、「学校対抗ドッジボール大会」、「ミニ四駆大会」の3つの講座を実施したほか、おやじの会の発案でスポーツチャンバラ、レジン液を使ったストラップ作りという新たな講座を加えたことで、これまで参加していなかった子どもたちの参加にもつながった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●笑顔で子育て	若林区家庭健康課の保健師による育児相談、民生委員見守りのもとストラップ作り、バランスボールエクササイズ、絵本の読み聞かせとピアノ演奏を実施した。	8月27日 9月10日 10月17日 11月26日	4	104
インリーダー研修会	前半は、児童・世話人それぞれに分かれて講話を聞き、児童は子ども会の行事で役立つゲームを考えた。後半はホールへ移動し一緒にゲームを楽しみながら、子ども会のリーダーとなる人材の育成を目指した。	2月8日	1	36
ちびっこチャレンジ	沖野地区の児童が地域講師や地域の高校生と交流し、日常では経験できないことを体験する講座。仙台東高校マジック部によるマジックショー、地域講師を招いてのパン作り、ボードゲーム体験を実施した。	8月3日 9月14日 2月1日	3	68

おきの学園～学びのスクール～	管内の小中学校・市民センター・児童館を会場に、職業体験等を行った。	7月25日	7	18
伝えよう仙台伝統七夕	地域の老人クラブの協力のもと、折り紙ボランティア養成講座参加者と七夕ボランティアが事前に小学校に飾る七夕飾りを作ったり、児童生徒に教える織姫・彦星の短冊作りの練習をしてから、小学校で子どもたちと一緒に飾り付けをした。仙台の伝統を学習しながら世代間交流が生まれた。	6月13日 6月20日 7月2日	3	166
沖野耕友大学	高齢者を対象に、健康講座・文学講座・生活向上講座・芸術講座・ニュースポーツ・自主企画講座・軽体操講座・学園祭・移動学習を行った。	5月10日～ 2月14日	10	678
沖野地区総合防災訓練—みんなの力で地域を守る—	沖野中学校区災害対策委員会として、訓練実施に向けて、打合せ準備会を実施した。10月19日に予定していた訓練は大雨のために中止となったが、実際の避難所開設に活かされ、反省会で課題を確認した。	5月15日 8月28日 12月12日	3	119
社会学級との事業企画検討会	沖野東小学校、沖野小学校の社会学級生同士の情報交換を通し、講座に向けて話し合いを持った。令和元年度は健康寿命に関する最新の情報を提供するための打合せを行った。	5月29日 8月22日 10月9日	3	7
沖野地区市民まつり	幼稚園・小中学校・各種団体・個人等の文化活動発表、まつり実行委員会主催事業（豚汁・餅まき等）、模擬店、フリーマーケット、消防署の防災コーナー、地域包括支援センターによる健康コーナー、老人福祉センターでの活動サークルの発表を行った。	11月2日 11月3日	2	7,000
沖野地区懇話会	8月に児童館と共催で、主催事業に関わる関係機関の長をお呼びして事業企画内容を説明し、協力を求めた。また、各機関での取組みを共有し、意見交換を行った。	8月30日	1	18
市民企画事業折り紙ボランティア養成講座「折り紙を楽しもう」	沖野小学校での七夕飾りの指導、沖野児童館、近隣の幼稚園、福祉施設、デイサービスセンターでは交流しながらボランティア活動を体験し、学んだことを地域に還元した。	5月16日～ 12月5日	14	209
腸内環境と食について学ぼう！	各小学校の社会学級生が役割を分担し、講師からの「腸内細菌」に関する最新の情報を学びながら、各自の食生活の見直しを図った。	10月9日	1	25

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「沖野かわら版」活動支援

平成29年度に終了した市民センター主催事業「沖野かわら版」の参加メンバーは、事業終了後も継続して活動しており、震災で得た教訓を語り継ぐとともに地域防災力強化を目的に「沖野かわら版」を発行している。市民センターは、かわら版の発行や広報、防災紙芝居の貸出しなどを通して団体の活動の支援を続けている。

令和元年度は、東日本大震災から8年が経ち、震災への関心が薄れつつあることから、まちづくり推進部若林区中央市民センター、婦人防火クラブ、地域包括支援センター、児童館と連携し地域の子どもたちから高齢者を対象としたペッパー君による防災講座「たのしく学ぼう！」を開催した。その結果、住民全体の防災に対する意識向上が図られ、地域の団結力の強化に寄与した。

太白区中央市民センター

〔沿革〕

太白区中央市民センターは、平成 11 年 6 月長町商店街の中核をなす JR 長町駅前に開館した複合施設内にある。同施設には当市民センターの他、太白区文化センター、太白図書館、長町児童館及び太白区情報センターも設置されている。JR やバス、地下鉄などの公共交通機関の利便性に優れた立地のため、近隣の広い地域の生涯学習活動や交流の拠点として、多くの市民が利用している。

当市民センターの周辺は、昔から仙台市南部地域における商業の中心として活況を呈してきた歴史のある地域であるが、近年は地下鉄沿線・あすと長町地区での大規模小売店の進出やマンション建設等が進み、人口の増加が著しく、さらに復興公営住宅の完成や仙台市立病院の移転開院等、これまでも増して多くの滞在人口がのぞめる地域となってきた。当市民センターではこうした状況を踏まえて、地域コミュニティの活性化にも積極的に取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●わがまち防災・減災実践講座		
参加者	成人	延参加者	151 人
開催日	全 6 回 4 月 27 日(土)～1 月 18 日(土)		
協力者・協力団体	長町地区町内会連合会、仙台市立長町中学校、仙台三桜高校、仙台市危機管理室 太白区区民生活課、太白消防署等		
ねらい	地域防災リーダーと地元中高生などの若い世代が、地域の防災・減災についてともに考え発信することで、自主防災活動の活性化と将来を担う人材の育成に資することを目的とする。		
概要・成果	「避難所に行かずに災害を乗り切る自助・共助の備え」をテーマとして、防災減災の基礎知識を学びながら、指定避難所・防災資機材倉庫の備蓄物資見学や段ボールトイレづくりなど、講話のほか実技やグループワークを実施した。中高生・地域防災リーダー（SBL）等と一緒に考え実践することで各人のスキルアップに繋がった。最後の基調講演・発表会は公開講座とし、地域住民の方々とともに講座のふり返しを行い、地域全体の防災力の向上に資することができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育て MY STYLE	エクササイズ、玩具選び、トーンチャイム等、様々な活動と一緒にすることで打ち解け、気分転換や育児の情報交換をすることができ、新たな仲間作りのきっかけとなった。	11 月 7 日 11 月 14 日 11 月 21 日	3	55
インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活動する児童と世話人を対象に、子ども会活動の役割を学び、レクリエーションゲーム等の実践研修を実施した。	2 月 9 日	1	86
ながまちキッズくらぶ	ラジオ体操、ジュニアリーダーとのゲーム等を行い、様々な学年と一緒に活動し交流を図った。また、親子で地域の施設や商店街の見学を行い、地域を知る貴重な体験となった。	7 月 23 日～ 10 月 16 日	6	127

みんなの元気講座	健康体操、身体計測、体幹トレーニング、リズム体操、バレエストレッチなどを行い、自己健康管理方法や運動の実践方法の知識を提供し、新しい健康習慣の形を提案した。	6月19日～ 11月20日	6	108
～ＱＯＬの向上を考える～ライフスタイルに取り入れたいピラティス	生活の質の向上を実現させるために「いかに健康に生きるか」という視点でピラティスを取り上げ、リラックス・リフレッシュ効果の向上、日常生活動作の自立度の継続を目指した。	1月15日 1月22日	2	31
ながまち老壮大学いきいき教養コース	心身ともに健康で実り豊かな生きがいのある人生を送ることができるよう、暮らしや健康を主とした多種多様な内容を講話や実技で学んだ。	5月10日～ 2月14日	9	624
ながまち老壮大学ふるさと文化コース	心身ともに健やかに過ごせるよう、地域の文化や歴史、文学・医療などを中心とした学習内容を提供し、高齢者の学習意欲を高めた。	5月17日～ 2月21日	9	572
太中ふれあいサロン	タッピングタッチ、折り紙、軽運動等の体験会や出前コンサートを実施し、地域住民が気軽に参加できる交流の場とした。	5月16日～ 1月16日	7	166
太白区中央市民センターまつり ながまち交流フェスタ2019	地域サークル団体による作品展示や舞台発表、地域商店街や中学生による出店、おばけ屋敷・各種体験コーナーを開催した。	10月26日	1	5,508
太白区中央市民センター地域懇話会	各団体向けのテーマを設定し、課題やニーズ・地域情報等について「学校関係者・商店街・諸団体」「町内会等関係者」を対象に懇話会を開催した。	6月25日 11月13日	2	31
市民企画会議「きらりん長町」	社会人の本業以外の生きがいややりがいの創出に注目し、キャリアや私生活をいきいきと過ごすために取り組むべき課題を洗い出し、生活の質の向上の実現に向けた講座の立案について話し合いを行った。	8月22日～ 2月13日	7	12

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「ともに！チーム長町プロジェクト」の活動支援

主催講座「太中ふれあいサロン」の1コマを「ともに！チーム長町プロジェクト」（長町中学校区の児童生徒有志による、よりよいまちづくりのためのプロジェクト）の活動の一環とした。

「ともに！チーム長町プロジェクト」の小中学生が教えながら、地域の皆さんや児童館の子どもたちと一緒に七夕飾りを作成し、小中学生と地域の方々が気軽に集い楽しく交流する場を提供するとともに、「ともに！チーム長町プロジェクト」の活動を周知するきっかけづくりになった。

完成した七夕飾りは市民センターのロビーに飾り、地域の方々の目を楽しませ、集客にもつながった。

生出市民センター

〔沿革〕

生出市民センターは、昭和 24 年 4 月生出村公民館として発足し、生出小学校の一隅で公民館活動を行なってきた。昭和 31 年には仙台市との合併により「仙台市公民館生出分館」と改称された。地域住民の強い要望から昭和 42 年 4 月、地域社会教育の拠点として、現在地に「生出公民館」が建設された。

その後昭和 55 年 5 月には、地域住民から自由に利用できる体育館を併設した公民館の新設が要望され、公民館・診療所・保健センターが一体となった複合施設として開館した。後に、敷地内に調剤薬局・証明発行センターが開設され、同年の 10 月に第 1 回生出コミュニティまつりが開催され今日に至っている。

平成 2 年には「仙台市生出市民センター」に改称され、市民相互の交流と地域活動振興の拠点、また地域づくりの拠点として利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	秋保電鉄沿線地域歴史巡り		
参加者	地域住民	延参加者	26 人
開催日	全 2 回 10 月 6 日(日)、12 月 1 日(日)		
協力者・協力団体	おいで歩美会		
ねらい	かつて長町から秋保温泉までを結び、地域の経済や人々の交流を生み出していた秋保電鉄。しかし、時とともに人々の記憶から薄れてきている。 秋保電鉄がもたらした様々な交流という観点に立ち、沿線地域の歴史や文化を辿ることと地域を見直し、埋もれていた歴史等を掘り起こす。また、講座から発足したガイドボランティア「おいで歩美会」や事業に関わる方々と地域住民の新たな交流を目指す。		
概要・成果	本講座は平成 30 年度から始まった講座であり、「秋保電鉄沿線跡を全線歩いてみたい」との声が講座参加者から多く上がったため、令和元年度も継続して開催した。 今回は、長年地域にお住まいの方にも講師をお願いして実施した。当時の思い出や地域の歴史について文献等には載っていないお話も聞くことができ、参加者からは大変好評であった。 参加者は生出地域の方だけでなく、電車が好きで参加したという方も多くいた。参加者の中には初めて生出地域に来たという方もおり、地域住民との交流も生まれていた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おいでわんぱく広場	体育館の自由開放 9 回と、スポーツ、手芸、国際交流、クッキングの体験講座を 5 回実施した。参加した子どもたちの校区の垣根を越えた交流が図られていた。また、地域講師やジュニアリーダーを活用したことにより、世代間交流の場ともなった。	4 月 27 日 ～2 月 8 日	14	223
仙台市子ども会インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るために、次年度子ども会のリーダーとなる児童、世話人に向けて、講義やレクリエーションの演習を行った。	2 月 2 日	1	10

《太白区》

わいわいおいで里ネットくらぶ	生出中学校生徒有志による企画員とおいで里ネット委員会が、生出地区の小中学生を対象とした事業を企画運営。8月にはサマーキャンプ、12月にはクリスマス会を行った。	8月9日 12月24日	2	40
生出発！食の魅力	生出の自然環境や、食に関する理解を深めるため、地域資源である農地・農作物や人材を活用し、「味噌仕込み」「蒟蒻作り」「枝豆の収穫」「飾り巻寿司作り」を実施した。	6月14日 9月21日 11月27日 1月29日	4	71
生出朗壮大学	高齢者にとって必要なテーマや受講者同士が交流を図りながら楽しく参加できる内容を選定し、介護予防、栄養学、音楽鑑賞、観劇等の講座の他、館外学習やまち歩き講座も実施した。	5月17日～ 2月21日	12	296
出前講座	町内会の婦人部と連携して、介護予防講座、防災講座、音楽鑑賞会など、それぞれの地域の課題や要望に沿った講座を開催し、地域活動を支援した。	6月5日～ 2月2日	11	267
生出地区防災講座	生出学区災害対策協議会との共催により、災害時のドローンの活用について講話と実技を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した。	【中止】 3月14日	-	-
生出かかしまつり・コンテスト	町内会・小中学校・各種団体が地域を挙げてかかしを制作し、様々な団体の協力を得て、かかし作り講習会、かかし人気コンテスト、ステージイベント、模擬店等の集うまつりを開催した。	9月4日～ 9月8日	5	620
第31回「蛸と平家琵琶の夕べ」	第31回目として平家琵琶の演奏、坪沼祭囃子の披露、模擬店や地元の農産物販売、蛸の展示を行った。	6月29日	1	850
第40回 生出コミュニティまつり	町内会、地域の団体、サークル、学校などが一丸となって作り上げ、相互交流を図る場となった。模擬店や広場、ステージ発表、展示発表の他、第40回の記念に餅まきを行い、賑わいを見せていた。	10月27日	1	1,720
生出地区懇話会	連合町内会会長をはじめ各地域団体の長と小中学校の校長に参集いただき、8月と2月に開催した。市民センターの事業について知ってもらい、ニーズを把握するとともに、地域の課題を参加者の間で共有した。	8月12日 2月15日	2	29
◎地域力創造支援事業 ホタルの里・坪沼プロジェクト	地域力創造支援事業の最終年として、蛸の生息地整備に力を入れた。蛸観察会には、子ども園の年長児親子が参加し、蛸の棲む自然の豊かさをPRした。	4月27日～ 3月21日	12	287

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

図書ボランティア養成・活動支援

生出市民センターには小さいながらも約3,000冊の蔵書を保有する図書室があり、これまでは、職員が図書の貸し出しや蔵書整理等を行っていた。地域からの要望もあったため、平成30年度に「図書ボランティア養成講座」を開催し、5名の方でボランティアグループを立ち上げることができた。

市民センターは、月1回行われている定例会へ出席し、会員が主体的に行っている活動（古くなった本の修復や、蔵書の整理、新規図書の選書など）のサポートを行いながら、ボランティアグループとともに利用しやすい図書室運営に取り組んでいる。

中田市民センター

〔沿革〕

中田市民センターは、昭和 44 年 10 月、中田中学校跡地に同校の旧体育館と旧校舎の一部を改築して仙台市で 5 番目の公民館として開館した。昭和 56 年 3 月に本館を鉄筋コンクリート二階建てとして新築し、平成 2 年 4 月には「中田市民センター」と改称。平成 19 年 7 月からの大規模改修工事を経て、平成 20 年 1 月に再開し、現在に至っている。

平成元年度から平成 11 年 6 月までの間は、太白区内市民センター13 館の拠点館として太白区全体の生涯学習推進を担っていたが、現在は地区館として事業を展開している。

また、町内会連合会と地域関係団体とで「中田公民館運営協力委員会」が組織されており、「中田まつり」や「篝火コンサート」など、市民センター活動をはじめとして地域の行事に大きな支援を行っている。近年、宅地開発も進み、戸建てやマンション、アパート建設など若い世代の転入者が増加している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	「伝えよう！伝統の仙台七夕」		
参加者	中田地域住民 成人・中学生・小学生	延参加者	343 名
開催日	全 12 回 6 月 27 日（木）～8 月 3 日（土）		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター、中田小学校、中田中学校、中田中学校防犯ボランティアアルカス、中田児童館、中田小学校放課後子ども教室スマイルクラブなかだ、中田地区町内会、中田商工振興会		
ねらい	かつて中田地域では、旧国道 4 号線沿いに多くの七夕が飾られており商店街も賑わいをみせていた。しかし、年々商店が減少し、商工振興会婦人部有志で作成していた七夕も、高齢化により製作を断念したが、設営の協力や飾る場所の提供など協力関係が続いている。 地域の施設や団体・町内会がともに伝統の七夕を製作することで、子どもから高齢者までが思いを一つにし地域の活性化を図り、次世代へ伝統を繋げていくことを目的とする。地域や各団体を中心となって、かつて七夕飾りで賑わっていた中田の旧国道 4 号線沿いに七夕飾りを設置し、地域の活性化と継続的な担い手づくりを目指す。		
概要・成果	オリエンテーション、七夕製作、中田小学校生徒の短冊づくり、また、町内会・中田小学校放課後子ども教室スマイルクラブ・中田中学校への出前講座を行い、地域への飾り付けと交流会を実施した。 令和元年度は、これまでの講座受講生、町内会、小学校との七夕制作に加えて、中学生企画講座とコラボレーションを行い、多くの中学生が制作に参加した。幅広い世代の参加により、地域の活性化を担う人材を育成する一助にもなった。また、中学生からの地域への防犯メッセージを付けた七夕飾りを作り、商店街のほか新たに J R 南仙台駅や郵便局、銀行などに飾り、多くの住民が本事業に触れる機会となった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
なかだ親子体験クラブ	地域資源や人材を活用し、小学生とその保護者を対象とした実技と講話、参加者交流を実施したほか、名取川をフィールドに、川の生き物と野鳥の観察会、書道体験等を実施した。	6 月 29 日 11 月 23 日 12 月 22 日	3	54

インリーダー研修会	子ども会活動について、児童リーダーや世話人の役割、行事作成やレクリエーション・ゲームの進め方の講話と実技、情報交換等を実施した。	1月26日	1	47
ジュニアリーダーとあそぼう	小学生を対象に、ジュニアリーダーが企画・運営のレクリエーション・ゲームを行った。また、中田まつりでのジュニアリーダーコーナー、中田児童館への出前講座も実施した。	11月10日 1月18日	2	125
中田老壮大学	入学式、コンサート、歴史・国際理解・健康・交通安全、館外学習、学生会主催企画講話・介護予防体操講座等、地域の幼稚園との交流会を開催した。	5月16日～ 2月20日	9	713
地域で取り組む中田の防災	地域総合防災訓練に参加し、また、知っておきたい「大雨時の避難行動」についての講話を実施した。	9月29日 12月7日	2	496
中田まつり	サークル、地域団体及び小・中学校などによる作品展示やステージ発表、ジュニアリーダー、関連団体の模擬店やイベントコーナー、町内対抗大会、図書館サービススポット紹介、市民センター事業紹介等。	11月10日	1	3,850
なかだ篝火コンサート	中田神社境内を会場とし、篝火と竹灯籠を灯した幻想的な雰囲気の中でのコンサート（エレクトーンとキーボードのタベ）を実施した。	9月7日	1	500
中田市民センター「気軽に話し合う会」	事業運営や地域課題についての提案や要望等の意見交換、次年度の各教育機関・地域団体の年間行事日程のすり合わせ及び調整を行った。	9月28日 2月14日	2	16
認知症カフェ 「なかだニコニコカフェ」	コンサート・健康講話・認知症についての講話・カフェ・認知症患者家族相談・中学生カフェボランティア交流や反省会を実施した。	5月16日～ 12月22日	7	495
「中田の魅力つたえ隊！」養成講座	地域の歴史について学ぶ講話「資料の活用」・「甘藷翁」・「甘藷の碑」を開催し、学習成果の地域への還元に向けて検討した。	6月8日～ 9月21日	5	31
市民企画会議 中学生が考える「中田クリーンアップ作戦」	中学生が地域の環境問題について考え、啓発のためにできることを検討し、ワークショップ等を行った。	6月26日～ 3月4日	14	326
市民企画講座 中学生が考えた「中田クリーンアップ作戦」	中学生が地域の環境問題について検討し、地域住民への啓発として展示物の作成・広報誌への寄稿文作成、文化発表会、中田まつり・学校での展示等を行った。	8月1日～ 3月4日	5	9,430

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中田公民館運営協力委員会」の活動支援

中田市民センターには、中田公民館時代から公民館運営協力委員会（構成団体：町内会連合会・各種地域団体・小中学校・市民センター等）が存在し、令和元年度に、設立50周年を迎えた。それを記念し、昭和46年から発行している「広報なかだ」全432号（令和元年9月号まで）と、前身である中田村広報誌（大正15年～昭和5年発行）をすべてデータ化し、1冊に冊子化する事業の支援を行った。「広報なかだ」は、中田地域の情報を発信するものとして長くその役割を担っており、新たな住民が増加しつつある中田において、地域理解のための貴重な資料となっている。また、冊子とデータは仙台市の図書館に寄贈した。

特に、地域住民が主体的に行う「中田まつり」や「篝火コンサート」などの事業については、市民センターが共催して実施している。

西多賀市民センター

〔沿革〕

西多賀地区は、桜で有名な三神峯公園や富沢遺跡があり、仙台でも暖かく環境に恵まれた、住みやすい土地である。昭和 50 年代、福祉に対する住民の要望が多様化し、自らが福祉活動に参加する傾向が現れてきた。そのため、活動拠点となる地域の施設を求める要望が高まったことから、昭和 53 年仙台市として 5 番目の福祉会館として開設された。昭和 58 年、地域住民のより幅の広い利用を可能にするため、名称を市民センターと改めた。平成元年政令指定都市移行に伴い地域の社会教育の充実のために公民館機能が組み込まれ、生涯学習の拠点として活用されている。

平成 3 年に児童館が併設され、平成 30 年 11 月には新館が開館した。現在は、子どもから高齢者まで誰でも気軽に利用できる市民センターとして親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	●中学生が考える地域交流会 「三神峯公園大清掃～心地よい地域へ～&ビッグカルタ選手権～西多賀を知ろう～」		
参加者	中学生と地域住民	延参加者	98 人
開催日	全 4 回 8 月 21 日(水)、8 月 22 日(木)、8 月 23 日(金)、11 月 9 日(土)		
協力者・協力団体	三神峯公園愛護協力会、西多賀検定委員会、西多賀北町内会・東町内会さくらくらぶ、太白区公園課、西多賀中学校、まちづくり推進部太白区中央市民センター		
ねらい	平成 27 年度から 5 年間、中学生による企画事業を継続することで、地域での住民同士の交流や異世代間交流ができつつある。また、毎年中学生が主体となって行っている三神峯公園の清掃が地域住民に認知され、ゴミのポイ捨てが減るなど良い効果をもたらしている。令和元年度も中学生が「地域交流」をテーマに講座を企画し、実践することを目的とする。		
概要・成果	西多賀中学校の生徒が、職場体験の際に考案した企画を基に講座を開催した。中学生と地域住民による三神峯公園の清掃活動、ゲーム形式で行う地域についての学習会、町内会の協力による昼食交流会を実施した。 講座を通して、中学生と地域住民との異世代間交流がなされ、地域活動への関心が深まり、地域連携を促進することができた。また、自分の地域やその歴史について学び、より地域に愛着を深めることができ、企画を考案、実践した中学生にとっては、大きな自信となった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ジュニアリーダーとあそぼう！	1 回目は簡単な工作、2 回目 3 回目は地域の行事の中でもぐらたたき、4 回目はゲームを企画運営し、ジュニアリーダーが日頃学んだ成果を還元した。	8 月 3 日 9 月 28 日 11 月 3 日 12 月 25 日	4	303
インリーダー研修会	子ども会を充実させるため、子ども会のリーダーとなる児童と世話人を対象に、子ども会についての知識や活動について学んだ。	1 月 26 日	1	96

子ども参画型社会創造支援事業 にしたがキッズ情報局 2019	子どもたちが自分達の住む地域のいいところ、好きなどころを取材して番組を作成し、「エフエムたいはく」のラジオで情報発信した。	6月23日～ 1月19日	11	61
西多賀今昔まち歩き	西多賀の今昔を学び、座学で学んだ地を訪れることにより、地域への郷土愛が育まれると共によりよい地域づくりへの関心を高めた。	8月24日 9月1日	2	23
西多賀寿大学	健康づくり、介護予防、地域の歴史等様々な分野の講話を実施した。運営委員自主企画では、博物館見学、防犯の講話、新春交流会を企画・実施した。	5月15日～ 2月19日	10	684
西多賀今昔かるた大会	西多賀検定委員会作成の「西多賀今昔かるた」を利用して地域を知るための講座を開催した。子どもたちが交流しながら地域について学んだ。	1月7日	1	54
★手をつないで考えよう 減災・防災	地域防災・減災の意識向上のため、連合町内会だけでなく、民生委員・児童委員・社会福祉協議会を含む広域での連携を図り、防災に関する学習会・研修会を開催した。	7月17日 7月24日 9月28日 10月3日	4	513
広げよう福祉の輪	西多賀地域の福祉団体と連携しながら、ボランティア育成を目標とした「ボランティア講座」を2回実施。また、地域住民が福祉に関心を持ち学ぶ機会を提供する「福祉のつどい in 西多賀」を開催した。	8月3日 11月16日 1月25日	3	335
●天沼公園から地域環境を知ろう	ホタルの幼虫放流、清掃活動、自然観察会を通して、地域の自然資源である天沼公園への関心を高め、地域の環境を守り育てる心を育んだ。	4月10日 6月22日 6月29日	3	91
西多賀ふれあいまつり	ステージ発表（小中学生含む）、作品展示、お茶席、ジュニアリーダーコーナーを実施。おまつりを通して、地域住民が交流し、学習成果の発表と明るい地域づくりに努めた。	11月2日 11月3日	2	1,530
西多賀地域懇談会	生涯学習事業の企画に反映すべく地域の学習課題や地域課題について、意見・情報の交換を行い、地域の活性化とよりよいコミュニティづくりに努めた。	6月21日 12月17日	2	42

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「西多賀地区福祉団体連携会議」の活動支援

西多賀市民センターは、地域の福祉団体である西多賀地区民生委員児童委員協議会、西多賀地区社会福祉協議会、西多賀地域包括支援センター、八木山地域包括支援センターと、2か月に1回、市民センターを会場に「西多賀地区福祉団体連携会議」を開催している。

この会議では、地域課題や各団体の活動について情報を共有し、問題解決に向けた意見交換を行っている。会議から実現した「西多賀地区ボランティア講座」や「福祉のつどい in 西多賀」には、多くの地域住民が参加し、福祉への関心が高まりつつある。

今後は、西多賀地区町内会連合会、西多賀赤十字奉仕団の参加により更にネットワークを広げ、西多賀地域全体の課題解決とより良いまちづくりをめざす。

八本松市民センター

〔沿革〕

八本松市民センターは、八本松地区の国有地を取得し、昭和 60 年 5 月に、コミュニティ防災センターを併設した複合施設として開館した。さらに平成 20 年 4 月には、八本松児童館が新たに併設された。平成 26 年度に大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

近辺には広瀬川が流れ豊かな自然環境に恵まれ、史跡として国指定を受けた郡山遺跡、北目城跡がある。長町副都心長町駅東再開発が行われ、歴史的情緒を持ち合わせつつ、近代的な街並みを呈した地域である。

建物は八本松公園と隣接しており、町内会の集会や文化活動、レクリエーション、スポーツにと、子供から高齢者まで誰もが気軽に利用できる市民センターとして、地域住民に親しまれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★AKH防災リーダー講座		
参加者	地域住民	延参加者	50 人
開催日	全 2 回 7 月 13 日（土）、8 月 24 日（土）		
協力者・協力団体	八本松連合町内会、仙台市危機管理室減災推進課		
ねらい	東日本大震災後「八本松地域防災サミット」（平成 27 年度より「八本松地域合同防災会議」と名称を変更）を立ち上げ、会議や合同防災訓練等を、8 年間継続してきたが、避難所のリーダー的役割を担う人材の高齢化への懸念をふまえ、次世代層のリーダー養成を図る。		
概要・成果	第 1 回目は「長町一利府断層帯の現状と影響」について学習し、第 2 回目は「広瀬川、名取川での洪水と土砂災害ハザードマップの見方と避難行動」について学習した。八本松、郡山地区で懸念されている「長町一利府線断層帯」による震災と大雨による洪水災害について学習することで、地域防災を担う人材の防災意識の向上が図られた。 実際、この講座の学習を生かしてその後の台風による大雨時の避難所開設や早期の避難行動の開始等に役立てることができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
八本松子育てサロン おやこのまったりひろば	未就園児の親子と一緒に体験をする場を提供した。講座に参加することで、未就園児の親子が仲間づくりをし、子育てにおいて孤立するのを防ぐ一助とした。	5 月 17 日 6 月 28 日 9 月 7 日 12 月 13 日	4	75
親子のわくわくぼうけんタイム	小学生親子と一緒に体験学習等をする場を提供し、学区を越えた異年齢の児童同士及び親子同士での交流を深めてコミュニケーション能力を育み、仲間づくりをすることを支援した。	6 月 8 日 11 月 29 日 2 月 22 日	3	84
秋休みドッジボール大会	地域の児童館と連携し、小学生が交流しながら体験や学習する機会を設けた。その際、隣接する地域にある他校の小学生や異年齢の児童とのふれあいを通じ、コミュニケーション能力を育んだ。	10 月 16 日	1	68

仙台市子ども会イン リーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るために、子ども会のリーダーとなる児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識や活動に必要な技術習得のための学習機会を提供した。	2月9日	1	83
うぶすなスクールコ ネクト	地域の中学校と連携し、中学生と地域がともに学ぶ場や、異なる世代と交流する場をコーディネートした。また、世代を超えた交流機会を得ることで、次世代を担う中学生の健全育成支援、地域での顔の見える関係づくりにつなげた。	11月27日	1	590
八本松寿大学	現代的課題を踏まえたテーマの講話や実技（歴史・暮らし・健康・音楽・文化などの各分野）、宮城県聴覚支援学校中学部の生徒と手話を通しての交流会も継続して行った。	5月～2月	10	101
八本松市民センター 出前講座	郡山地区住民や郡山地区連合町内会等と連携し、地域課題を解決する取組みを一緒に考えながら準備会議を開催し、演芸や地元の高校生による演奏会を企画・開催した。	4月24日 6月15日 7月19日 2月15日	4	51
八本松スマイルコン サート	変貌著しい八本松・郡山・あすと長町地域の新旧住民の交流促進のため、気軽に参加でき、子育て世代から高齢者まで家族で気軽に楽しめるコンサートを開催した。	6月22日 1月18日	2	149
令和元年度八本松・郡 山地区市民まつり 第23回うぶすなフェ スティバル	地域住民に日頃の生涯学習活動の発表の場と交流の機会を提供し、地域活性化につなげた。また、市民センター事業を住民に理解してもらう機会の一助となった。	11月3日	1	1,500
八本松市民センター 懇話会	地域住民や、市民センターを利用している団体の方々から広くご意見を聞き、市民センター事業の感想、地域の情報などをお話いただき、相互理解を深めるとともに、市民センターのより良い運営に役立てた。	6月11日 2月13日	2	35
市民企画講座 知ろう！学ぼう！広 瀬川の魅力	広瀬川の自然環境、歴史や伝説について学び、広瀬川の魅力や関わり方を通して地域資源として愛着を増す機会とした。	11月8日 11月15日 12月21日	3	35
市民企画会議 知ろう！学ぼう！ 広瀬川の魅力	広瀬川の環境や資源について多方面から学び、広瀬川の魅力や関わり方を通して地域資源として愛着を増す機会を作ることを目的とする企画会を開催した。	5月10日～ 2月7日	15	30

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

郡山中学校・宮城県立聴覚支援学校「職場体験」への活動支援

八本松市民センターでは、毎年郡山中学校の「職場体験学習」を受け入れている。令和元年度も郡山中学校から8月27日～29日の間、4名の生徒が市民センターの職場体験を行った。さらに、11月21日～22日に宮城県立聴覚支援学校の生徒も受け入れた。職場体験学習では、施設管理業務を体験し、生涯学習事業について学習し、講座を企画・発表し、チラシを作成するというワークショップを行った。また、市民センターを利用するサークルや地域団体の活動に参加し、地域住民と交流を図った。市民センターと地域の学校の連携により、地域ぐるみで青少年の健全育成に寄与することができた。

八木山市民センター

〔沿革〕

八木山市民センターは、仙台市南西部に位置し昭和 30 年代後半～40 年代中頃にかけて整備・開発された、豊かな自然が残る調和の取れた住宅地である八木山地区に、昭和 62 年 4 月 6 日開館した。平成 20 年 11 月には新しい体育館を増設、平成 25 年度から 26 年度にかけては大規模修繕を実施し、平成 27 年 4 月に再開した。

当市民センター周辺は、八木山動物公園や八木山ベニーランドなどのレクリエーション施設をはじめ、大学、野草園、放送局、総合病院など学術・文化・医療の施設等が揃い、地域住民ばかりでなく広く仙台市民に親しまれている地域である。また、センター隣接地が平成 27 年 12 月に開業した地下鉄東西線の西の起点駅（八木山動物公園駅）となったことから、地域の生活環境も大きく変貌しつつある。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	★広げよう八木山防災の輪		
参加者	どなたでも	延参加者	242 人
開催日	全 5 回 7 月 9 日(火)、8 月 23 日(金)、9 月 1 日(日)、9 月 10 日(火)、11 月 2 日(土)		
協力者・協力団体	八木山南小学校、八木山中学校、東北工業大学、太白消防署八木山出張所、婦人防火クラブ八木山支部、太白消防団八木山分団		
ねらい	小中学校へ防災授業を出前するとともに、受講した子どもたちが地域の消防関係団体や大学等と様々な形で協働することで、大人から子どもへ、子どもから大人へと防災への意識を地域全体で高めていく。		
概要・成果	八木山南小学校、八木山中学校への防災授業の出前講座、八木山あおば保育園への中学生による「ぼうさいダンス」の出前講座、「せんだい防災のひろば」「秋の八木山フェスタ」での「ぼうさいダンス」への出演を行った。 八木山南小学校では、1 年生については「ぼうさいダンス」を行い、2 年生については、新たに「小学生向けイツモ防災教材」を活用しての防災授業を行い、防災への意識醸成を図った。 八木山中学校の防災授業については、学校側の要望により、仙台八木山防災連絡会と連携のうえ 2 年生を対象に防災全般に関する意識醸成を図る講演を実施した。 出前授業においては、それぞれの学年に合わせた学習内容を用意したため、子どもたちにとっては興味を持って取り組みやすいものになっていた。各種イベントにおいては小中学生、大学生、地域住民が防災活動を通じての世代間交流も図ることが出来た。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
仙台市子ども会インリーダー研修会	各子ども会で次年度のリーダーとなる小学 5 年生と世話人を対象に、子ども会活動の意義やリーダーの役割について講話と実習を行った。	2 月 16 日	1	72
子どものための囲碁教室	地域の高齢者を講師とし、未就学児や小学生を対象に囲碁の指導や対局を行った。また、挨拶などの礼儀についても指導した。	4 月 13 日～ 2 月 15 日	32	438

地域の絆プロジェクト「動物公園の壁に絵を描こう」	小中学生が大学生や地域住民の協力のもと、八木山動物公園の擁壁に絵を描くことで、交流を図りながら、地域への愛着を育み地域の人とのつながりを知る機会とした。	8月2日 8月10日	2	132
在仙外国人向け日本語講座「日本語ティールーム」	ボランティア団体と連携して、外国人を対象に日本語能力別指導や日本文化・生活習慣を知る行事体験などを行い、日本での暮らしを支援するとともに、地域住民との異文化交流を促進した。	4月12日～ 2月26日	66	1,288
やぎやまシニア大学	地域の高齢者を対象に多岐にわたるテーマでの講座などをほぼ毎月行うことで、高齢者の生涯学習の機会とすると共に、孤立しがちな高齢者の交流の場とした。	5月9日～ 2月13日	9	713
地域防災シンポジウム in 八木山	児童・生徒による防災に関する学びや取り組み・研究の発表と各世代混合のグループ討議を行う事で、地域の防災力の向上を目指した。	12月7日	1	124
恐竜山・金剛沢「遊・歩・導」	地域の自然散策とその魅力を市民に発信する団体と、八木山おやじの会と連携し、地域の小学生およびその保護者向けにウォークラリーを開催した。	11月10日	1	34
第31回八木山市民センターまつり	町内会、老人クラブ連合会と市民センター利用団体で組織した実行委員会が主体となり開催する予定であったが、台風19号の接近により中止した。	【中止】 10月12日 10月13日	-	-
第14回秋の八木山フェスタ	八木山ベニールランド、八木山動物公園、東北工業大学とイベントを共催することで、八木山地区の活性化と、小中高生の参画による人づくりを目指した。	11月2日	1	17,913
八木山気軽に懇話会	市民センター利用団体・サークル、八木山・八木山南地区町内会、学校関係者・地域団体との懇話会を実施し、市民センター運営の改善・事業展開に繋げた。	7月30日 7月31日 12月17日	3	34
「八木山社会学級共催事業」企画会	八木山小学校社会学級企画員と企画会議を行い講座を共催することで、社会学級と互いに顔の見える関係を構築し、現役世代から見た地域の現状や課題を把握する機会とした。	5月16日～ 11月28日	6	12
祝令和！和楽器ふれあいコンサート	八木山小学校社会学級との共催で小学校を会場に和楽器体験を含むコンサートを開催することで、児童、社会学級生、地域住民が交流した。	11月19日	1	29

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

八木山まちづくりプロジェクト「八木山みんなのカフェ」の活動支援

「八木山まちづくりプロジェクト」は平成29年6月、「シニア世代が住みやすく、子育て世帯が住みたくなる福祉のまちづくりを目指そう！」をテーマに日常的な活動やイベント、調査などを開始した。「八木山みんなのカフェ」は、プロジェクトの構成メンバーである八木山地域包括支援センター、八木山地区民生委員児童委員協議会、八木山地区社会福祉協議会、八木山市民センター、東北工業大学 地域のくらし共創デザイン研究所が企画運営する地域住民の交流の場であり、定期的に移動カフェなどを開催している。

市民センターは講師紹介や会場提供などの支援を行っており、毎回、テーマに興味を持った小学生から高齢の方まで幅広い年代の地域住民が集う場となっている。

山田市民センター

〔沿革〕

山田市民センターは、昭和 62 年 4 月 17 日、旧笹谷街道沿いに戦後住宅街として開発され発展してきた山田地区に、コミュニティ防災センターを併設して開館した。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

当市民センターは縄文遺跡や鹿除土手などの歴史遺産や昔ながらの自然を残す恵まれた環境の中にあり、太白消防署、鉤取郵便局、鉤取球場、縄文の森広場などの公所・施設や小中学校、大学などの教育機関も多く立地している。また、国道 286 号線沿いには大型商業施設が立ち並び、高い集客力を有している。

こうした環境の中、当市民センターは地域の生涯学習や地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業「楽元の森プロジェクト」		
参加者	どなたでも	延参加者	648 人
開催日	全 9 回 4 月 20 日（土）～ 2 月 22 日（土）		
協力者・協力団体	山田鉤取地域町内会連合会、上野山小学校、楽元の森自由開放運営委員会、まちづくり推進部太白区中央市民センター、上小会		
ねらい	山田地域は、高齢化が進み高齢夫婦世帯や高齢者の一人暮らし世帯が増えている。それに伴い、町内会をはじめ地域活動を担う人材不足が深刻な問題となっている。そこで各団体に呼びかけ、地域資源である楽元の森の整備・活用等に係る自主運営委員会の立ち上げを目指し、人材発掘・育成を図り、地域活性化につなげる。また、多くの団体と共催、連携することで協力体制を深め、円滑な活動の推進を目指す。		
概要・成果	令和元年度は、「スタンプラリー」、「虫探し」、「ハロウィン仮装コンテスト&イルミネーション」、「デイキャンプ」の 4 回の講座を開催した。講座開催の前には、企画委員による企画運営会議を開催し、課題解決に向けて積極的に意見交換を行った。企画委員一人ひとりが上野山小学校隣接の「楽元の森」の魅力と有用性を十分に理解し、講座では、地域住民や子どもたちにその魅力と活用の術を伝えた。企画委員は講座の進行を担当したり、物品を借用したりと活動する中で、企画委員相互の協力体制を強め、スキルを向上させ地域づくりに意欲的かつ楽しみながら取り組み、地域づくりの担い手として活躍した。企画委員も 14 名に増加し、参画する企画委員の充実を図ることができた。 講座の開催にあたっては連合町内会の理解と協力が得られ、企画委員は楽しみながら地域の魅力を創出・発信することができた。また、地域団体の賛同も得られやすかったことから、新たな地域ネットワークを形成しつつあり、回を重ねるごとに繋がりは強まっている。 会場の楽元の森を地域資源と捉えて活用し、参加した子どもたちの健やかな成長と地元愛を強めることもできた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
サマースクール山田 ～デイリーチャレンジ	地域講師、ジュニアリーダー、市民センター利用サークルの協力を得て、地域の大人が見守る中、ドッジビー、縄文体験、気象実験と工作、卓球、茶道、調理等、日替わりで様々なチャレンジができた。	7 月 23 日～ 8 月 1 日	7	130

インリーダー研修会	次年度子ども会のリーダーとなる現5年生および世話人を対象に、子ども会活動についてと、リーダーや世話人の役割について学んだ。また、楽しくできるゲームを教わり、実践した。	2月23日	1	54
山田かがやき隊	1回目は「男の料理」、2回目は「庭木の剪定」、3回目は臨床美術の体験の「量感画を描こう」、4回目は「漢方で体を整えよう」、5・6回目は「かえりびなを作ろう」を午前と午後開催した。	5月24日～ 2月21日	6	105
山田豊齢大学	介護、朗読、家庭でできる防災の備え、軽運動、片付け、文学などをテーマにした講話や実技、館外学習、受講生の親睦交流を深める新春交流会を行った。	5月9日～ 2月13日	8	513
●福祉フォーラム	企画会議を経てパネル展示、防災講話とコンサート、地域内の福祉施設や健康サロンの活動紹介のパネル展示、仙台西多賀病院による健康チェックを行った。	6月5日～ 1月24日	6	217
山田鉤取まち巡り	山田鉤取まち物語管理運営委員会と共催し、検討会を経てまち歩きを実施した。委員会メンバーが説明をし、地域の歴史などを学びながら約2時間のまち歩きを楽しんだ。	4月18日～ 12月13日	8	87
●山田鉤取地域防災訓練	地域合同の防災訓練、訓練当日は台風のため中止したが、事前打合せ会や実行委員会、反省会を実施した。	5月21日 7月21日 10月10日 11月20日	4	192
第22回山田ふれあいまつり	展示、舞台発表、各種出店、イベントコーナーへ47団体が参加し、来場者は2,200人以上に及んだ。各団体にとっては日頃の学習成果を発表する場になり、地域住民には交流の場となった。	11月9日 11月10日	2	2,250
山田スマイルコンサート	ラテン音楽、クラシック、カントリー、手踊りと津軽三味線の演奏を実施した。近隣の福祉施設利用者も来館し、第1回と第3回の実施後にはお茶っこサロンも開催した。	6月1日 9月7日 12月14日 1月25日	4	331
地域懇話会	1回目は、学校、保育所、児童館など教育関係者を対象に開催し、地域課題や情報の共有を図り、連携事業について検討した。2回目は、市民センター利用サークルを対象に開催し、要望等について伺った。	4月25日 12月7日	2	37

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

花壇ボランティア「ふれあいの花プロジェクト」の活動支援

平成30年度に引き続き、地域のボランティアが、市民センターが管理している花壇の整備活動を行なっている。整備している花壇はバス停脇にあるため、地域の方がかけてくださるねぎらいの言葉が活動の励みにもなっており、活動の継続を希望している。市民センターでは、肥料「杜のめぐみ」の手配・種まき・植栽・花壇整備等の支援を行った。地域の企業の協力も得られ、花壇を掘り起こすなどの大掛かりな整備もでき、季節を通して地域の方の目を楽しませることができるよう魅力ある花壇づくりに取り組んでいる。

茂庭台市民センター

〔沿革〕

茂庭台地区は仙台市西部に位置し、市内中心部から約 20 分の距離にあり、古くからの梨野地区と住宅が多く建ち並ぶ茂庭台地区からなっており、豊かな自然環境に恵まれている。

茂庭台市民センターは、昭和 63 年 4 月にコミュニティ防災センターを併設して開館し、平成元年 4 月から地域社会教育の拠点として公民館事業を開始した。平成 2 年には児童館が併設された。平成 30 年度には大規模修繕を実施し、平成 31 年 4 月に再開した。

近隣には市営住宅や多くの福祉施設があり、高齢者、子ども、福祉施設の方々や外国人居住者の利用も多く、当市民センターは地域コミュニティの交流の場となっている。また、コミュニティ活性化に向けて連合町内会による地域活動が積極的に進められている。地域ニーズ、課題解決を図るため「市民本位の生涯学習拠点」「市民が主役の交流拠点」「市民参画による地域づくりの拠点」として、より多くの利用者に気軽に足を運んでもらえる様な事業を実施するとともに、地域課題解決のもとに集まれるネットワーク拠点としての機能が持てるようなセンター運営を行っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	住民参画型事業・複数年事業「みんなの広場」プロジェクト		
参加者	地域住民	延参加者	71 人
開催日	全 10 回 5 月 12 日（日）～2 月 8 日（土）		
ねらい	地域コミュニティの活性化に向けて、①地域人材の発掘・育成、②地域情報の共有、③地域資源の有効活用、④事業の企画・実施、⑤地域活性化の理念共有の 5 つの視点・理念を基に複数年事業として講座を企画していく。同時に企画員を通して地域との「顔の見える関係づくり」の強化を図り、市民が主体的に地域と関わるきっかけを作る。		
概要・成果	市民企画員による会議を経て企画講座を実施した。令和元年度は平成 30 年度に続いて、連合町内会主催の夏祭りに向けての盆踊り練習、映画会・屋外コンサート、凧あげ大会を企画、実施した。平成 28 年度から継続して取り組んでいる事業であり、企画員のスキル向上により、毎年、反省点を改善しながら実施することで参加者に喜ばれる講座が実施できるようになっている。また、企画員の声かけにより得意分野の異なるメンバーが加入し、幅広い活動ができるようになった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
もにママサロン	茂庭台児童館と共催し、わらべうた遊びや軽体操等を取り入れ、気軽に集い交流する場を提供した。	7 月 12 日 9 月 27 日 12 月 13 日	3	64
もに輪っ子体験クラブ	地域における子どもの養育を目的としたキーホルダー作成やスポーツ体験、民話語りを聞く場を設け、伝統文化や造形に触れる貴重な機会となった。	6 月 5 日 8 月 7 日 11 月 12 日	3	88
ジュニアリーダーとあそぼう！	小学生がレクリエーションなどを通して仲間同士協力することの大切さ、集団活動時のルール等を学ぶことを目的に開催した。第 1 回はレクリエーションとドッジボール、第 2 回はレクリエーションとゲームを行った。	7 月 20 日 12 月 14 日	2	44

インリーダー研修会	子ども会のリーダーとして活躍する児童及び世話人を対象に、子ども会についての知識やレクリエーション等を学習する機会を提供した。	2月2日	1	31
茂庭台大学	年間を通して健康、暮らし、介護予防、音楽、美術など様々なテーマで楽しく学ぶ機会を提供した。また、運営委員会主催の昼食会を開催し、受講生同士の交流を深めた。	6月21日～ 2月21日	8	306
男の休日倶楽部	男性が様々な体験を通して地域交流に繋げることを目的に、マイ箸づくり、そば打ち、簡単料理教室といった男性の関心が高い内容で実施した。	10月24日 11月21日 11月26日	3	22
地域懇談会	学校関係者、町内会関係者、サークル関係者及び地域団体と地域課題の発掘、把握、解決に向け意見交換を行った。	7月3日	1	25
地域防災講座	地域住民を対象に、防災意識の高揚のため、「天水桶手づくり講座～雨水をためて使って賢い暮らし～」を実施した。	10月26日	1	10
茂庭台地区市民文化祭	市民センターを利用しているサークル・団体等に学習成果発表の場を提供し、地域住民の交流を深める場とすることを目的に開催した。	10月6日	1	1,200
リニューアルオープン記念コンサート	令和元年度にリニューアルした市民センターを会場にコンサートを開催し、住民が集い、交流する機会や文化的活動への関心を高める機会を提供した。	6月29日	1	130
出前講座 茂庭台市民センターがおじゃまします	地域活性化、入居者同士の関係を深める目的で、茂庭台第二復興公営住宅のめぶき町内会で出前講座を行った。第1回はコンサート、第2回は映画会、第3回は健康講座を行った。	11月16日 11月30日 12月17日	3	53
住民参画型事業・複数年事業「天空の広場」盛り上げ隊	市民センター前広場で気軽に参加できる盆踊り大会、映画会、凧揚げ等の講座を実施し、地域活性化に繋げた。	7月7日 7月20日 9月14日 2月8日	4	218
もにわだいを楽しく歩こう	地域講師を迎え専門的なスキルを学び、そこで学んだことを実際のまち歩きを通して参加者に伝え、地域を知る機会を提供した。	9月14日～ 2月9日	5	57

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

水道山整備ボランティアの活動支援

団地内にある茂庭台緑地は、地域住民から「水道山」と呼ばれている。以前は草木が鬱蒼と生い茂り倒木が多く、危険な場所とされていた。植生が豊かだった頃の姿に戻したいとの声が市民センターに寄せられ、平成21年度に市民センターが企画講座を実施し、水道山整備に取り組んだ。その時の企画員6名が中心となり、水道山整備ボランティアを結成。平成23年度から自主的に活動し、平成29年度には太白区まちづくり活動賞を受賞した。

令和元年度には不法投棄を防止する啓発活動として看板の設置について検討する等、地域の大切な資源として保全に取り組んだ。市民センターでは、まち歩き講座において水道山を散策ルート1つに加えるなど、積極的な地域資源活用に取り組んでいる。その他、整備活動にあたる上で必要な各種手続きや活動記録作成、ボランティアからの相談受付や情報提供等、広くサポートも行っている。

東中田市民センター

〔沿革〕

東中田市民センターは、平成元年 4 月に児童館、保健センター、コミュニティ防災センターを含む複合施設として開館した。

当市民センターが位置する東中田地区は、仙台市太白区の東南端・名取川下流域にあり、名取川と広瀬川の合流点にも近く、素晴らしい自然環境に恵まれ、古墳や寺社仏閣などの歴史的資産を有している。

農村であったこの地域に、近年は高層の市営住宅や高齢者福祉関連施設、ミニ開発による一戸建て住宅が次々に建設され、商業の発展も著しい。新旧住民が混在し、急速に発展している地域環境に対応した地域コミュニティの確立が望まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ほっこりサロンボランティア養成講座		
参加者	地域住民	延参加者	87 人
開催日	全 11 回 4 月 16 日(火)～8 月 31 日(土)		
協力者・協力団体	まちづくり推進部太白区中央市民センター（太白区内地域連携ネットワーク）、ほっこの会		
ねらい	震災の影響や農地の宅地化により、転入者が増加している東中田地区で、住民同士が気軽に集い、交流できる「ほっこりサロン」を運営するボランティアを養成する。現在、サロンを運営している「ほっこの会」が企画段階から講座運営まで全面的に参加し、会の主体的な活動を促進する。受講生には、定期開催のサロンの雰囲気を知ってもらい、また、中学校への出前サロンも講座に組み入れ、活動の様子を知ってもらうことでサロンボランティアの増員を目指す。		
概要・成果	ほっこりサロンボランティア養成講座は、講師を迎えてタッピングタッチやハンドマッサージのスキルを学ぶ回と、学んだスキルの定着を図る練習の回を交互に行う組立てで実施した。練習の回では、既にボランティアとして活動を行っている「ほっこの会」メンバーに講師役を務めてもらい、「ほっこの会」の主体的活動にもつなげることができた。 養成講座は、受講生がボランティアとなってからも活動しやすくなるよう、日頃「ほっこの会」がサロンを行っている東中田市民センターで開催したものの、残念ながらボランティア増員とはならなかった。しかし、受講生がサロンを訪れるようになり、つながりはできた。 平成 30 年度に引き続き、「ほっこの会」がこの講座の企画会から講師役までを務めており、会の代表を中心にますますチームワークよく活動している様子が見られる。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
インリーダー研修会	子ども会活動の充実と活性化を図るため、児童や世話人が子ども会についての知識や活動に必要なスキルを学ぶ機会を提供した。	2 月 16 日	1	39
東中田わくわくタイム	小学生を対象に、学校の長期休みに、普段体験できない学習の機会を提供した。市民センターで活動するサークルや地域住民を講師に迎え、異世代・異年齢交流を図った。	7 月 24 日～ 2 月 22 日	7	125

東中田いきいきタイム	市民センターに咲くラベンダーで干支の小物作りを行い、交流を図った。また、健康体操では身体計測とストレッチ、脳トレ体操等を行い、健康や介護予防について考えるきっかけとした。	7月4日 7月5日 12月4日 1月22日	4	47
東中田老壮大学	地域に暮らす高齢者が孤立しないよう、歴史、文化、芸術に関する講話や館外学習等、気軽に集い交流する機会を提供した。	5月15日～ 2月19日	10	594
みんなのコンサート	地域住民に身近な施設である市民センターでコンサートを開催し、様々なジャンルの音楽に触れる機会を設け、参加者が音楽を楽しみ交流を深めた。	6月22日 7月27日 12月14日 2月29日	4	234
防災減災学びの学校	仙台管区气象台から講師を招き、地域課題である治水対策に関する防災・減災を学ぶ機会を提供した。	11月23日	1	110
東中田市民まつり	町内会や地域団体、地域のサークルと連携してまつりを企画、運営することで地域住民の交流の場とした。	10月6日	1	3,300
東中田地域コミュニティ懇話会	市民センターの事業を多くの方に紹介し、地域団体から現状について情報提供いただくと共に、市民センターの事業や運営への意見をうかがった。	6月21日 2月21日	2	31
自分のまちをあるいてみよう	平成28年度に作成した「お宝マップ」を活用し、地域の名所旧跡をボランティアの解説で巡ることにより、自らが住む地域への理解を深め、地域愛を育む機会を提供した。	6月29日 11月30日	2	57
知ろう！伝えよう！ 東中田地域の「お宝」	地域に伝わる「かに伝説」等の民話や伝説といった、地域の宝を語り伝えるためのボランティアの養成とスキルアップを図った。	9月26日 10月10日 10月17日	3	27

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

語り手ボランティア「かにっこ語りの会」の活動支援

平成26年度の「東中田の語り部ボランティア養成講座」から立ち上がった「かにっこ語りの会」は、地域に伝わる「かに伝説」の伝承を軸に、市民センター主催講座「自分のまちを歩いてみよう」等で地域の名所・旧跡等の解説や、小学校の総合学習での講師など、地域を紹介する役割を担うなど活動の幅を広げている。市民センターでは、主催講座の講師を依頼することで講座への協力をいただくとともに活動機会の提供を図るほか、サークルの学習会への講師の紹介や、小学校とのコーディネート等を担う等の支援に努めている。特に令和元年度は、市民センターが「知ろう！伝えよう！東中田地域の『お宝』」で「かにっこ語りの会」の活動を紹介し、入会と活動への参加を呼びかけたところ、新たに1名が入会して活動を始めた。今後も市民センターでは活動の支援を継続していく。

柳生市民センター

〔沿革〕

柳生市民センターは、平成 9 年 4 月に、市内 52 番目の市民センターとして児童館・コミュニティ防災センターを併設して開設された。

当市民センターが位置する柳生地区は仙台市南端に位置し、住宅地・商業地として発展している。また自然環境に恵まれ、柳生和紙など伝統工芸も残されている。マンション等の建設に伴い、他地域からの転入者も多く、若年層の世帯が比較的多い地域である。

このような地域特性と地域資源を活かし、多様化する住民の要望等に対応しながら生涯学習の地域拠点として各種事業を展開し、地域コミュニティの形成・住民の自主的活動の場としての役割を担っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	柳生おとなの学校		
参加者	どなたでも	延参加者	284 人
開催日	全 18 回 4 月 20 日(土)～2 月 20 日(木)		
協力者・協力団体	柳生和紙プロジェクト		
ねらい	地域資源の活用や介護予防、多種多様な文化体験、世代間交流ができる講座を企画委員自身が学びながら企画し、将来的には生涯学習ボランティアとして活動することを目指す。		
概要・成果	事業は 3 年目となり、10 名の企画委員は常日頃から地域資源についての情報や知識を蓄積し、企画会議を重ねて 3 つの講座を企画した。 ①「柳生のホタルに会えるかな」では、「柳生キッズあそび隊」と共催で、小学生親子を対象に里山の風景が残る水路に生息しているホタルの観察会を実施した。 ②「柳生和紙にふれてみよう」は、小中学校の卒業証書に使用されている柳生和紙を活用した講座。柳生小で和紙クラブの指導をしている「柳生和紙プロジェクト」の協力のもと、和紙の歴史を学び、柳生和紙の一閑張り小物を作ることで参加した方に興味関心を持ってもらうと同時に、伝統を受け継ぐ大切さを体験してもらうことができた。 ③「お待たせしました！うたごえ喫茶」では、地域の方が集い声を合わせて歌い、交流を深めた。 また、企画講座以外でも、企画委員は市民センター主催事業「柳生いきいき健康サポート・ボッチャ」の運営協力を携わり、地域の介護予防に積極的に取り組んだ。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
柳生子育てサロン	乳幼児親子を対象に親子リトミック、家庭での事故予防、3 B 体操、クリスマスお楽しみ会、布のおひなさま作り、季節行事の体験等を通して地域交流を深めた。	7 月 3 日～ 1 月 30 日	5	69
柳生キッズあそび隊	小学生や小学生親子を対象に蛍観察会、調理（キーマカレーなど）、科学実験（ビスマス鉱物）、気象を学ぶ実験の機会を提供し、これらの体験学習を通して参加者が交流を深めた。	6 月 21 日 7 月 26 日 8 月 2 日 11 月 16 日	4	109

インリーダー研修会	子ども会活動のリーダーとなる児童と世話人（保護者）を対象に行事計画、レクリエーションの進め方、子ども会運営、世話人の役割、情報交換等の研修会を実施した。	2月2日	1	150
柳生シニアスクール	高齢者が定期的に朗読劇、コンサート、体操、ゲーム、運営委員会自主企画講座等の学習に参加し、多くの人との関わりを通して親睦を深め、学びの楽しさを実感した。	5月22日～ 2月26日	10	562
ブックカフェでワールドカフェー読書の 愉しみ	お茶を飲みながら、カフェのような雰囲気でのコミュニケーションをとるワークショップを行い、本や読書について語り合った。	2月28日	1	11
柳生いきいき健康サ ポート	音楽療法やユニバーサルスポーツのボッチャを楽しみながら、地域でいきいきと暮らすことを学ぶ機会を提供した。	6月6日～ 2月6日	13	154
柳生地域防災講座	災害時に補助避難所となる市民センターにおいて運営に関わる人材を育成するため、救命講習、防災ランタン・非常食作り、防災レンジャーを楽しく学んだ。	10月18日 11月23日 12月8日	3	50
第15回柳生市民セン ター・児童館まつり	オープニングセレモニーや、市民センター利用サークル等によるステージ発表、作品展示、出店、児童館コーナーを実施し、地域住民の交流の場とした。	9月28日	1	1117
柳生季節のコンサー ト～春・夏・秋・冬～	ブラスアンサンブル、吹奏楽、邦楽コンサート等、音楽を通して地域の交流の場とした。	7月27日 12月22日 1月18日	3	150
柳生・西中田地域懇話 会	市民センターや併設の児童館の役割や主催事業の紹介と、開催に向けての協力を依頼するとともに、要望や意見を収集した。また、地域諸団体が地域情報等の意見交換をすることで地域課題の共有を図った。	6月11日	1	11

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」への支援

「中田西部地区の未来を育むプロジェクト」は、町内会や学校地域支援本部など地域の諸団体で構成され、将来の柳生を担う子ども達の健やかな育ちを支えるため「柳生・西中田お宝マップまち歩き」と「柳生・西中田キャンドルナイト&ミニ Xmas コンサート 2019」のイベントを実施し、多世代での交流を通して魅力ある地域コミュニティの構築に取り組んだ。市民センターは運営に係る助言や活動の場の提供、広報、団体間の連絡調整等の支援を行った。

このプロジェクトは学びの環境づくりを推進する「太白区内地域連携ネットワーク事業」の1事業として継続されたが、中でも「柳生・西中田キャンドルナイト」では平成30年度より連携団体が増え、多数のキャンドルアートを作ることができた。また、参加者の誘導や会場の見回りを防犯協会やPTAが担当するなど、安全・安心なまちづくりにも取り組み、団体の枠組みを越えた協力体制がより強固になっている。

富沢市民センター

〔沿革〕

富沢市民センターは、平成 13 年 11 月、地下鉄南北線富沢駅近くにコミュニティ防災センターを併設して開館した。

当市民センターの位置する富沢地区は、一級河川名取川・ＪＲ東北本線・国道 286 号に囲まれた地域で、中央部を筑川が流れ、かつては富沢・大野田遺跡のある田園地帯であった。地下鉄南北線開業以来、交通の利便性から宅地化が急速に進み、高層マンションと昔ながらの農地が混在する地域に変貌した。当地区は、単身・核家族世帯が多く、住民の転出入の頻度も高い。

当市民センターは、市民が気軽に利用できる共有スペースとして親子室・娯楽室・図書室やラウンジを有し、年間を通し多くの地域住民が来館し、憩いの場や生涯学習の拠点として活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	おりがみボランティア養成講座		
参加者	地域住民	延参加者	87 人
開催日	全 7 回 5 月 17 日（金）～1 月 17 日（金）		
ねらい	転入者が多い地域のなかで、交流の場の提供と、地域への愛着を深めてもらうことを目的に折り紙講座を開催する。複数年事業の 2 年目として、仙台伝統の七夕飾り制作など、折り紙に親しみながらボランティアとして活動できるよう支援する。		
概要・成果	複数年事業の 2 年目となる令和元年度は、1 年目からのメンバーに新メンバーを加え、折り紙ボランティアサークルの立ち上げを目標として開催した。仙台の地域性を活用した仙台伝統七夕飾りや、富沢市民センターまつり展示用の折り紙作品など、共同制作の作業は、仲間づくりにつながった。仙台七夕飾り制作は、仙台の伝統に触れることができ、受講生が仙台七夕まつりに親しむきっかけにもなった。また、富沢市民センターまつり展示作品の制作では、展示作品の内容・作業の手順工程・仕上げなど、様々な案を持ち寄り、協力することにより、新旧メンバーの交流が図られた。今後の折り紙ボランティアの活動に活用できる技術や知識を学ぶ実技講座は、ボランティア活動の意欲が養われる場にもなった。 「おりがみボランティア『和の折り富沢』」というサークルの名称も決定し、3 年目に向けて、折り紙ボランティアサークルとして地域で活動を始めることを目指している。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おはなしの部屋	絵本の読み聞かせや紙芝居、人形劇、うた、親子のふれあい遊び、誕生祝いなどを行う会を開催した。乳幼児親子が気軽に参加できるよう、事前申し込み不要とした。	5 月 8 日～ 2 月 5 日	9	404
●つながる子育て「ホッと in とみざわ」	地域の子育て支援団体が連携して、子育て支援情報を発信するイベント「スマイル広場」と、各団体の特色を生かした親子体操や工作、遊びのブース等を行う「つながる子育てホッと in とみざわ」を開催した。	6 月 12 日 12 月 6 日	2	276
みんな de 防災	家庭や地域での防災意識向上のため、ＡＥＤ講習と、親子対象の防災に役立つ調理実習を行った。	11 月 22 日 12 月 14 日	2	43

《太白区》

とみざわ子どもの広場	地域の子ども達が体験を通してともに学び、交流を深める場として、筑川観察会、科学実験、調理実習、運動あそびを行った。	6月8日 8月9日 11月16日 12月21日	4	106
インリーダー研修会	子ども会活動についての知識や、活動に必要な技能を習得できるように、児童、および子ども会の世話人を対象として講話やレクリエーションゲームの実習を行った。	1月26日	1	33
富沢小学校連携講座 「地域を知って富沢博士になろう！」	富沢小学校と連携し、3年生を対象に、地域の歴史や自然をテーマにした実地学習、町内会活動やこれからのまちづくりについての講話を行った。	7月5日 12月17日 2月6日	3	408
きらやか女性サロン	地域の女性を対象に、日本舞踊を取り入れた軽運動、靴選びとウォーキング、コミュニケーションについての講話、音楽療法、調理実習と交流会を行った。	7月4日～ 12月5日	5	124
富沢シニアクラブ	高齢者が豊かで生きがいのある生活を送れるよう、健康、防災、音楽、文学、館外学習等、興味関心の高まる様々な学習内容で全9回講座を実施した。	5月16日～ 2月20日	9	473
パワフルとみざわネットワーク	町内会、おやじの会、社会学級が、関係団体の相互理解のための情報交換及び企画検討会議を経て、地域交流イベント「ざる川フェスティバル」を実施した。	4月13日～ 11月25日	6	3,129
富沢市民センターまつり	学習成果の発表と地域住民の交流を促進することを目的に、作品展示、ステージ発表、出店、その他イベント等を運営委員会で企画・検討し開催した。	10月6日	1	2,400
富沢市民センター懇話会	地域内の各町内会、諸団体及び市民センター利用サークルの代表者を対象に、地域ニーズや課題を把握して、市民センター事業に反映させることを目的とした懇話会を行った。	7月6日 12月20日	2	25

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「つながる子育て『ホッと in とみざわ』」情報交換会のコーディネート

主催事業の企画検討会議の中で、児童館や民生委員児童委員協議会、のびすく長町南などの子育て支援団体と、太白区役所家庭健康課とを繋ぎ、情報交換の場を作っている。これにより、地域で子育てしている親や子どもたちの状況を共有、把握するとともに、各子育て支援団体の取り組みについて相互に理解を深めることができた。

年々参加する団体が増え、地域での子育てを応援する連携の輪が大きくなっている。令和元年度には発達相談の専門機関との繋がりが生まれ、サポートする内容の幅も広がりつつある。

秋保市民センター・馬場市民センター・湯元市民センター

〔沿革〕

秋保市民センターは、昭和 26 年 4 月「秋保村公民館」が設置されたのが始まりで、昭和 42 年 4 月町制施行に伴い「秋保町公民館」、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「秋保公民館」、平成元年 4 月には「秋保市民センター」と改称された。平成 25 年 5 月には移転改築の上、現在の施設がオープンした。

馬場市民センターは、昭和 52 年 3 月、旧秋保町時代に開設され昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「馬場公民館」、平成元年 4 月に「馬場市民センター」と改称された。平成 29 年度には大規模修繕を実施し、平成 30 年 4 月に再開した。

湯元市民センターは、昭和 53 年 3 月、旧秋保町時代に開設され、昭和 63 年 3 月仙台市と秋保町の合併により「湯元公民館」、平成元年 4 月に「湯元市民センター」と改称され現在に至っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	秋保自然紀行「里山トレッキング」		
参加者	成人	延参加者	80 人
開催日	全 4 回 5 月 22 日（水）、6 月 5 日（水）、11 月 6 日（水）、12 月 4 日（水）		
ねらい	秋保地域には比較的易しく登ることのできる里山が多くあり、植生や秋保地域との歴史的関わり、里山の現状を学ぶ上でとても貴重な地域資源である。しかしながら、登山口や道順は分かりにくいことが多く、その魅力を伝えきれていない部分がある。そこで、里山の魅力を伝えるとともに安全なトレッキングや楽しみ方について学ぶ機会を提供することを目的とする。		
概要・成果	戸神山や二口林道など 4 か所でのトレッキングを実施した。 特に二口林道トレッキングでは、その由来となっている「二口番所跡」も見学することができ、展望台からの雄大な景色とともにトレッキングを楽しむことができた。 それぞれの場所ごと季節ごとの自然を堪能しながら、里山の歴史的・地域的な関わりや植物観察の楽しみ方を学び、地域資源や魅力を再発見する機会となった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
あきう子育て広場	未就学児親子を対象に「3 B 体操」「親子スマホカメラ講座」「親子工作」などを開催し、参加者同士の交流を促進し仲間作りができた。	5 月 23 日 6 月 27 日 7 月 11 日	3	43
あきうサマースクール	「テーブルゲームであそぼう！」（馬場小）、「楽しいお天気教室」（馬場小）、「おもしろサイエンスショー」（秋保小）を実施し、子どもたちが普段の授業では体験できないプログラムを提供した。	8 月 21 日 8 月 22 日 8 月 23 日	3	86
秋保手づくり倶楽部	「磁器皿の絵付け」や和布の手芸、里山で採れる自然素材を使った「あけび蔓のカゴ」や「クリスマスリース」を作成し、参加者同士の交流を深めた。	7 月 12 日 8 月 2 日 9 月 13 日 12 月 6 日	4	56
がんばれ秋保っ子スポーツ大会	秋保地域の小中学生を対象に世代間交流を推進するためのスポーツ大会を開催する予定であったが、大雨により中止した。	【中止】 10 月 19 日	-	-

あきう熟年のひろば	発酵食品について、軽体操、民話、新聞ちぎり絵、落語、防犯クイズ講座、健康づくり講話、シルバー川柳、サクソフォンコンサートを実施した。定期的を実施することで、参加者同士の交流が図られた。	5月16日～ 2月20日	9	332
秋保郷土かるた大会	秋保の風土や伝統、文化、歴史について綴った「秋保郷土かるた」を使用したかるた大会を開催した。「秋保郷土かるた検定」も併せて実施し、秋保地域についての理解がより深まる機会となった。	1月18日	1	69
秋保地域出前講座	各町内会やサロン会へ、生涯学習の機会の提供と介護予防・地域活性化の推進のため開催した。「メッセージボード作り」「苔玉」「笑いは心の万能薬」「男の料理教室」「コンサート」などを行った。	8月1日～ 2月16日	7	167
●地域防災力の向上	補助避難所となる市民センターが町内会及び学校（指定避難所）と連携して、想定避難訓練、炊出し訓練や災害時給水栓立上げなど必要な訓練を行った。	6月9日 6月29日 6月30日 7月14日	4	319
秋保ふるさと文化祭	市民センターで活動しているサークル・団体、地域学校等の学習成果の発表（展示と舞台発表）とイベント広場（フリーマーケット、子どもコーナー、お茶席など）を開催した。	9月28日 9月29日	2	450
秋保ふるさと展示会	秋保市民センターを拠点に活動するサークルの作品（自然を活かしたクラフトや絵画、染め物など）展示会を秋保・里センターにて実施した。	10月3日 10月4日 10月5日	3	400
里山保全市民企画会議	里山の現状を憂慮した地域住民が企画員となり、今後の里山整備に向けて必要なことを話し合い、講座の準備・運営を行った。	7月27日 9月21日 12月21日 2月22日	4	20
秋保検定「やってみっぺ」	平成30年度に引き続き、地域住民を対象として秋保にまつわる問題を作成し模擬検定会を実施した。	6月15日～ 2月16日	5	35
市民企画講座 秋保地区里山保全支援活動	町内会と協力し、野尻地区にて里山の環境整備を実施した。また、安全な作業が出来るよう機械の取り扱いについて学ぶ講座を実施した。	12月3日 2月22日	2	14

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

いってみっぺ秋保（地域資源活用委員会）の活動支援

平成24年度の講座から立ち上がった「いってみっぺ秋保」では、地域資源を活かしたパンフレット作成や「あきう検定」の試行、ガイドボランティアや自主ツアーを行うなど秋保の魅力を発信する活動に積極的に取り組んでいる。パンフレットは令和元年度までで30コースを作成しており、地域情報を発信する媒体として広く浸透し始めている。

市民センターでは、「いってみっぺ秋保」が秋保地域の活性化に向けた活動ができるよう、秋保総合支所と連携しながら定期的に情報交換を行っている。また、市民センターの主催講座において積極的にパンフレットを活用するほか、地域ガイドを依頼するなどして、活動の支援を行っている。

泉区中央市民センター

〔沿革〕

泉区中央市民センターは、昭和22年9月、七北田中学校内に七北田公民館として開設された。昭和43年7月に市名坂字東裏の現在地に移転。平成16年1月には、施設の老朽化と機能拡充の必要性から改築され新館として開館した。今日まで泉区の生涯学習の拠点として、その役割を担ってきている。

本地域は従来の歴史的・文化的要素が残されている七北田地区と急速に発展した泉中央地区を包含し、住民を取り巻く社会環境は大きく変化しつつある。このような状況の中、現代社会に対応した生涯学習事業の展開を図っている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある(地区館)事業〕

事業名	●泉中央ルンルン子育て		
参加者	乳幼児親子	延参加者	273人
開催日	全7回 8月28日(水)～11月15日(金)		
協力者・協力団体	泉区家庭健康課、のびすく泉中央、市名坂児童館、七北田児童センター、泉中央主任児童委員		
ねらい	泉区中央市民センター管内は、核家族の増加や子育て世代の転入出が比較的顕著な地域である。このような地域環境を踏まえ、子育てする中で生じる孤立感や不安感を軽減し、子育て中の保護者同士の交流や、乳幼児の健やかな育ちを支援する。 また、近隣の子育て関係機関と連携することで、地域情報や子育てに関する情報交換を行い、地域における子育て支援ネットワークの充実を図る。		
概要・成果	親子で参加する「親子ピクス」「絵本の読み聞かせ」「わらべうた」「パパ&ママふあんふあんフェスタ(イベント)」、託児付き「アイシングクッキー作り」など、子育て世代に関心の高い内容で実施したことで、参加者が楽しみながら学習する様子が見られた。講座で知り合った参加者同士が情報交換して一緒にサークルに入会した例もあり、講座への参加が子育て世代の交流と仲間づくりにつながり、子育てで生じる不安やストレス解消の一助となった。 また、泉中央地域の子育て機関6団体が連携したことで、参加を希望する乳幼児親子を幅広く受け入れることができたうえ、地域の現状を踏まえ、それぞれの得意分野を生かして講座(イベント)を運営することができた。さらに、講座の打ち合わせや準備等をとおして連携相手と相互理解が深まったことも大きな成果であり、講座終了後の振り返りでは令和2年度の連携事業の継続についても確認することができた。		

〔令和元年度(地区館)事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
元気な泉中央キッズ	仙台市環境局や地域の学校と連携し、環境、文化部体験、読み聞かせ、ジュニアリーダーとゲームやパルーンアート制作、クリスマスリース作りなどの幅広い体験の機会を提供した。	9月28日～12月14日	5	109
歴史講座「いずみ探訪」	七北田と仙台北下との歴史的つながりを学び、実際に歩いて新たな発見と理解を深めた。泉とつながる地域の講話、片平界限・東照宮界限を探訪した。	8月31日 9月10日 9月21日	3	57

泉中央みんなの交流サロン	トーンチャイムの演奏と体験会、ハンドマッサージとストレッチ、寄せ植え、折り紙、福祉施設の慰問等、気軽に参加できる講座やサークルでの体験を通して市民センターを知ってもらう機会とした。	6月4日～ 12月5日	7	73
心も身体もリフレッシュ	脳活、ストレッチ体操、体をほぐす運動、漢方の話、日舞健康体操、薬の正しい知識、太極拳等、地域住民の高齢化に伴い、健康的な身体作りや仲間づくりを目的に実施した。	6月19日～ 2月19日	8	271
老壮大学「泉シニア塾」	高齢者が生き生きと元気に過ごせるよう多様な学びの機会を提供した。歴史、体操、気象、美術、健康、音楽、近代史に関する講座や館外学習を通して仲間づくりや生きがいづくりにつながる場を提供した。	5月15日～ 2月5日	9	552
泉中央減災講座	児童センター・児童館と共催し、子育て世代の保護者が参加しやすい内容の防災講座を提供し、自助・共助の意識を高めてもらうための講話と非常食のおやつ作りを行った。	6月26日 7月19日	2	43
まつりだよ！泉区中央！	実行委員会形式で会議を重ね、市民センター利用団体や小中高校児童生徒の活動の発表、展示、ステージ発表、出店、お茶席、児童生徒の絵画作品展示等の内容で実施した。	10月20日	1	898
いずちゅうコンサート	懇話会で出された専門家の演奏を望む地域の要望に応え、仙台で活躍する歌手や演奏家による夏の歌声コンサート、クラシックコンサート、二胡コンサート、春のファミリーコンサートを実施した。	8月7日 11月16日 1月8日 2月9日	4	212
泉区中央市民センター地域懇話会	第1回目は学校関係者、各団体、町内会関係者などによる意見交換会を、第2回目は市民センター利用団体やサークルなどの関係者による意見交換会を行った。	6月5日 11月22日	2	31
市民企画会議	地域の課題解決に向けた話し合いと実施講座の準備、役割分担、反省会、令和2年度に向けた企画講座の話し合いを実施した。	4月26日～ 9月3日	6	40
市民企画講座「筋力アップ！ロコモ健康セミナー」	ロコモティブシンドロームについての講話、ロコモチェックと予防体操、食事指導の調理実習等を実施した。	6月29日 7月13日	2	32

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「七北田ジュニアリーダーサークルありす」の活動支援

中学生・高校生のボランティアサークル「七北田ジュニアリーダーサークルありす」は毎月1回定例研修会を開催し、地域団体や子ども会からの要請や連絡事項の確認のほか、自主的にメンバーの技術向上を図っている。市民センターでは、地域団体等からの依頼や問合せ等をジュニアリーダーにつなぎ、習得した技術を実践で活用できる場を積極的に提供するなど、ジュニアリーダーの活動を支援している。

小学生対象の講座では、バルーンアート体験の際に子どもたちの制作サポートを行ったことにより、参加者全員が時間内に作品を完成することができ参加者の満足感や達成感を得られたうえ、ジュニアリーダー自身がスキルアップすることができた。また、学びのコミュニティ推進事業「あそびの天国」で自分たちのブースを企画運営し参加者から好評を得たことをきっかけに、ジュニアリーダー活動に興味関心を持った複数の生徒がサークルに入会し、活動の活性化と活動意欲の向上につながった。

根白石市民センター

〔沿革〕

根白石市民センターは、昭和21年11月、根白石小学校内に設置され、昭和23年役場の移転に伴い独立した施設としての活動が始まった。旧泉市で昭和28年に公民館新築促進が決議されてから10年の経過を経て、昭和38年7月、待望の公民館が移転新築された。以来20年余、根白石唯一の社会教育施設として活動を続けてきたが、老朽化により昭和63年4月、根白石字杉下前に新築移転し開館した。館の特色として、299席の移動式観覧席を備えた多目的ホールを有している。

当市民センターは泉区西部に位置し泉ヶ岳を背景にした豊かな自然環境に恵まれている。周辺は田園地帯と近年の開発による住宅地からなり、多様な住民構成の生涯学習の場として、また、スポーツ、コミュニティ、自主学習の場として広く利用されている。

平成28年度に大規模修繕工事を行い、建物の耐久性の向上とともに内外装の一新、各部屋の照明LED化や空調機の更新による省エネ化、トイレの洋式化や外靴のままで入館できるようになった等、利便性が向上した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画会議「かむりの里いきいきプロジェクト」		
参加者	地域団体、地域住民	延参加者	170人
開催日	全9回 6月12日(水)～2月1日(土)		
協力者・協力団体	泉西部地区連合町内会、ふるさと会、根白石商店会、仙台風の会、昔遊びボランティア、根白石小学校、福岡小学校、実沢小学校、根白石中学校、根白石児童館、館児童センター、住吉台児童センター、根白石温水プール、泉西部地区老連、地域内各小学校区子ども会育成会、各小学校PTA		
ねらい	「地域資源の蓄積力」「地域への関心力」を高めていく取り組みとして、若い世代を取り込んで豊かな歴史資源・自然資源・コミュニティ資源を活かした、人々が共に生きる活気のある「まち」づくりを目指す。また、地域の良さを再認識し、その良さを発信し、地域で活躍する人材の育成を目的とする。		
概要・成果	地域住民と地域団体代表6人のメンバーで地域課題について話し合いを重ね、令和元年度は地域資源を生かした取り組みとして、新たに「かむりの里の米と酒」「新堰の白鳥観察会」を実施した。「地元産大豆を使った豆腐づくり」は豆乳づくりが難航し実現しなかったが、「するめ天旗の制作体験」は、区内のホテル利用客の伝統文化体験活動の一つとして組み入れられた。「風揚げフェスタ」は、学校・PTA・育成会などの地域団体が積極的に関わるようになり、地域行事として定着しつつある。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
根白石の正月行事～いっしょに作ろう～	根白石地域に昔から伝わる習わしについて学び、地域の方から指導を受け、しめ縄飾りや小正月行事のだんごさを体験した。	12月7日 1月13日	2	24
あつまれ！元気キッズ	福岡小学校と実沢小学校の放課後に出向き、児童を対象に、楽しい工作「恐竜折り紙」とマジック、ギター演奏会を実施した。	6月5日 6月26日	2	19
4校区合同インリーダー研修会	児童は子ども会行事のプログラム立案の実習を行い、研修を通じて、学校の枠を越えた交流を深めた。世話人は子ども会の運営についての講話と座談会に参加した。	7月20日	1	41

ジュニアリーダーと遊ぼう！	市民センターまつりのイベントとして、魚釣りゲームとバルーンアート実演会を実施した。	11月16日	1	100
凧作り教室	凧作りボランティアが児童館・児童センター・小学校で伝統凧「するめ天旗」作りを指導した。	9月14日～ 11月30日	6	111
小学校社会学級連携事業「かむりの里の魅力探訪」	小学校社会学級と連携し、地域資源である酒粕を使った「酒粕床づくり」を実施した。	9月18日	1	24
さわやか大学	地域の高齢者が健康で生きがいのある社会生活を送るために、年間を通して様々なジャンルの学習の機会を提供した。	5月16日～ 2月29日	10	437
出前講座	交通手段が少なく来館が困難な地域に出向き、講話や軽体操、楽器演奏、演芸鑑賞等の機会を提供した。	7月5日～ 11月23日	6	130
冠のふるさと伝承まつり	小中学生による郷土芸能であるアセ踊り・鹿踊・剣舞・大正踊り・しの笛の発表会を開催した。	11月16日	1	350
ふれあいウォーキング～共助のまち・根白石～	健康増進のウォーキングを徒歩避難訓練とし、炊き出しなどの防災訓練も行い、防災への意識を高め、住民の交流を図った。	11月10日 11月30日	2	133
根白石市民センターまつり	市民センター利用団体やサークルに日頃の学習成果を発表する機会と地域住民・関係団体との交流の場を提供した。作品展示・ステージ発表・体験コーナー・出店コーナー等。	11月16日	1	1,000
地域懇話会	地域で活動している町内会や団体、市民センターを利用している地域住民が広く意見を交換し、地域課題を共有し解決策を探った。また、市民センターの活動への意見を吸い上げて、新たな事業の展開に繋げた。	4月17日 11月28日	2	41
市民企画講座「かむりの里いきいきプロジェクト」	市民企画会議で企画した根白石の地域資源を活かした講座「かむりの里の米と酒」「わら馬づくり」「凧揚げフェスタ」「白鳥観察会」を実施した。	6月21日～ 2月1日	4	261
移動天文台～ベガ号で星空を観よう～	仙台市天文台と共催で移動天文台ベガ号による天体観望会を実施した。	2月28日	1	23

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「根白石ガイドボランティア」の活動支援

根白石ガイドボランティアは、定期的に学習会を実施するとともに、地域内外からの様々な依頼に応じて根白石のガイドを行いながら、新規メンバーの獲得や育成を図っている。また、歴史について知識を深めるだけでなく、活動のさらなる自立や活性化を目指すために勉強を重ねている。

そこで、市民センターではボランティアガイド活動に関するさまざまな情報を提供したり、相談に応じたりするなど、活動を支援している。

南光台市民センター

〔沿革〕

南光台市民センターは、昭和 52 年 4 月、「南光台公民館」として開館し、昭和 62 年 8 月に泉図書館南光台分室が併設された。その後、平成 2 年 4 月に「南光台市民センター」と改称され、地域住民の交流の場・生涯学習の場として、その役割を担ってきた。

平成 23 年 3 月の東日本大震災により建物が全壊したが、元の場所に鉄筋コンクリート造 2 階建管理棟及び多目的ホールが新築され、平成 27 年 3 月 28 日に再開館した。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	子ども参画型社会創造支援事業「南光台をもっと元気に委員会」		
参加者	小学生	延参加者	101 名
開催日	全 14 回 6 月 4 日（火）～2 月 29 日（土）		
協力者・協力団体	南光台小学校、南光台中学校、南光台東小学校、南光台東中学校、南光台校区子ども会育成会、南光台おやじの会		
ねらい	近年、社会・地域の要請として青少年が参画する事業開設への期待がある。担当エリア内の小中学校から集まった児童生徒を企画委員として、まず、南光台地区のよいところ、魅力、課題等を分析し、地域の発展と活性化につながる活動を子どもたちの視点で企画、実施していくことで地域の未来を担う次世代を育てる。		
概要・成果	市民センターの募集に応募してきた地域の小学生 8 名を企画員に、南光台地区をさらに元気にするための企画を目指し、13 回の話し合いを経て「南光台ウォークラリー」を企画した。南光台地区内の名所旧跡、商店街振興組合加盟の商店、交番に 7 か所のチェックポイントを設定し、参加者には各ポイントに配置したキーワードを集めながら歩いてもらった。9 か月間にわたり企画・運営を行ったことで企画員一人ひとりが成長したことが大きな成果であり、今後、地域への貢献が期待できる。加えて、以下のような成果があった。 ・平成 30 年度とは異なり、ゼロスタートからの企画実施であったが、予定した以上の回数の検討を重ね、ウォークラリーの開催にこぎつけた。その過程での苦労が、大変貴重な経験となった。 ・スタンプラリー実施にあたり、商店への協力要請の際に企画員自身が出向いてお願いするなど、地域との直接的なつながりを持つことができた。 ・平成 30 年度の 4 名から、倍増の 8 名の企画員で進めることができ、様々な視点、考え方から意見が出され、中身の濃い話し合いができた。 ・地域団体の皆さん、学校の先生方、商店の皆さんの理解と協力を手厚くいただき、企画員が考えた内容を実現することができた。 ・令和 2 年 1 月の「市民参画型事業成果報告会」に参加させてもらうことができ、他地域の小中学生の取り組みを知るなど、自分たちの発表に加えて学ぶものがあった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのリフレッシュ応援講座	子育て中の保護者が交流を図りながら、育児中のリフレッシュ方法や育児についての悩みを解消できるよう、子どもの歯の講話、親子ピクス、子どものおやつ作り、アロマの虫よけスプレー作りを実施した。	6 月 13 日～ 8 月 8 日	5	49
こどもチャレンジクラブ	ジュニアリーダーとあそぼう、アイス作り、親子参加の移動天文台ベガ号で星空観察、調理実習、タイルクラフトで時計作りを実施した。	4 月 28 日～ 12 月 14 日	7	259
南光台ウォークラリー	南光台をもっと元気に委員会の企画講座。地域内の 7 か所にチェックポイントを設定し、時間内に周り、キーワードに答える内容。地元の商店 4 店舗はじめ多くの協力を得て実施した。	2 月 29 日	1	35

《泉区》

ミドルエイジからの地域デビュー	南光台おやじの会の定例会議を月1回行うとともに、おやじの会主催イベントとして、こども相撲大会を実施した。また、市民センターまつりへの出店企画を行い、参加した。	4月20日～ 2月15日	14	171
みんなの学びカフェ	誰もが気軽に集える場となるよう、毎回違う分野のものづくりや体験型の学びの講座を実施。①折り紙②川柳③がんづきづくり④ヒップホップ。	7月26日 8月30日 9月27日 10月25日	4	52
南光台学院	高齢者が社会の変化に対応し、心豊かに暮らせるよう、仙台の歴史や健康、異常気象などの時事問題等、身近なテーマを学んだ。	4月19日～ 2月21日	10	719
市民センターを楽しもう	地域の集会所やコミュニティ・センターを会場に出前講座を開催した。落語会、健康講話と脳トレ・筋トレを実施した。	7月13日 2月14日 2月28日	3	121
続・ぶらり南光台	地域の歴史資源や町の魅力を探るため、地域の成り立ちや造成についての講話を1回、史跡や地域の店等を巡る散策を3回実施した。	10月26日 11月2日 11月9日 11月23日	4	27
南光台市民センターまつり	南光台地域で活動しているサークルや、個人の方たちの作品展示、ステージ発表、南光台・南光台東中学校吹奏楽合同の演奏、バザーなどの出店、健康測定などを実施した。2日間開催予定だったが、台風19号の影響により2日目は中止した。	10月12日	1	800
●南光台地域防災講座	南光台中学校3年生を対象とした防災講座「レスキュー講座」、地域住民を対象とした「サバ飯講座」を主に実施した。その他として地域の防災訓練に参加した。	6月29日 9月25日 11月3日 2月1日	4	1,220
南光台歴史資料館	南光台団地の歴史を後世に残すため、話し合い、共通理解を図りながら、南光台団地の開発当時から現在にいたるまでの写真を地域から提供してもらいデータベース化を進めた。	7月3日～ 2月5日	7	24
南光台市民センター懇談会	町内会及び地域団体、市民センター利用サークルへの事業説明と情報共有の場を設け、地域課題や地域ニーズを把握する機会とした。	7月9日 7月12日	2	44

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「南光台おやじの会」の活動支援

「南光台おやじの会」は、平成30年度の複数年事業「ミドルエイジからの地域デビュー」から発足した南光台地域で活動するボランティア団体である。令和元年度は徐々に活動の範囲を拡大し、小学校や町内会からの依頼も増加した。中でも南光台・八乙女両小学校で行われた昔あそびの授業では、昔あそびの会「わらすこの里」のサポートをおやじの会が担当し、市民センターは小学校、昔あそびの会、おやじの会の三者の間の連絡・調整を行った。また、その他にも町内の夏祭りでの出店や警備等、様々な活動の支援をすることで、おやじの会の活躍の場を増やすことができた。

おやじの会のメンバーも結成当初の3名から7名に増加し、地域での存在感も日に日に増している。今後は、おやじの会が独立し自力で活動していけるよう支援を継続していきたい。

黒松市民センター

〔沿革〕

黒松市民センターは、昭和 47 年 4 月に開館した八乙女公民館を前身とし、平成 4 年 10 月に現在地に新築移転され開館した。

当市民センターは、地域における生涯学習及びスポーツやサークル活動などの交流の場として活用されている。また、地下鉄南北線黒松駅に隣接しており、交通の利便性が良いことから、利用者は広域にわたっている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	いんどり工房		
参加者	どなたでも	延参加者	64 人
開催日	全 6 回 7 月 17 日（水）～ 1 月 21 日（火）		
ねらい	手芸や工芸などの学びを通して、誰でも気軽に集える場を提供することによって、顔見知りから始まる仲間づくりを支援する。また、学びを活用して地域で活躍できる人材の育成につなげる。		
概要・成果	ものの作りを通して、誰でも気軽に集える場・顔見知りから始まる仲間づくりの場を目指し、ふろしきの使い方・オイルパステル画・木工細工・折り紙・作品お披露目会を行った。どなたでも参加しやすいように、全講座を事前申し込み不要・参加費無料とした。継続的に開催することにより、連続して受講する参加者、地域で誘い合って受講する参加者の増加が見受けられた。また、第 3 回と第 5 回では、手芸や工芸が得意で、黒松市民センターの老壮大学（黒松寿大学）の運営委員でもある 2 人の地域の方が講師デビューを果たした。講座が終了した後も参加した方の活動への意欲が見受けられるため、今後に続く活動も期待できる。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
ママのほっとカフェ	子育て中の母親を対象に、孤立させないことを目的に「怒鳴らない子育て講習 3 回」「ゴスペル体験」「ハーバリウム制作」「みそ玉づくり（託児付）」など、楽しく集い子育ての様々な悩みを解消する場を提供した。	10 月 11 日～ 2 月 19 日	6	43
ちびっこフェスタ	乳幼児親子がプラズマカーや工作・折り紙コーナー、読み聞かせ、布おもちゃ等で気軽に遊んだり、育児・栄養・歯科相談ができるフェスタを開催した。最後は会場にいる全員で踊って締めくくった。	11 月 7 日	1	215
わくわく子どもの時間	学校や家庭では取り組めない体験学習の場を提供することを目的として、「ジュニアリーダーとあそぼう！」「ボンボン船をつくろう！」「調理実習：クリスマスメニュー」の 3 コマを実施した。	6 月 15 日 7 月 25 日 12 月 7 日	3	54
黒松寿大学	60 歳以上の方を対象に、月に 1 回定期的に、「音楽鑑賞」「ボッチャ体験」「オイルパステル体験」「館外学習」「昭和歌謡史」「健康講座」「なつかしの昭和の仙台」「異常気象」「歴史」など多様なジャンルについて学ぶ機会を提供した。	5 月 16 日～ 2 月 20 日	9	522

元気アップ生活 ～ボッチャで健康～	気軽に練習ができるボッチャカフェとチーム戦のボッチャ大会を行い、スポーツを通して地域での仲間づくりや健康づくりができる場を提供した。	6月27日 8月29日 10月31日	3	72
地域防災講座	地域の町内会等が自ら実施主体となり防災訓練ができるよう、「防災想像ゲーム（D I G）」や「避難所運営ゲーム（H U G）」の学びの場を提供し、地域防災力向上と人材育成を図った。	6月8日 7月6日	2	38
真美沢公園元気プロジェクト	地域の学校等と協力し、公園のどんぐりから育苗し蒲生地区に植樹した。P R イベント（桜まつり、自然観察会、コンサート）、環境整備（草刈、花植え）、定例会の実施と真美沢の歴史冊子の作成に取り組んだ。	4月13日～ 2月15日	14	533
2019年 黒松市民センター・黒松児童館まつり	黒松市民センターと黒松児童館を拠点に活動している団体やサークルに、ステージ発表や作品展示で、日頃の学びや活動の成果を発表する場を提供した。	9月28日	1	1,300
地域懇話会	管内の町内会や社会福祉協議会、学校関係団体の代表者が集まる場を設けて、課題の共有と解決に向けた意見交換・情報交換を行い、市民センター事業に反映させた。	7月2日 11月22日	2	10
地域の買い物難民を考える市民企画会議	初回に「燕沢地区の乗り合い交通」「館地区の移動販売車」の先進事例を学ぶ会を開催。2回目以降の企画会議により、歩道の手すりの整備や設置の提案、バス路線案の考案、中間報告書の作成を行なった。	9月11日～ 3月3日	8	76

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

地域防災に関わるコーディネート業務

平成 30 年度まで行ってきた「防災プロジェクト」は地域住民の参加が年々減少し、中学生がメインの防災訓練になってきていたため、新たに「地域防災講座」として町内会自らが防災訓練で活用できる内容をゲームを通して参加者に体験してもらった。その結果、ゲームを通して地域防災についての認識を共有でき、単位町内会ごとに内容を持ち帰ることで地域住民への防災意識の浸透に役立てることができた。

また、「黒松憩いの家」を会場に、平成 30 年度まで主催事業「わんぱく親子農園」を実施していたが、老人会と地域の親子が自力で活動できるようコーディネートしたことで、自主サークルとして活動が始められることにつながった。

将監市民センター

〔沿革〕

将監市民センターは、昭和 47 年 11 月、将監団地の開発・発展を背景に地域住民の交流の場として開館した「将監会館」が始まりで、昭和 53 年 4 月、新たに地域生涯学習の拠点施設として名称を「将監公民館」に改め、昭和 54 年 6 月には研修室棟も竣工し施設の拡充が図られた。その後、仙台市との合併に伴い、平成元年 4 月から「将監公民館・将監市民センター」となり、翌年 4 月には「将監市民センター」と改称された。

平成 3 年度には、施設の大規模な改築が行われ、平成 4 年 4 月に再開し現在に至っている。当市民センターは、軽スポーツ活動が可能なホールを有し、多くの人々に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	みんなの居場所をつくろう		
参加者	将監地域にお住まいの方	延参加者	405 人
開催日	全 9 回 5 月 17 日（金）～2 月 28 日（金）		
協力者・協力団体	将監中央町内会、将監地区社会福祉協議会、将監地域包括支援センター		
ねらい	将監地域は入居開始から 50 年を迎え、高齢化が進む一方で地下鉄泉中央駅から近いという立地の良さや建て替えにより新規住民も増えている。高齢者が住み慣れた場所でイキイキと暮らしている一方で住民同士のつながりが希薄という一面もあり、地域団体やサークル団体では後継者不足の問題を抱えている。 そこで子どもから高齢者まで誰でも参加できる場を作ることで、地域内の交流を図り、孤立した人や世帯を作らないようにすると共に、地域団体の後継者の育成を目指す。		
概要・成果	地域でアクティブに活動しているシニアたち約 20 名が企画員となり、「であう」「つどう」「つながる」を合言葉に、地域交流をめざしたイベントやカフェを企画・運営している。令和元年度は、「夏のつどい」「居場所カフェ」「市民センターまつり居場所カフェ」「新春お茶会」など地域交流イベントやカフェの企画運営を行い、それぞれ多くの参加者でにぎわった。 特に、今回初めて取り組んだ「つどい」をテーマとしたカフェ「新春お茶会」は「茶道に触れることができた」「和の雰囲気良かった」など好評であった。企画員からは次回に向けてアイデアが続出し、生きがいに繋がっている。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子どもチャレンジ	「将監沼ウォークラリー」「うきうきクッキング」「新聞ちぎり絵」「ズンパダンス」「お抹茶体験」といった学校では体験出来ない内容で実施し、学校、学年を越えて地域の子ども達が体験した。	6 月 1 日～ 7 月 31 日	5	89
将監寿大学	軽体操・健康講話・コンサート・館外学習などを実施した。また、受講生による運営委員会を組織し、「お楽しみ会」「企画講座」を企画・運営した。	5 月 17 日～ 2 月 21 日	9	486
みんななかよくグラウンドゴルフ大会	地域の児童館 3 館と共催で、地域資源である「将監ふれあい公園」を活用し、世代間交流が図れるよう会議を経て企画。地域住民や高校生ボランティアの協力のもとグラウンドゴルフ大会を実施した。	6 月 11 日 9 月 3 日 9 月 14 日 9 月 18 日	4	83

将監地域防災講座 ～拡げ、つなげ防災の 輪～	将監ＳＢＬ会と共に防災の知識を高める講座を実施した。また、避難所運営委員会・町内会役員及び将監ＳＢＬ会が一堂に会し、講話や防災ゲームを通して避難所運営の基本的な認識の統一を図った。	12月14日 2月8日	2	129
将監和みサロン	市民センターから遠い地域の町内会に、「ミニコンサートと交流会」を出前講座の形で実施した。大正琴やトーンチャイムによる親しみやすい音楽を通して、地域の住民同士が交流した。	6月25日 11月21日 11月26日 12月7日	4	162
将監「ふるさと」づくりプロジェクト～将監沼を楽しもう～	将監沼の自然の中でカブトムシを育てる試みや将監小学校と共催で沼探検を実施。また将監東中学校と連携し地域清掃で回収した落ち葉を養殖床の整備に活用し沼の環境づくりにも役立てた。	5月18日～ 11月16日	5	160
将監ふれあいコンサート	「将監沼の自然」とふれあいを育む会と将監地区社会福祉協議会との共催。令和元年度は宮城大学管弦楽団・MYU杜の混声合唱団による演奏。終わりに「四季の将監沼」を全員合唱し、参加型のコンサートとなった。	11月10日	1	300
将監市民センターまつり	市民センター利用団体、サークル及び地域の諸団体が、日ごろの学習成果や活動内容を発表した。作品・活動展示、ステージ発表、体験、出店等を行った。	10月5日 10月6日	2	2,500
将監「みんなのサロン」コンサート	市民センターで活動しているサークル（将監ハーモニカ愛好会、クール・ボーテ）による「みんなのサロン」において、幅広い世代が気軽に集えるミニコンサートを開催した。	8月27日 12月11日	2	101
将監地域懇談会	地域活動団体、市民センター利用団体及び将監地域の小・中学校関係者に対し、市民センターの事業の概要を説明するとともに、地域及び団体が抱える課題の把握及び情報交換を行った。	6月20日 10月16日 1月25日	3	38

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「将監ＳＢＬ（仙台地域防災リーダー）会」の活動支援

将監ＳＢＬ会は将監地域で組織化されたＳＢＬである。会員は毎年防災・減災に関する研修等に参加し、自らの知識や技能の向上を図っており、地域の防災・減災の中心的な役割を担っているが、その活動は地域住民に対して十分に知られていない。

市民センターでは将監地域防災講座を開催し、ＳＢＬ会員は防災講話やサバ飯づくりなどの講師を担ったほか、会場準備やグループワークのリーダーとして携わった。

このように、ＳＢＬ会へ活動の場を提供したことで、組織の活性化を促すとともに、地域住民にその存在と活動を周知することができた。

加茂市民センター

〔沿革〕

加茂市民センターは、昭和 58 年 4 月、加茂公民館として開館した後、仙台市と泉市の合併や公民館と市民センターの併設を経て、平成 2 年に現施設名に改称された。平成 10 年には併設されていた加茂体育館が編入され、現在に至っている。開館当時は長命ヶ丘・泉中山の区域まで対象としていたが、平成 5 年 4 月の長命ヶ丘市民センター開館に伴い、現在は加茂・虹の丘・上谷刈・みずほ台を対象としている。

当市民センター周辺地区は、賀茂神社や古内志摩の墓、中世の館跡である長命館公園などが点在しているほか、七北田川や丸田沢堤・三共堤がある水の森公園などの自然環境にも恵まれている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	まるごとチャレンジキッズ		
参加者	小学生	延参加者	148 人
開催日	全 6 回 6 月 15 日(土)～2 月 29 日(土)		
協力者・協力団体	食育ボランティアサークルエプロンの会		
ねらい	学校や学年が異なる児童が互いに交流する場が少ないため、学校や学年の枠を越え、加茂小学校と虹の丘小学校の児童たちが同じテーマに取り組み、交流し、互いに学びを深め合う事を目的として、普段学校や家庭ではできないような体験の場を提供する。また、ジュニリーダーと一緒にを行うプログラムを取り入れ交流を行うことで、中学校生活をイメージしやすくするとともに、ジュニアリーダーの活動を知る機会とする。		
概要・成果	加茂児童センター・虹の丘児童センターと連携し、小学生を対象にフラワーアレンジメント、段ボール大砲を使った科学実験、クリスマス交流会、16 ミリフィルム映写機による映画会、調理実習（2 回）の計 6 回の講座を実施し、子どもたちに様々な体験と交流の場を提供した。 特にクリスマス交流会は、2 つの異なる小学校から同じ中学校へ入学する児童たちが互いに触れ合い交流することで、スムーズに中学校生活をスタートできるよう、加茂児童センター・虹の丘児童センター・加茂市民センターの 3 館連携で取り組んだ。講座にはジュニアリーダーにも加わってもらい、児童達と一緒にゲームを行ったほか、中学校生活について話をしてもらった。児童から寄せられたアンケートには「中学校生活についてイメージできて良かった」「違う小学校の子と友達になれて良かった」などの回答があり、主催者側としても手ごたえを感じた。 また、上映会では予想を超えた参加があり、16 ミリフィルム映写機による上映という切り口が子どもたちにとっては珍しく新鮮だったようだ。これらの様々な体験や学びや交流を通し、子どもたちの社会性やコミュニケーション力を育むことができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
加茂すくすく子育てひろば	乳幼児親子が気軽に参加できる「リトミック」や「フラワーバイキング」講座を実施した。児童センターから離れたエリアには出前講座を行い、同世代親子が広く交流しリフレッシュできる環境づくりを行った。	7 月 11 日 9 月 3 日 12 月 3 日	3	70
市民企画講座「エンジョイ加茂ン」	「自然観察会」「地域探訪会」「男前料理」の 3 回を実施し、参加者に身近な自然や歴史など魅力ある地域資源を紹介した。調理講座では、男性同士が料理を介し交流の活性化を図った。	7 月 13 日 11 月 14 日 1 月 25 日	3	58

ワイワイ若がり塾	健康講話・朗読劇観賞・音楽と軽体操・歴史講話・宮城県警庁舎見学・音楽療法・コンサートと交流会・住まいの安全講話・お笑いの講話を実施し、高齢者向けの生涯学習の提供と交流を行った。	5月16日～ 2月20日	9	543
寄り道サロン	泉中央南市営住宅（復興公営住宅）男性入居者を対象にそば打ち体験を2回実施した。また、主に虹の丘・みずほ台地域住民を対象としてコンサートを実施した。	9月11日 9月18日 2月2日	3	86
ハロウィンがやってきた	小学生が高齢者宅を訪問しながらハロウィンパレードを実施し、訪問先で交流を図った。	10月5日	1	29
災害から身を守るために	防災学習の一環として、簡易トイレ組立、要支援者の担架搬送等の訓練、救急救命、応急手当法講習会、HUG－S（避難所運営ゲーム）等を実施した。	6月5日 6月16日 12月7日	3	207
歌声ひびくまち	発声方法や歌う姿勢などの基礎学習と、成果を活かして地域の福祉施設において交流コンサートを実施した。	6月28日～ 1月24日	9	227
加茂市民センターまつり	サークル・地域団体の活動紹介や作品展示、ステージ発表、子どもの広場、体験コーナー、イベントコーナー、お楽しみ抽選会を実施。学習成果の発表の場を提供するとともに、地域住民の交流を図った。	10月19日 10月20日	2	1,050
地域懇談会	市民センター運営や地域づくりに活かしていくために、地域団体や地域の方と情報や意見の交換を行うとともに、市民センターに対する要望・意見等をうかがった。	2月22日 2月28日	2	34
市民企画会議「エンジョイ加茂ン」	「加茂地域の魅力の再発見」をテーマに会議を行い、実施講座では企画員が案内役になり地域の自然や歴史を受講者に紹介した。また記録した写真を中心に講座通信を作成し、情報発信にも努めた。	5月23日～ 2月27日	11	45

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「泉中央南・上谷刈地区連絡会」の活動支援

加茂市民センターが参加している「泉中央南・上谷刈地区連絡会」は、泉区家庭健康課ならびに近隣福祉施設等の職員が集まり、地域課題の共有と情報交換を目的としている。この連絡会の中で泉中央南市営住宅の男性入居者の地域行事への参加率が低く、地域との関わりが希薄であることが地域課題として挙げられた。この課題解決のため泉中央南市営住宅男性入居者を対象に、地域と関わるきっかけづくりを目的とした講座を企画・実施する「男性向け講座ワーキンググループ」が立ち上がった。平成30年度に引き続き、加茂市民センターでは、当センターを中心に活動している「青葉手打ちそば加茂同好会」のメンバーを講師として紹介し、「そば打ち体験会～俺のそば（蕎麦）にこないか～」（9月に2回実施）の開催を支援した。前年度より多くの参加が得られ、住民間の交流を図ることができた。

高森市民センター

〔沿革〕

高森市民センターは、地域住民の生涯学習活動の中心的施設として、平成元年４月「高森公民館」として開館した。その後、機構改革に伴い「高森市民センター」と改称された。

高森地区は、昭和４０年代後期から、民間企業によって開発された地域で、閑静な住宅地のほか、高森東公園や高森西公園など豊富な緑地が残され、自然と調和した美しい街区が特徴的な地域である。

地域では町内会や地域ボランティア団体が中心となり、四季を通じたイベント等を行い、地域活性化の推進に取り組んでいる。その中で、当市民センターは、地域への愛着心を育む交流の場として、多くの地域住民に利用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	ウェルカム世代間交流		
参加者	地域住民	延参加者	117 人
開催日	全１回 11月30日（土）		
協力者・協力団体	高森地区社会福祉協議会、高森東地区社会福祉協議会、高森地域包括支援センター、高森児童センター、高森東児童センター、高森春秋会、高森東楽寿会、子ども会育成会、高森東ふるさとづくりの会、高森学童農園支援ボランティア、高森卓球愛好会、高森男の台所サークル、地域ボランティア有志、高森東小学校すこボラ隊		
ねらい	高森・高森東両地区の社会福祉協議会と市民センターが協力して交流会を開催し、お互いの地区を知るきっかけを作り、両地区間の交流を図る。また、異なる世代が気軽に集える催しを開催し、高森地区全体の活性化につなげる。		
概要・成果	高森地区社会福祉協議会、高森東社会福祉協議会の他に 12 団体の協力を得て実施した。 《内容》 第１部：オープニングは地域の小学生の合唱と高森地域包括支援センターのロコモ体操。 第２部：老人会や育成会、卓球サークル、児童センター、地域のボランティア等、協力団体が様々な工作やニュースポーツ、遊びのコーナーを作り、参加者はスタンプラリー形式でそれぞれのコーナーを回った。 第３部：交流を深めるために食事会を開催した。「高森男の台所」サークルのみなさんと地域ボランティアの方がカレーを作ってふるまった。 《成果》 大人と子どもで一つのチームとしたことで自然に世代間交流につながり、協力団体が増えたことで参加者も増えた。コーナーの内容がバラエティに富んでおり、参加者が協力しながら楽しんで回ることができた。また、食事会を通して世代間の交流をより一層図ることができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
高森地域子育て支援講座	高森児童センター、高森東児童センターと連携し、「リフレッシュ！ヨガ」「スタンプラリー」「童謡コンサート」を行った。	6月26日 11月30日 1月24日	3	188
インリーダー研修会	児童は行事プログラムの作成と発表、保護者は子ども会活動と世話人の役割について学び、全体会ではジュニアリーダー主導のレクリエーションを行った。	11月16日	1	45

高森きつずチャレンジ	高森地区・高森東地区のほか、高森地域以外の小学生も参加してクリスマスリース作りを行い、交流を深めた。	12月7日	1	9
高森野鳥の森を育てよう	高森小学校、高森東小学校の児童を対象に、春と冬に野鳥観察会を開催し、秋に地域ボランティアや中学生と一緒に作った巣箱を設置した。	4月24日～ 2月10日	7	410
高森塾（老壮大学）	「終活」「心臓病と血管病」「地名」についての講話や「健康体操」の実技、「認知症456（すごろく）」や公開講座「オールディーズコンサート」等を行った。	5月24日～ 2月21日	9	474
●みんなで学ぶ地域防災	高森東連合町内会と泉区役所、泉消防署等と連携し「泉区総合防災訓練」を実施したほか、高森小、高森東小の児童を対象に、防災をテーマとした「クロスロードゲーム」の授業を行った。	10月5日 10月18日 12月19日 1月15日	4	946
高森市民センターまつり	地域住民やサークル、ボランティア団体等で組織した実行委員会を中心に協議し、ステージ発表、展示発表、イベント・出店などを行った。	9月21日 9月22日	2	1,650
高森絆コンサート	高森東公園音楽広場・市民センターホールを会場に、管内の児童や園児、音楽サークルや地域の音楽家による合唱・演奏、アマチュアバンドによるコンサートを行った。	7月4日 11月6日 12月14日	3	617
地域でふれあい健康づくり	高森地域包括支援センター、高森・高森東両児童センターと連携し、ニュースポーツや昔あそび、卓球、体力測定等を通して高齢者と子供達が一緒に交流しふれあう講座を開催した。	11月30日	1	117
高森地域懇談会	地域の関係各所や講座参加者と、地域の課題や活性化などについて意見交換を行った。	6月21日 12月13日 2月8日	3	19
市民企画会議「魅力あふれる高森をめざして」	高森地域の魅力である「安心安全な暮らし」をテーマに、企画員が地域課題やニーズを探り、課題解決に向けた講座を企画した。	6月27日～ 2月15日	8	32
市民企画講座「安心・安全～そしてみんなの幸せ～」	「安心・安全」をテーマに「食の安全」「身の安全」の観点から、身近な危険から身を守る方法について学ぶ講座を開催した。	2月8日 2月15日	2	62

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

「高森学童農園支援ボランティア」の活動支援

高森市民センターのボランティア養成講座から立ち上がった「高森学童農園支援ボランティア」は、市民センター主催の学座や自主活動で得た知識をもとに管内の小学校や保育園の学童農園で、「畑の先生」として地域の子供達への学びを支える活動を行っている。市民センターは、学校とボランティアとの連絡調整や、活動の場の提供といった支援を行っている。

松陵市民センター

〔沿革〕

松陵市民センターは、平成 2 年、泉区の北東に位置する松陵ニュータウンの住宅地に開館した。松陵・永和台・歩坂町・山の寺・向陽台・明石南の 6 つの町を担当エリアとし、県民の森をはじめ、豊かな自然と緑に恵まれた地域に立地している。子どもの減少により、松陵地区では平成 25 年に 2 つの小学校が統合されるなど全般的に少子高齢化が進んでいる地域であるが、当市民センターは地域における生涯学習の拠点として市民に親しまれる事業を展開し、地域コミュニティづくり、交流の場として地域住民に広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	第 28 回松陵ふれあいコンサート		
参加者	地域住民	延参加者	400 人
開催日	全 1 回 10 月 27 日(日)		
協力者・協力団体	松陵中学校、泉松陵小学校、向陽台小学校、泉松陵高校、東北学院榴ヶ岡高校、松陵中学校区地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会、松陵中学校 P T A、泉松陵小学校 P T A、向陽台小学校ひまわり吹奏楽団保護者会、泉地区交通安全協会泉支部松陵分会		
ねらい	小学生から大人までが演奏や運営に参加することで、異世代間交流や地域団体との交流を図り、さらに地域の方々に音楽の素晴らしさを知っていただく機会を提供するとともに、地域活性化の一助とする。 また、コンサートを通して交流することで、子どもたちの心身の健やかな成長を育む機会とする。		
概要・成果	松陵ふれあいコンサートは 3 部構成で、第 1 部（中・高校生から社会人までの小合同演奏）、第 2 部（小学生から高齢者までによる合唱）、第 3 部（小学生から社会人までの総勢約 200 人以上による大合同演奏と合唱）の内容で実施し、小学生から大人までの演奏者が演奏することが特徴のコンサートで、令和元年度で 28 回目を迎えた。松陵ふれあいコンサートは、参加者だけでなく多くの協力団体に支えられて地域の文化的行事として長く続いてきた。この事業をきっかけに出演団体が小学校に合唱の指導に出向いたり、吹奏楽の合同練習では直接小中学生の指導をしたりすることで、地域の子どもの演奏技術の向上にもつながり、音楽教育にも貢献している。 令和元年度は、初めて宮城県立小松島支援学校松陵校を会場として開催した。合唱の部門において、支援学校に通学している生徒たちがダンスで参加するなど、地域に向けて、開校したばかりの支援学校の存在を知ってもらう機会となった。 地域の住民が気軽に足を運べるコンサートとして、地域交流の場となり、地域活性化へと繋がっている。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
わくわく元気広場	向陽台児童館・松陵児童センター・鶴が丘児童センターとの 4 館連携で、乳幼児親子を対象に「ひろがれ！スマイルん」を実施した。	12 月 12 日	1	85
親子で一緒につくろう	小中学生親子を対象に、1 回目は『家ライト工作教室』、2 回目は仙台市天文台との共催で『移動天文車ベガ号がやってくる！』を実施した。	12 月 14 日 12 月 20 日	2	38
子どもゼミナール	小学生を対象に、1 回目は『サイエンスショー＆風船ロケットを作って飛ばそう！』、2 回目は『クリスマスリースをつくろう！』を実施した。	7 月 24 日 11 月 30 日	2	54

ゆったり学びカフェ	「ハーブの楽しみ」「おうち和菓子」「あま酒作りと発酵食品のお話」を実施し、様々なジャンルの学習の機会を提供した。	5月29日～ 2月29日	8	170
みんなで創る紙芝居講座	受講者一人一人が紙芝居を創作しながら、紙芝居の活用事例を学び、地域にあるデイサービスに出向きオリジナルの紙芝居を実演した。また、地域住民に向けて平成30年度と令和元年度の作品の実演会を開催した。	5月30日～ 2月27日	10	33
いきいき健康講座	高齢者を対象に①なつかしふるさと昭和あのこと②③④軽体操実技⑤脳トレ・筋トレ⑥童謡⑦健康講話⑧スポーツ吹き矢体験⑨津軽三味線コンサートを実施した。	5月17日～ 2月14日	9	243
らくらく教養講座	①なつかしふるさと昭和あのこと②すずめ踊りの歴史③お墓事情④コミュニケーション⑤文化財から学ぶ仙台的の歴史⑥童謡⑦健康講話⑧うたごえサロン⑨津軽三味線コンサートを実施した。	5月17日～ 2月14日	9	282
松陵ふれあい合唱	松陵ふれあいコンサートで歌う5曲の練習を高校音楽部生徒のサポートにより実施するとともに、泉松陵小への歌の出前授業を実施した。最終回はリハーサル実施及び本番に出演した。	9月7日～ 10月27日	8	215
★●みんなの力で地域防災・減災	向陽台連合町内会、仙台市・区の担当課と共催で実施した。災害が発生した場合、地域の住民の方々がどのように避難所を運営していくかを考える機会を提供した。	6月20日 8月24日	2	75
第30回松陵市民センターまつり	実行委員会と松陵学区連合町内会が共催でまつりを企画し、地域団体や住民、市民センター利用サークルによるステージ及び展示発表、出店を実施した。また、地域内の中高生がゲスト演奏や運営ボランティアで参加した。	11月10日	1	1,900
地域懇談会	市民センターの事業や施設運営について説明を行い、今後の運営についての理解を得た。また、町内会や諸団体等関係者の方と地域の課題・要望等についての情報交換を行った。	6月1日 1月12日	2	52
市民企画講座「交流ひろば～遊ぶ・楽しむ・ひろげようみんなの縁」	市民企画会議を経て地域交流を目的にした講座を実施した。内容は地域人材を活用した手作りワークショップやカフェコーナーの開設、レコード鑑賞の他、介護に役立つ情報提供を行った。	12月7日	1	60
市民企画会議「市民センターの講座を企画しませんか？」	市民企画員が主体的に地域課題解決に取り組み、市民センターと協働しながら企画立案し、市民企画講座「交流ひろば～遊ぶ・楽しむ・ひろげようみんなの縁」を開催・運営した。	6月21日～ 12月19日	8	38

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

向陽台学区連合町内会の松陵市民センターまつり参加への支援

向陽台学区は松陵市民センターの担当地域だが、館の立地関係から向陽台地区の方の講座等の参加は難しいものがあり、今まで市民センターまつりへの参加もなかった。このような状況で、市民センターとして令和元年度当初より向陽台学区の多くの行事に積極的に参加し、様々な活動支援等ができることをお伝えした結果、初めて市民センターまつりに参加することになった。結果として向陽台学区からは出店部門、展示部門への参加を得、出店していただいた「射的の出店」には両地区の大人だけでなく、小中高生も多く集まり交流が活発になった。また、ジュニアリーダー達の積極的な動きも手助けになった。その後も向陽台地区からの講座等への問い合わせが増加しており、向陽台地区から令和2年度にジュニアリーダーへの登録を希望する声も届いている。

寺岡市民センター

〔沿革〕

寺岡市民センターは、泉区北西部の大規模団地「泉パークタウン」の西部に位置し、緑豊かな自然が残る寺岡・紫山地区が担当地域である。

寺岡地区は、昭和 53 年より宅地造成され、団地としては成熟しており、高齢化が進んでいる。一方、紫山地区は、平成 6 年より宅地造成され、若い世代を中心に住民も年々増加しており、寺岡地区とは対照的な年齢構成になっている。団地周辺には宮城県図書館をはじめ、宮城大学や仙台白百合学園などの文教施設があるほか、平成 20 年には大型商業施設がオープンし、週末や休日には遠方からも人々が集まり賑わっている。また、紫山地域や第 6 期宅地の開発が更に進み住宅地が広がっていることから、今後もますます発展と活性化が期待される地域である。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	寺岡地域包括支援センター共催事業 ふるさとカフェ		
参加者	各回のテーマの県の出身者および興味のある方	延参加者	55 人
開催日	全 5 回 5 月 28 日（火）～11 月 30 日（土）		
協力者・協力団体	寺岡地域包括支援センター		
ねらい	県内外からの移住者が多い寺岡・紫山地区は、住民同士の結びつきが強くはない。そこで、地域住民が気軽に集い、情報交換ができる場を提供し、地域コミュニティの活性化を目指す。寺岡地域包括支援センターと共催することで、お互いの持つ地域の情報を共有・交換する。		
概要・成果	好評につき平成 30 年度からの継続講座となるが、令和元年度は宮城県も含めた東北 6 県をテーマにした各県別交流会を行った。この中で、県ゆかりのゲストを招いた催しを実施したり、ご当地クイズを取り入れ、参加者が気軽に、かつ積極的に講座に参加できるよう工夫し、「最近引きこもりがちでしたが、久しぶりに方言で会話が楽しかった」、「楽しかった。今後も継続してほしい」などの感想を得た。 地域包括支援センターを日頃利用しているが、市民センターの利用は初めて（もしくはその逆）の参加者も複数名おり、受講をきっかけに新たな居場所や情報を提供する機会を作ることができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
親子の広場	子育て世代のストレス解消と、親子が楽しみ・触れ合いながら、ヨガ・3B体操・コンサート・サッカー等を体験する学びの場を提供した。	5 月 21 日 6 月 6 日 11 月 29 日 2 月 13 日	4	185
子ども体験塾	小学生を対象にしたスクイーズづくり・ダンス・調理・デコレーションクッキーづくり等の体験学習の機会を提供した。	8 月 6 日 11 月 2 日 11 月 16 日 12 月 14 日	4	58
夏祭りへ行こう	地域活性化を目指し、盆踊り・着付けを学習し、実際に地域の夏祭りに足を運んでもらう講座を行った。	7 月 13 日 7 月 20 日 7 月 27 日	3	9
老壮大学「多聞塾」	高齢者がいきいきと元気であり続けるための生きがいづくりや交流を図る場を提供するため、一般教養、文化、健康、芸術、歴史等の講座を実施した。	5 月 9 日～ 2 月 6 日	10	443

寺岡・紫山地域魅力づくりプロジェクト『めざせ！みんなが集まる街づくり！2019』	地域諸団体と連携し、地域人材を活用し地域住民が交流し絆を強め、また地域活動をする人づくりにつなげる事業を実施した。①ウォーキング②ハイキング③デイキャンプ④出前講座⑤作品展。	4月13日～ 12月22日	13	600
★寺岡小学校社会学級共催事業	救急車が来るまでの応急手当てに必要な基礎知識のほか、胸骨圧迫・人工呼吸・AEDの使い方・止血法などの実技と講話を行った。	9月3日	1	20
寺岡・紫山市民文化祭	展示発表・ステージ発表・ダンスパーティ・カラオケ発表や催事など、地域団体やサークルの日頃の活動の成果発表を行い、地域住民の交流の場を提供した。	10月5日 10月6日	2	850
寺岡・紫山地域懇談会	市民センター事業を継続発展させるために、地域住民や市民センター利用団体と意見交換をして、地域情報・地域課題、また市民センターへの要望や評価を収集した。	7月30日 9月1日	2	29
市民企画会議「市民センターの講座を企画しよう！」	市民から企画員を募り、地域課題について話し合いと調査を重ね、講座の企画・運営を行った。	6月8日～ 2月24日	8	25
市民企画講座「てらさんぽ」	企画員が選定したウォークラリーコースを巡りながら、参加者が地域の魅力と感じるものを写真とコメントで挙げた。その後、集めた情報を冊子にまとめて地域へ還元した。	10月22日	1	1

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

寺岡小学校児童・寺岡中学校、将監中学校生徒の職場訪問・職場体験受入れ

寺岡小学校2年生・3年生の合計約60名がまちたんけんや地域調べの学習で来館した。市民センターで働いている職員やその役割、バリアフリー、補助避難所としての備蓄についてなどを学習した。

また、寺岡中学校2年生5名を2日間、1年生5名を1日間、将監中学校2年生3名を3日間、職場体験で受入れ、職員との共働を通して勤労の意義や大切さを、地域住民のサークル活動などの見学を通して社会教育の重要性などを学習した。その中で2年生が講座を中学生視線で自ら企画し、発表したことは、市民センター職員にとっても新たな刺激や気づきになった。

今後も小学校や中学校と連携して児童や生徒を受け入れ、市民センター職員や地域住民との交流などの体験を通じて、子どもたちが地域社会の一員としての自覚を持ち、職業観が醸成されるよう支援していく。

長命ヶ丘市民センター

〔 沿革 〕

長命ヶ丘市民センターは、平成 5 年 4 月に泉区 10 番目の市民センターとして開館した。その周囲は昭和 50 年代初めに造成された長命ヶ丘団地で形成されている。利用者の約 6 割が長命ヶ丘地区、約 2 割が近隣地区、残り 1 割が他地区の利用者となっており、地域に密着した市民センターといえる。地域利用団体の 34 サークルをはじめ、月に約 50 以上のサークルが活動している。

当市民センターは、子どもから高齢者まで幅広い年齢層の支持を得ながら、サークル活動はもとより、地域の生涯学習活動の拠点として定着しており、その役割と機能を大いに発揮している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業 ◎地域力創造支援事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	市民企画講座「長命ヶ丘五魂祭パレード」		
参加者	地域住民	延参加者	378 人
開催日	全 3 回 7 月 27 日(土) (昼の部・夜の部)、11 月 24 日 (日)		
協力者・協力団体	長命ヶ丘連合町内会、長命ヶ丘おやじの会		
ねらい	長命ヶ丘地域にある 5 つの地域資源（長命太鼓、長命音頭、長命ヶ丘劇団「愛の鐘」、ゆるキャラの歌「みんなずっと」、万灯神輿）は、地域の大切な財産である。一方、昨今は地域住民の高齢化等が進み、これらの資源を継承していくことが難しくなっている。そこで、5 団体が中心となり、「長命ヶ丘五魂祭」として、地域の夏まつりでパレードを実施し、団体の P R を行うことで、資源の継承につなげる。 また、この活動をきっかけに、各団体が連携して主体的に活動を行うことができるようになることを目指す。		
概要・成果	7 月の長命ヶ丘夏祭りにて、地域のメインストリートである「愛の鐘通り」を 5 団体や地域の小中学生がそれぞれの活動を P R しながら練り歩くパレードを実施した。同日夜には、夏祭りの舞台発表で活動紹介やパレードの報告も行った。当日は、多くの地域住民に足を運んでもらい、5 団体の活動を知ってもらう機会となった。 また準備段階から、地域のおやじの会や連合町内会などが一体となり、活動に取り組んだことで、地域全体で資源の継承に取り組む契機にもなった。 さらにこの活動をきっかけに、長命ヶ丘劇団「愛の鐘」が、11 月に行われた地域のもちつき大会で、小学生も巻き込み、朗読劇を披露するなど、団体が主体的に活動し、継承に取り組む土台を作ることができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
●長命ヶ丘保育所・児童センター・市民センター 3 館共催「子育て講座」	3 館共催で、子育て中の保護者の一助となる内容の講座を実施した。主に保育所・児童センターに来館する方々など、毎回多くの親子が参加し交流した。	6 月 13 日～ 12 月 12 日	5	290
フレンドスクール	泉館山高校家庭部との連携で「野菜入り米粉の手うちうどん」づくりを、また、地域講師の指導を受け自然素材を材料にクリスマスリースづくりを実施した。	7 月 30 日 12 月 7 日	2	26
長命大学	地域の高齢者を対象に社会教育、歴史、健康、防災などの講座を開催した。また交流会を開催し、受講生同士の交流を深めた。	5 月 16 日～ 2 月 20 日	10	575

みんなでアップ！健康寿命	仙台リハビリテーション専門学校と連携し、地域の高齢者を対象とした、認知症予防体操やウォーキング等の介護予防講座を開催した。	8月23日～ 9月20日	5	126
長命コンサート	地域住民を対象に第1回目はジャズ・ボサノバコンサート、第2回目はマリンバコンサートを開催した。	6月23日 11月2日	2	124
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画検討会	地域の各団体が連携して、子どもたちの健やかな育ちを促すための行事開催に向けて検討会を開催した。	4月6日 6月1日 7月6日 9月7日	4	65
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画会を経て企画する事業「学校に泊まろう」	学校や家庭ではできない体験を通して豊かな感性や生きる力を養う一助とするため、地域団体が主体となり、地域の小学生が学校に泊まり、サバめしづくりやドラマ缶風呂の体験を行った。	7月20日 7月21日	2	242
ロングライフヒルコミュニティ協議会との企画会を経て企画する事業「もちつき大会」	子供たちが臼と杵を使った餅つきを体験した。子どもたちにとって日本の伝統文化に触れるきっかけとなった。また、中学生ボランティアや地域の方々、地域団体との交流をもつ機会ともなった。	11月24日	1	132
◎地域力創造支援事業「目指そう！災害に強い長命ヶ丘」	地域諸団体との会議を重ね、地域総合防災訓練、長命ヶ丘小学校5年生児童対象「防災エンスショー」、地域住民対象の避難所運営ゲーム（HUG－S）を実施した。	4月18日～ 11月19日	13	1,300
市民企画会議「五魂祭を成功させよう！」	平成30年度に引き続き、長命ヶ丘の地域資源の継承に向けて、関係団体が企画員となり、地域資源をPRするパレード実施に向けて話し合った。	4月12日～ 11月24日	8	459
長命ヶ丘市民センターまつり	市民センター利用団体で組織した実行委員会によって開催する予定であったが、台風19号の影響により中止した。	【中止】 10月12日 10月13日	-	-
長命ヶ丘市民センター地域懇談会	地域内の団体や機関が集まる機会を通して活動状況や課題等について意見交換を行い、情報の共有を図るとともに、市民センターの運営や事業の改善の資とした。	8月22日 2月28日	2	35

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」の活動支援

おもちゃドクターボランティア「長命おもちゃ病院『エル』」は、平成29年度に実施した講座「おもちゃドクターボランティアフォローアップ研修」から立ち上がった団体である。

市民センターでは、毎月のセンターだよりやチラシで活動に関する広報をしたり、修理したおもちゃを持ち主に返す際の窓口になったりする形で活動支援を行い、地域の方々にサークルを知ってもらい、活動の幅を広げられるようにサポートしてきた。これらの取り組みにより、徐々に修理の依頼も増え、活動が活発になってきている。

松森市民センター

〔沿革〕

松森市民センターは平成 12 年 1 月、鶴が丘中学校区施設として泉かむり訪問看護ステーション（現・青葉訪問看護ステーション泉かむりサテライト）、コミュニティ防災センターと併設し、泉区内 11 番目の市民センターとして開館した。当市民センターは仙台市泉区の北東端に位置し、担当するのは、古くからの松森地区と昭和 40 年代から 50 年代にかけて開発された鶴が丘団地からなる地域である。

施設内は、バリアフリー仕様になっており、広々としたロビーのほか親子室・娯楽室・図書室を有し、市民活動室には印刷機が備えられ地域団体やサークル活動に寄与している。このような特性を生かしながら地域の生涯学習の拠点施設として開かれた親しみのある市民センターを目指している。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	複数年事業 松森・鶴が丘あったかサロン		
参加者	成人	延参加者	80 人
開催日	全 5 回 11 月 8 日（金）～12 月 6 日（金）		
協力者・協力団体	松森地域包括支援センター		
ねらい	高齢化が進む地域において、地域全体で主体的な介護予防活動について考えるきっかけとなるよう、地域住民を対象に気軽に参加できる運動講座を実施する。また、住民主体の介護予防活動を継続できるよう、サークル化を目指す。		
概要・成果	将来的にサークル化や地域で活動することをねらいとし、1 人でできる運動ではなく複数人で行う運動やゲームなど、他者とコミュニケーションをとりながら行う内容で実施した。受講者は他者との繋がりがもたらす心身の効果を実感しながら交流を深めていた。また、親が入所している介護施設で入所者にマッサージをしてあげるなど、楽しさや効果を実感した参加者が自主的に行動している事例も見られた。高齢者が多いため、サークル化と自主活動へつなげるには継続支援が必要と判断し、令和 2 年度の目標とした。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
子育てサロン「こどもの杜」	未就学児親子を対象に、①親子でサッカーにチャレンジ（2～3 歳児対象）②親子で 3 B 体操を楽しもう（1 歳以上対象）③親子でふれあいヨガタイム（5 ヶ月～1 歳半対象）④親子クッキング（2 歳以上対象）を実施した。	6 月 11 日 12 月 20 日 1 月 23 日 2 月 27 日	4	98
ジュニアちゃれんじ	小学生親子を対象に「バルーンアートをつくろう」「わくわく科学実験 2019」「スポーツ吹き矢を体験しよう」「おいしくたべる・さかなのひみつ」「ホバークラフトをつくろう」を実施した。	6 月 22 日～ 2 月 8 日	5	97
命をつなぐ防災講座	松森小学校、鶴が丘小学校児童を対象に防災・減災セミナーを実施した。	6 月 25 日 7 月 4 日	2	94
松森ほっとサロン	鹿島町内会・近隣の介護施設・松森地域包括支援センターと共催で「音楽療法」「シナプソロジー」「足つぼ」「指ヨガ」「音楽」「漢方養生入門①②」「軽体操」を実施した。	6 月 12 日～ 2 月 26 日	8	144

城前大学	地域の高齢者に学習の場を提供するために①医療講話②金融犯罪防止講話③館外学習④コンサート⑤お天気講話⑥脳トレ体操⑦歴史講話⑧食育講話⑨映像で振り返る仙台を実施した。	5月16日～ 2月20日	9	447
松森ハートフルタイム	落語、素ばなし、吹奏楽コンサート、ギターコンサートといった、気軽に立ち寄れるイベントを開催して地域交流の機会を提供した。	7月13日 11月28日 12月15日 2月15日	4	244
松森市民センターまつり	市民センターで活動するサークルや地域団体の学習発表の場として、またボランティア団体、福祉団体、地域住民の交流の場として実施予定であったが、台風19号の接近により中止した。	【中止】 10月13日	-	-
松森・鶴が丘地域懇談会	地域の団体や機関の代表者と活動状況や課題について情報交換を行った。	5月31日 12月7日	2	36
市民企画会議「暮らしのシェイプアップ」	地域の高齢者自らが地域の現状や日常生活から気付く課題を把握・共有し、今後も地域でより良く暮らしていく一助となるような講座について、市民センターと共同で検討した。	5月22日～ 1月24日	8	36
暮らしのシェイプアップ	市民企画会議を経て企画された講座である「本の譲渡会」「家に眠る毛糸のリサイクル」「おひとりさまでも簡単お献立」を開催した。	11月1日 12月13日 1月18日	3	292

【令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例】

松森市民センター図書室ボランティアの活動支援

松森市民センター図書室ボランティアは、松森市民センター内の図書室における本の貸出しや整理などを主な活動として行っている。令和元年度は図書室の周知や利用増加を目標に活動し、市民企画員として本の譲渡会を企画運営して多くの本が新たな読み手へつながった。これらの図書ボランティアの活動により、少しずつではあるが、図書室についての周知が進み、利用者などがボランティアへの関心を寄せて、新たに活動に加わるメンバーを迎えることができた。今後も市民センターでは、定例会に参加して課題を共有し、解決へ向けての話し合いをするなど、活動の支援を継続していきたい。

桂市民センター

〔沿革〕

桂地区は仙台市の北西部に位置し、緑に囲まれた住宅と高層マンションで構成される新興住宅団地であるが、開発から30年以上経過し、徐々に高齢化が進みつつある。また、将監地区は昭和40年代に開発された歴史の古い団地で年々高齢化が進んでいる。桂市民センターは、この両地区を受け持っている。

当市民センターは児童センターとの併設館であり、利用者の年齢層は乳幼児から高齢者までと幅広い。平成13年12月の開館以来、これらのさまざまな年齢層の地域住民と地域団体を意識した事業を展開し、生涯学習の拠点を目指して取り組んでいる。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	かつら情報局		
参加者	地域の方どなたでも	延参加者	45人
開催日	全6回 6月2日（日）～2月2日（日）		
協力者・協力団体	桂連合町内会、まちづくり推進部泉区中央市民センター、将監中学校		
ねらい	桂地域諸団体では、担当役員の高齢化に伴い役員の担い手不足や、役員の多忙化などが共通の問題となっている。地域住民の地域への関心を高め、地域への活動参画を促すため、地域に向けた情報発信事業と交流事業、地域貢献を目指す人々の支援を行い、地域コミュニティの活性化を図る。		
概要・成果	「地域を担う人づくり支援事業」として、まちづくり推進部泉区中央市民センターと連携し、地域住民の地域活動参画へのつながりを深める取り組みを行った。町内会のICT化による情報発信の検討や、市民センターロビーを活用した地域行事、地域団体の活動状況のモニターでの放映など、情報発信を試行した。また、地域の小中学生親子対象の講座「Toy ドローンプログラミング講座」では、町内会役員が講座の講師を務め、地域の中学校の先生がボランティアとして加わるなど、多数の地域の方が講座に関わった。小学生親子、中学生、大学生など幅広い世代の地域住民が参加し、顔と顔の見える関係が深まり地域交流の場となった。講座を通して地域住民の地域への関心が高まり、令和2年度の活動への意欲向上につなげることができた。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
桂の森のキッズランド	地域の乳幼児と保護者がおはようシアターの体験型シアター「おもちゃばこ」を体験鑑賞し、登場キャラクターと一緒に、手遊びや体操、ふれあい遊びを楽しんだ。	9月18日	1	196
桂ジュニアカレッジ	小学生が水遊びや魚の解剖、焼き芋会等を通して親子、家族、地域とのつながりを強め、子どもの豊かな情操と社会性を育む一助とした。	7月24日 11月9日 11月21日	3	139
サークル体験会	地域住民へ生涯学習の場としてそば打ち体験やバルーンアートなど13団体のサークル体験会を開催し、市民の生涯学習への意欲を高めるきっかけとした。	7月24日～ 1月15日	11	17
桂友くらぶ（老壮大学）	高齢者を対象に、色を使ったワークショップ、文学（館外学習）、食や住、運動、健康、演芸、音楽、メンタルヘルス等、多様なテーマで定期的に学ぶ機会を提供した。	5月9日～ 2月13日	9	420

防災・減災を学ぼう！	地域の防災環境を考える講座として「活断層～利府～長町線断層帯～について」の講話と「災害想像ゲームD I G」のワークショップ体験、発災時のライフラインを考える講座として「水の確保」と「地域の共助」についての講話を実施し、地域住民が改めて防災への取組みに関心を持つきっかけ作りとした。	8月31日 10月26日 11月30日	3	51
桂ロビーコンサート	地域団体と共催の「津軽三味線・和太鼓コンサート」、高齢世代が懐かしむ「フォークコンサート」は、幅広い世代が音楽に親しむ機会となった。児童センターと共催の「クリスマスコンサート」は、ハンドベルクラブの発表と室内楽アンサンブルで、親子が楽しい時間を過ごした。	11月2日 12月7日 2月15日	3	233
桂文化祭	市民センター利用サークル、桂連合町内会、桂児童センターを構成メンバーとした実行委員会形式でステージ、展示発表、各種イベント、児童センターまつり、お楽しみ抽選会等を実施した。近隣の中小高校生の学習成果発表の場、地域住民の交流の場となった。	10月19日	1	769
男性地域デビュー講座	地域の方が講師となり、男性を主な対象に健康マージャン、男の料理、家庭菜園入門、簡単D I Yの内容で実施した。参加者同士が交流しながら、知識と技を共有し学びあう場ともなった。	6月23日～ 11月19日	6	87
桂地域懇談会	地域課題として、少子高齢化に伴う高齢者への支援や地域と子どもの繋がりを深める方策について意見交換を行った。	7月26日 3月3日	2	22
桂小学校区社会学級連携事業企画会	地域に目を向け、地域の将来を見据えた活動を積極的に行っている桂小学校区社会学級と連携することで地域の現況に沿った講座を企画・運営した。	6月11日～ 11月27日	5	25
市民企画会 かつらよもやまごとかい	音楽を通して若者と高齢者の相互理解を図ることを目的とし、市民センターのロビーを活用した世代間交流コンサートを企画した。コンサートは3月に計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和元年度は中止とした。	6月5日～ 2月29日	19	64
楽しく「みどりびと」をめざそう	桂島緑地や身近な公園の散策、地域の自然素材を用いた苔玉づくり、家庭でできる簡単な庭づくりなど、緑に関する様々な講座を実施した。	5月30日～ 12月19日	6	63
桂小学校区社会学級連携事業 糀の力を再発見！	健康に対する意識が高い住民に対し、健康効果が期待できる日本の伝統食・発酵食品の「糀」について学ぶ機会を提供した。	11月27日	1	36
市民企画講座「桂！おん」	市民企画会を経て企画された異世代間交流コンサートを開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和元年度は中止とした。	【中止】 3月14日	—	—

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

「桂島緑地未来プロジェクト」の活動支援

複数年事業を経て地域団体として発足した桂島緑地未来プロジェクトは、定期的に桂島緑地公園の自然保護、整備活動を行っている。市民センターと共催した9月のキャンペーン「アヤメ園の再生」活動では、将監中学校の生徒を含め、地域住民が延べ65人参加した。市民センター職員が受付や作業補助を行い、参加者と情報交換をしながら地域住民同士の交流を図った。12月には、桂島緑地の未来を考えるワークショップ「桂島緑地夢物語り作り」を開催し、桂島緑地をより魅力ある憩いの場とするにはどうすれば良いかなど、地域住民から幅広い意見を聞く場を提供することができた。

南中山市民センター

〔沿革〕

南中山市民センターは、平成 15 年 3 月をもって閉館した「泉中高年齢労働者福祉センター（サンライフ泉）」の建物に改修を行い、平成 15 年 11 月 13 日に開館した。敷地内にはコミュニティ防災センターを併設している。

当市民センターのエリアは、南中山、北中山、西中山の 3 連合町内会傘下 16 町内会で、地域の活動拠点として、地域団体やサークルなどに広く活用されている。

〔★震災を踏まえた事業 ●区役所との連携事業〕

〔特色ある事業〕

事業名	まなびねっと「いずみ中山」交流事業		
参加者	南中山・北中山小学校の児童と保護者	延参加者	68 人
開催日	全 4 回 6 月 22 日（土）、6 月 23 日（日）、12 月 21 日（土）、2 月 9 日（日）		
協力者・協力団体	南中山小学校おやじの会、南中山小学校区体育振興会、南中山地区社会福祉協議会 北中山小学校おやじの会、北中山小学校区体育振興会		
ねらい	いずみ中山地域の親子を対象に、地域団体と連携し、自然体験や伝統文化に触れる機会を提供することで、子どもたちの感性を磨き、創造力を養う。また、地域の人々が交流事業に共に取り組むことで人と人とのつながりを深め、子どもたちの健全育成の一助とする。		
概要・成果	まなびねっと「いずみ中山」推進委員会で企画した事業で、6 月に子どものための大人の川遊び講座、12 月は門松作り、2 月は雪山であそぼうと体験学習を基にした小学生やその保護者の交流事業を展開した。 専門家の指導のもと、6 月の大人の川遊び講座では、自然活動を行ううえでの危険や安全対策など、子どもたちが安全に川遊び体験をするための講座を 2 日間開催した。 12 月はお正月飾り（ミニ門松）を作り、併せてお正月飾りの謂れを学んだ。竹や松などの材料は、推進委員やボランティアが地域の方の好意でいただいて集め、土台となる缶は給食センターの不要品を利用した。竹を切ることや、土台となる缶にこもを巻き縄を結ぶという作業もなかなか難しかったが、時間内に立派なミニ門松が出来上がった。 2 月の雪山で遊ぼうでは、記録的な雪不足ではあったが、開催日には雪山の散策やそり遊びができる位の積雪もあり、冬の泉ヶ岳の自然観察を行うことができた。 地域の団体と連携・共催することにより、地域全体で子育てをするという意識が高まってきている。さらに、親子で参加する事業のため、子どもたちの交流や成長を促すだけでなく、地域間の交流や、家庭の中でのコミュニケーションを深める一助にもなった。		

〔令和元年度（地区館）事業実績〕

事業名	事業の主な内容	実施日・期間	回数	延参加者
おやこほっとタイム	子育て世代へ向けた学習機会の提供と地域の子育て環境の充実を図るため、託児付きとし、2 つの児童センターとの連携で①ハーバリウム作り②おやつクッキング③親子でリトミック④親子で 3 B 体操を開催した。	5 月 30 日 6 月 6 日 9 月 12 日 9 月 26 日	4	104
こどもワンダークラブ	地域の方を講師に迎え、小学生を対象にした「スポーツ吹矢に挑戦しよう！」「クッキングにチャレンジしよう！」といった体験学習を実施した。	10 月 26 日 11 月 16 日 1 月 18 日	3	50
インリーダー研修会	次年度の子ども会活動の中心となる児童が活動に必要な知識やスキルを学び、また、その保護者も子ども会活動の意義や世話人の役割を学んだ。	11 月 30 日	1	34

わが町再発見！いずみ中山の秘境を探しましょう	地域を流れる七北田川や、中山街道の痕跡を辿り、かつての地域の様子を地形から学んだ。	10月3日～ 11月14日	5	107
ほがらかシニア塾	地域の高齢者を対象に、心身共に健康で豊かな生活が送れるよう様々な分野で講座を開催した。	5月17日～ 2月21日	9	553
市民企画講座 いずみ中山で癒しのひとときを	健康に関する内容で、タッピングタッチ、笑いヨガ&ハンドマッサージ体験、トーンチャイムコンサートを開催した。	11月8日 11月22日 12月6日 1月28日	4	100
まなびねっと「いずみ中山」推進委員会	地域の子どもたちの交流や、健やかな成長を促すために、地域で活動している諸団体と共に推進委員会を開催し、事業の企画や運営を行った。	4月20日～ 2月29日	6	27
地域防災講座	南中山地区の各町内会から役員等及び公募にて集まった方々に対し防災クロスロードゲームを実施した。	8月18日	1	15
いずみ中山フェスタ	地域の諸団体や市民センターを拠点に活動しているサークルの舞台発表、作品展示、出店、サークル体験を行い、地域の幅広い年代が集い交流の場となった。	10月19日	1	800
地域懇談会	地域の町内会の役員や子どもに関わる団体の役員等の方々から、市民センターの事業「学びを通じた人づくり」「地域づくりに繋がる人づくり」などについて様々な意見情報交換を行った。	5月24日 11月13日	2	14
図書ボランティア養成講座	図書ボランティア「虹」の図書活動の充実とスキルアップを図るため、他施設の見学、POPの書き方、本の修繕等、実技を交えた内容で開催した。	5月16日～ 2月20日	6	45
いずみ中山市民企画会議	市民企画員により、地域課題やニーズが積極的に話し合われ、地域の現状を共有し把握することができた。また、「いずみ中山で癒しのひとときを」を企画・実施した。	6月9日～ 12月18日	11	33

〔令和元年度（地区館）活動支援・コーディネート等の成果例〕

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っぷ」への活動支援

ジュニアリーダーサークル「南中山巣子っぷ」に所属する中学生から高校生の15名のメンバーが地域の子ども会や町内会の行事で様々なボランティア活動を行っている。当市民センターでは月に一回行われる定例会の準備や、地域団体からの活動要請の連絡や参加者の調整、事務手続き、ジュニアリーダー向けの研修の案内など、サークル活動の取りまとめ役を担い、活動の支援を行っている。

また、市民センターは、子ども会や地域のまつりなどで行うゲームの進め方やバルーンアートなどの製作の練習にも使われており、サークルの話し合いや情報交換の場となっている。